

令和 3 年度業務実績等報告書 別冊

小項目別の業務実績及び自己評価

目 次

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 県立病院が担うべき医療等の提供

(1) 地域医療の提供	1
(2) 高度・専門医療の提供	14
(3) 災害医療等の提供	39
(4) 認知症の専門医療の提供	42
(5) 介護サービスの提供	45

2 地域連携の推進

(1) 地域医療構想への対応	49
(2) 地域包括ケアシステムの推進	52
(3) 地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進	58

3 医療従事者の養成と専門性の向上

(1) 県内医療に貢献する医師の確保・養成	64
(2) 機構職員の養成	67
(3) 県内医療技術者の技術水準の向上への貢献	73
(4) 信州木曾看護専門学校の運営	79

4 医療の質の向上に関すること

(1) より安全で信頼できる医療の提供	83
(2) 医療等サービスの一層の向上	87
(3) 先端技術の活用	93
(4) 信州大学等との連携	96
(5) 医療に関する研究及び調査の推進	99

第2	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1	業務運営体制の強化	103
2	働き方改革への対応	109
3	職員の勤務環境の向上	116
第3	予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	
1	経常黒字の維持	122
2	経営基盤の強化	
	（1）収益の確保	127
	（2）費用の抑制	138
第4	その他業務運営に関する事項	
1	コンプライアンスの推進と適切な情報管理	144
2	施設整備及び医療機器に関する事項	147
3	コロナ禍で取組む事項	150

◎ 評定区分

評定区分	判断の目安となる業務実績
S	年度計画を大幅に上回って達成している（定量的目標においては対年度計画値の120%以上）
A	年度計画を達成している（定量的目標においては対年度計画値の100%以上120%未満）
B	年度計画を概ね達成している（定量的目標においては対年度計画値の80%以上100%未満）
C	年度計画を下回っており、改善を要する（定量的目標においては対年度計画値の60%以上80%未満）
D	年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する（定量的目標においては対年度計画値の60%未満）

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 県立病院が担うべき医療等の提供

(1) 地域医療の提供

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

信州医療センター、阿南病院及び木曽病院では、地域の医療需要に応じた初期・二次医療サービスを提供するとともに、地域の救急病院として救急患者の受入れを行った。また、地域において各病院が担うべき在宅医療（訪問診療等）や各種検診業務についても積極的に実施した。

信州医療センターは、在宅医療において24時間365日緊急連絡対応体制をとり、患者の状況に応じた必要時の緊急訪問を積極的に行った。また、産科医療に関しては、須坂市と連携した妊産婦をサポートして産後うつを予防する「須坂モデル」の取り組みなど、地域で安心して子育てができる環境づくりのための産後ケア事業を実施した。

木曽病院は、急性期医療を担う木曽郡内唯一の病院として、救急告示医療機関、災害拠点病院、へき地医療拠点病院等の指定を受け、24時間365日体制で救急医療を提供した。また、在宅療養中の患者ニーズに対応するため、在宅療養支援病院として緊急時の連絡体制並びに24時間往診及び24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保した。また、医師・看護師・薬剤師等によるへき地巡回診療を定期的実施し、無医地区の医療の提供に貢献した。

阿南病院は、外来診療体制の充実に努めるとともに、令和3年4月から診療所の医師が不在となった売木村へ医師派遣を行った。また、急性期から回復期、慢性期に至るまで幅広く患者層を受入れ、救急、訪問、へき地診療、施設の後方支援等を担った。また、地域医療総合支援センターを中心に、訪問診療、看護、リハビリ、服薬指導等を積極的に実施し、在宅医療の充実に努めた。

こども病院は、地域医療支援病院として地域の医療機関と連携し、成人を対象とした放射線治療等により、高度医療機器の共同利用を推進した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績																																																	
		病院	評定	取組結果及び取組の効果																																															
第1 1(1) 1	ア 地域医療 各病院は、地域の医療需要に応じた診療体制を整備するとともに、診療体制の充実を図る。	信州	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>時間外救急患者数</td> <td>5,747人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4,715人</td> <td>121.9%</td> </tr> <tr> <td>救急車受入台数</td> <td>1,716台</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,482台</td> <td>115.8%</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>1,600件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,683件</td> <td>95.1%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	時間外救急患者数	5,747人	—	—	4,715人	121.9%	救急車受入台数	1,716台	—	—	1,482台	115.8%	手術件数	1,600件	—	—	1,683件	95.1%																		
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																										
				時間外救急患者数	5,747人	—	—	4,715人	121.9%																																										
				救急車受入台数	1,716台	—	—	1,482台	115.8%																																										
				手術件数	1,600件	—	—	1,683件	95.1%																																										
				<ul style="list-style-type: none"> ・地域の救急病院として、引き続き救急医療の提供を行った。 ・コロナ感染病床確保のため、入院制限を行った。 																																															
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間ドック（日帰り）</td> <td>2,091件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,913件</td> <td>109.3%</td> </tr> <tr> <td>〃（1泊2日）</td> <td>130件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>128件</td> <td>101.6%</td> </tr> <tr> <td>健康診断</td> <td>1,624件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,497件</td> <td>108.5%</td> </tr> <tr> <td>がん検診</td> <td>2,083件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,892件</td> <td>110.1%</td> </tr> <tr> <td>妊婦健診</td> <td>5,171件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4,508件</td> <td>114.7%</td> </tr> <tr> <td>予防接種（コロナワクチン除く）</td> <td>4,405件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4,823件</td> <td>91.3%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年比	人間ドック（日帰り）	2,091件	—	—	1,913件	109.3%	〃（1泊2日）	130件	—	—	128件	101.6%	健康診断	1,624件	—	—	1,497件	108.5%	がん検診	2,083件	—	—	1,892件	110.1%	妊婦健診	5,171件	—	—	4,508件	114.7%	予防接種（コロナワクチン除く）	4,405件	—	—	4,823件	91.3%
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年比																																										
				人間ドック（日帰り）	2,091件	—	—	1,913件	109.3%																																										
				〃（1泊2日）	130件	—	—	128件	101.6%																																										
健康診断	1,624件	—	—	1,497件	108.5%																																														
がん検診	2,083件	—	—	1,892件	110.1%																																														
妊婦健診	5,171件	—	—	4,508件	114.7%																																														
予防接種（コロナワクチン除く）	4,405件	—	—	4,823件	91.3%																																														

2	同上	駒ヶ根	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>時間外救急患者件数</td> <td>226件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>272件</td> <td>83.1%</td> </tr> <tr> <td>措置入院件数</td> <td>23件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>20件</td> <td>115.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・第2期信州保健医療総合計画において、精神科救急の常時対応施設として位置づけられており、24時間365日重症精神科急性期患者の受入れを行った。</p> <p>・時間外救急患者件数は減少したが、措置入院件数は前年度に比べ3件増加した。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	時間外救急患者件数	226件	—	—	272件	83.1%	措置入院件数	23件	—	—	20件	115.0%																																									
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																						
時間外救急患者件数	226件	—	—	272件	83.1%																																																										
措置入院件数	23件	—	—	20件	115.0%																																																										
3	同上	阿南	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>時間外救急患者数</td> <td>1,019人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>932人</td> <td>109.3%</td> </tr> <tr> <td>救急車受入台数</td> <td>223件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>250件</td> <td>89.2%</td> </tr> <tr> <td>ドクターヘリ受入台数</td> <td>1件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1件</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>86件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>71件</td> <td>121.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・引き続き、急性期から回復期、慢性期に至るまで幅広く患者層を受入れ、救急、訪問、へき地診療、施設の後方支援等を担った。新型コロナウイルス感染症の影響を受けた前年度より時間外患者は増加したが、救急車の受入は減少した。また、コロナ対応と並行し一般診療を行ったことにより手術件数は増加した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小児科</td> <td>診療日数</td> <td>12日</td> <td>—</td> <td>12日</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>患者数</td> <td>134人</td> <td>—</td> <td>98人</td> <td>136.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・患者の利便性・安心感の向上と地域からの信頼感の醸成を図るため、毎月第1日曜日の小児科日曜診療を実施し住民のニーズに応えた地域医療を提供した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	時間外救急患者数	1,019人	—	—	932人	109.3%	救急車受入台数	223件	—	—	250件	89.2%	ドクターヘリ受入台数	1件	—	—	1件	100.0%	手術件数	86件	—	—	71件	121.1%	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年比	小児科	診療日数	12日	—	12日	100%	患者数	134人	—	98人	136.7%	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年比						
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																						
				時間外救急患者数	1,019人	—	—	932人	109.3%																																																						
				救急車受入台数	223件	—	—	250件	89.2%																																																						
				ドクターヘリ受入台数	1件	—	—	1件	100.0%																																																						
				手術件数	86件	—	—	71件	121.1%																																																						
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年比																																																						
小児科	診療日数	12日	—	12日	100%																																																										
	患者数	134人	—	98人	136.7%																																																										
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年比																																																										

				人間ドック（日帰り）	242件	—	—	212件	114.2%
				生活習慣病予防検診	269件	—	—	256件	105.1%
				脳ドック（フル、シンプル、オプション）	65件	—	—	73件	89.0%
				健康診断	1,069件	—	—	1,097件	97.4%
				がん検診	984件	—	—	1,004件	98.0%
				予防接種（コロナワクチン除く）	2,441件	—	—	3,686件	66.2%
				・新型コロナウイルス感染症の影響による受入の一時中止もあり、全体としては、若干の減少となった。予防接種は、インフルエンザワクチンの入荷減により大幅に減少した。					
4	同上	木曾	A						
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				時間外救急患者数	3,284人	—	—	2,784人	118.0%
				救急車受入台数	1,012件	—	—	972件	104.1%
				ドクターヘリ受入台数	0件	—	—	0件	—
				手術件数	686件	—	—	536件	128.0%
				・急性期医療を担う木曾医療圏唯一の病院として、救急告示医療機関、災害拠点病院、へき地医療拠点病院等の指定を受け、24時間365日体制で全診療科がオンコール体制を敷き、救急医療を提供した。					
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年比
				人間ドック（日帰り）	515件	—	—	452件	113.9%
				健康診断	722件	—	—	690件	104.6%
				がん検診	401件	—	—	408件	98.3%
				妊婦健診	729件	—	—	731件	99.7%
				予防接種（コロナワクチン除く）	2,930件	—	—	3,652件	80.2%

			※人間ドックは日帰りのみ ・予防接種は、コロナによる受診控えによる影響により小児の予防接種が減少した。																																																												
5	同上	こども	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>3,447人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3,199人</td> <td>107.8%</td> </tr> <tr> <td>救急車受入台数</td> <td>319件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>271件</td> <td>117.7%</td> </tr> <tr> <td>ドクターヘリ受入台数</td> <td>18件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>16件</td> <td>112.5%</td> </tr> <tr> <td>ドクターカー出動回数</td> <td>183件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>182件</td> <td>100.5%</td> </tr> <tr> <td>コンパクトドクターカー出動回数</td> <td>58件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>50件</td> <td>116.0%</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>1,667件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,683件</td> <td>99.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(ドクターヘリ受入台数：ピックアップ含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間の救急担当医配置などの救急医療体制をとる中で、3,447人の救急患者の受入や、ドクターカー（コンパクトドクターカーを含む）241回の出動を行い、長野県の小児高度救急医療及び地域小児救急の後方支援機能を果たした。 ・コンパクトドクターカーを「送り搬送」を中心に運用し、病院間連携及び搬送事業体制の充実・強化が図られた。 ・救急患者数、救急車受入台数は、新型コロナウイルス感染拡大による影響から回復傾向となり前年度を上回ったが、新型コロナウイルス流行前の水準には戻っていない。 ・当院PICU（小児集中治療室）と県下5地域の地域中核病院との間で、それぞれ症例検討会議を開催し、病院間連携の強化及び長野県における小児重症治療の質の向上に努めた。 ・手術件数については、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言、蔓延防止措置の影響を受けて県外患者数の減少があり、合計件数では前年度を下回った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	救急患者数	3,447人	—	—	3,199人	107.8%	救急車受入台数	319件	—	—	271件	117.7%	ドクターヘリ受入台数	18件	—	—	16件	112.5%	ドクターカー出動回数	183件	—	—	182件	100.5%	コンパクトドクターカー出動回数	58件	—	—	50件	116.0%	手術件数	1,667件	—	—	1,683件	99.0%	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年比						
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																										
救急患者数	3,447人	—	—	3,199人	107.8%																																																										
救急車受入台数	319件	—	—	271件	117.7%																																																										
ドクターヘリ受入台数	18件	—	—	16件	112.5%																																																										
ドクターカー出動回数	183件	—	—	182件	100.5%																																																										
コンパクトドクターカー出動回数	58件	—	—	50件	116.0%																																																										
手術件数	1,667件	—	—	1,683件	99.0%																																																										
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年比																																																										

				妊婦健診	3,597件	－	－	3,697件	97.3%																														
				予防接種（コロナワクチン除く）	331件	－	－	367件	90.2%																														
				・妊婦健診、予防接種ともに前年度比で若干の減少となった。																																			
6	【在宅医療件数 （訪問診療・訪問看護・訪問リハ）】 （単位：件）	信州	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問診療</td> <td>214件</td> <td>260件</td> <td>82.3%</td> <td>238件</td> <td>89.9%</td> </tr> <tr> <td>訪問看護</td> <td>4,226件</td> <td>4,200件</td> <td>100.6%</td> <td>4,430件</td> <td>95.4%</td> </tr> <tr> <td>訪問リハビリ</td> <td>3,836件</td> <td>4,300件</td> <td>89.2%</td> <td>4,479件</td> <td>85.6%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>8,276件</td> <td>8,760件</td> <td>94.5%</td> <td>9,147件</td> <td>90.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・訪問看護では、新型コロナウイルス感染症拡大、在宅看取りの減少、療養者の状態悪化による入院が重なり利用者が減少した。新規の受け入れに努めた。</p> <p>・訪問リハビリでは、産育休の取得のため、9月からスタッフが1.5人減り訪問件数が減少したが、新規の受け入れに努めた。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	訪問診療	214件	260件	82.3%	238件	89.9%	訪問看護	4,226件	4,200件	100.6%	4,430件	95.4%	訪問リハビリ	3,836件	4,300件	89.2%	4,479件	85.6%	計	8,276件	8,760件	94.5%	9,147件	90.5%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																		
訪問診療	214件	260件	82.3%	238件	89.9%																																		
訪問看護	4,226件	4,200件	100.6%	4,430件	95.4%																																		
訪問リハビリ	3,836件	4,300件	89.2%	4,479件	85.6%																																		
計	8,276件	8,760件	94.5%	9,147件	90.5%																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州</td> <td>8,829</td> <td>8,760</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標	信州	8,829	8,760																																
病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																																					
信州	8,829	8,760																																					
7	同上 （単位：件）	駒ヶ根	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護</td> <td>1,794件</td> <td>1,936件</td> <td>92.7%</td> <td>1,932件</td> <td>92.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・新型コロナウイルス感染対策を講じながら、訪問看護を継続したが、訪問間隔の延長、利用者の入院、新規導入者の転院等により、件数が減少した。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	訪問看護	1,794件	1,936件	92.7%	1,932件	92.9%																		
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																		
訪問看護	1,794件	1,936件	92.7%	1,932件	92.9%																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駒ヶ根</td> <td>1,682</td> <td>1,936</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標	駒ヶ根	1,682	1,936																																
病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																																					
駒ヶ根	1,682	1,936																																					

8	<p>阿南病院及び木曽病院は、関係機関と連携し在宅医療を提供する中で、地域包括ケアシステムの中核としての役割を果たす。</p> <p>【在宅医療件数（訪問診療・訪問看護・訪問リハ）】 (単位：件)</p> <table border="1" data-bbox="237 480 757 624"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阿南</td> <td>2,104</td> <td>4,010</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標	阿南	2,104	4,010	阿南	A	<table border="1" data-bbox="909 236 2049 536"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問診療</td> <td>302件</td> <td>250件</td> <td>120.8%</td> <td>313件</td> <td>96.5%</td> </tr> <tr> <td>訪問看護</td> <td>2,767件</td> <td>2,900件</td> <td>96.4%</td> <td>2,963件</td> <td>93.3%</td> </tr> <tr> <td>訪問リハビリ</td> <td>1,006件</td> <td>830件</td> <td>121.2%</td> <td>843件</td> <td>119.3%</td> </tr> <tr> <td>訪問薬剤指導</td> <td>25件</td> <td>30件</td> <td>83.3%</td> <td>28件</td> <td>89.3%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,100件</td> <td>4,010件</td> <td>102.2%</td> <td>4,147件</td> <td>98.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・地域医療総合支援センターを中心に、訪問診療、看護、リハビリ、服薬指導等を積極的に実施し、在宅医療の充実を図った。</p> <p>・新型コロナウイルスの感染拡大により、訪問リハビリ以外の件数は減少した。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	訪問診療	302件	250件	120.8%	313件	96.5%	訪問看護	2,767件	2,900件	96.4%	2,963件	93.3%	訪問リハビリ	1,006件	830件	121.2%	843件	119.3%	訪問薬剤指導	25件	30件	83.3%	28件	89.3%	計	4,100件	4,010件	102.2%	4,147件	98.9%
病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																																												
阿南	2,104	4,010																																												
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																									
訪問診療	302件	250件	120.8%	313件	96.5%																																									
訪問看護	2,767件	2,900件	96.4%	2,963件	93.3%																																									
訪問リハビリ	1,006件	830件	121.2%	843件	119.3%																																									
訪問薬剤指導	25件	30件	83.3%	28件	89.3%																																									
計	4,100件	4,010件	102.2%	4,147件	98.9%																																									
9	<p>同上 (単位：件)</p> <table border="1" data-bbox="237 770 757 914"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木曽</td> <td>5,438</td> <td>5,500</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標	木曽	5,438	5,500	木曽	A	<table border="1" data-bbox="909 770 2049 1018"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問診療</td> <td>559件</td> <td>700件</td> <td>79.9%</td> <td>552件</td> <td>101.3%</td> </tr> <tr> <td>訪問看護</td> <td>4,254件</td> <td>4,000件</td> <td>106.4%</td> <td>4,169件</td> <td>102.0%</td> </tr> <tr> <td>訪問リハビリ</td> <td>1,027件</td> <td>800件</td> <td>128.4%</td> <td>840件</td> <td>122.3%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5,840件</td> <td>5,500件</td> <td>106.2%</td> <td>5,561件</td> <td>105.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・在宅療養支援病院として、緊急時の連絡体制並びに24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保した。</p> <p>・地域の高齢化及び住宅でのターミナルケア等の患者のニーズに対応するため、24時間365日訪問体制の維持等、在宅医療を積極的に展開した。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	訪問診療	559件	700件	79.9%	552件	101.3%	訪問看護	4,254件	4,000件	106.4%	4,169件	102.0%	訪問リハビリ	1,027件	800件	128.4%	840件	122.3%	計	5,840件	5,500件	106.2%	5,561件	105.0%						
病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																																												
木曽	5,438	5,500																																												
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																									
訪問診療	559件	700件	79.9%	552件	101.3%																																									
訪問看護	4,254件	4,000件	106.4%	4,169件	102.0%																																									
訪問リハビリ	1,027件	800件	128.4%	840件	122.3%																																									
計	5,840件	5,500件	106.2%	5,561件	105.0%																																									

10	<p>【在宅医療件数（訪問診療・訪問看護・訪問リハ）】 （単位：件）</p> <table border="1" data-bbox="235 288 763 432"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども</td> <td>—</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標	こども	—	100	こども	D	<table border="1" data-bbox="907 236 2056 632"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問診療 (患者数)</td> <td>37件 (9人)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>45件 (7人)</td> <td>82.2% (128.6%)</td> </tr> <tr> <td>訪問リハビリ (患者数)</td> <td>7件 (3人)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>9件 (3人)</td> <td>77.8% (100%)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>44件 (12人)</td> <td>100件 (—)</td> <td>44.0% (—)</td> <td>54件 (10人)</td> <td>81.5% (120%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・令和3年度訪問診療新規患者は3人、訪問リハビリテーション新規患者は3人。 ・今年度の新規訪問診療患者は3人と増加したが、訪問件数は減少した。要因としては訪問診療対象患者の病状が不安定なため入退院を繰り返し、訪問診療がキャンセルになったケースがあったためである。 ・引き続き地域で訪問診療を必要とする医療ケア児に対するサービスを提供、拡張していく。 ・コロナ禍のため、地域中核病院、開業医等への小児在宅ケアの推進のため研修や同行訪問は行えていないため、今後計画を見直し予定。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	訪問診療 (患者数)	37件 (9人)	—	—	45件 (7人)	82.2% (128.6%)	訪問リハビリ (患者数)	7件 (3人)	—	—	9件 (3人)	77.8% (100%)	計	44件 (12人)	100件 (—)	44.0% (—)	54件 (10人)	81.5% (120%)
病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																																
こども	—	100																																
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													
訪問診療 (患者数)	37件 (9人)	—	—	45件 (7人)	82.2% (128.6%)																													
訪問リハビリ (患者数)	7件 (3人)	—	—	9件 (3人)	77.8% (100%)																													
計	44件 (12人)	100件 (—)	44.0% (—)	54件 (10人)	81.5% (120%)																													
11	<p>信州医療センターは、産科医療体制の充実に努めるとともに、院内助産体制の整備について検討し、木曽病院は、産科医療体制を維持する。</p> <p>【分娩件数】 （単位：件）</p> <table border="1" data-bbox="235 1238 763 1367"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州</td> <td>230</td> <td>250</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標	信州	230	250	信州	A	<table border="1" data-bbox="907 1034 2056 1134"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>分娩件数</td> <td>256件</td> <td>250件</td> <td>102.4%</td> <td>223件</td> <td>114.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い日本産婦人科学会より「帰省分娩と分娩付き添いを推奨しない」との見解が発出され（令和2年4月7日）、条件付きでの里帰り分娩の受け入れとなったが、里帰り分娩の制限は実施せずに対応した。 ・新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、病院全体で面会禁止となり、近隣の病院も立ち合い出産を中止したが、妊産褥婦の要望に応えるため、COVID抗原定量検査、体調管理</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	分娩件数	256件	250件	102.4%	223件	114.8%												
病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																																
信州	230	250																																
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													
分娩件数	256件	250件	102.4%	223件	114.8%																													

				<p>票の記入など条件付きでの立ち合い分娩を継続したことで、院内感染を起こすことなく分娩の立ち合いが継続でき、バースレビューでの分娩に対する満足度が高かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須高地域の分娩を担う施設として、引き続き産科医療体制の充実に努めた。 ・分娩件数は前年から33件増加し、対前年度比114.8%であり、年度目標件数を達成できた。また、出生数が年々減少している状況の中、分娩件数を増加させるため、妊娠期から育児期までの切れ目ない支援体制及び院内助産体制の整備について検討を行った。 ・個室、2人部屋の整備、食事・おやつメニューの見直しに加え、祝い膳を季節ごとに変更した。また、助産師外来、母乳外来などの支援体制の充実に努めた。 ・SNSを活用して情報を発信し、積極的な広報を行った。 																	
12	<p>同上</p> <p>(単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木曾</td> <td>103</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標	木曾	103	100	木曾	<p>C</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>分娩件数</td> <td>75件</td> <td>100件</td> <td>75%</td> <td>72件</td> <td>104.2%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・出産後の母子に対して育児の相談に乗るなど心身のケアを目的とした産後デイケアを実施した。(19件、うち当院で出産9件、他院10件) ・新型コロナウイルス感染症対策として、里帰り出産の減少から分娩件数は減少した。 	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	分娩件数	75件	100件	75%	72件	104.2%
病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																			
木曾	103	100																			
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																
分娩件数	75件	100件	75%	72件	104.2%																
13	<p>同上</p> <p>(単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども</td> <td>331</td> <td>300</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標	こども	331	300	こども	<p>B</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>分娩件数</td> <td>293件</td> <td>300件</td> <td>97.6%</td> <td>292件</td> <td>100.3%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大による影響から回復傾向となった。 	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	分娩件数	293件	300件	97.6%	292件	100.3%
病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																			
こども	331	300																			
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																
分娩件数	293件	300件	97.6%	292件	100.3%																
14	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産後の母親のメンタルヘルスを向上させる「須坂モデル」の普及促進 	信州	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産後ケア事業の実施状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宿泊型</td> <td>34人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>52人</td> <td>65.4%</td> </tr> <tr> <td>デイサービス型</td> <td>2人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>7人</td> <td>28.6%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・須高地域、近隣地域の行政と医療機関が連携し、妊産婦を多職種でサポートして産後うつ 	内容	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	宿泊型	34人	—	—	52人	65.4%	デイサービス型	2人	—	—	7人	28.6%
内容	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																
宿泊型	34人	—	—	52人	65.4%																
デイサービス型	2人	—	—	7人	28.6%																

				<p>を予防する取り組み（須坂モデル）を継続して実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における妊産婦、母体、胎児及び新生児への心身両面の一貫した医療の提供を継続して行った。 ・行政と連携し、出産後に不安を抱える母子に育児相談・指導を実施する助産師外来や母乳外来、デイケア型・宿泊型産後ケア事業のパンフレットを作成し、積極的に広報を行った。 ・個室・2人部屋での入院環境の確保とお祝い膳のメニューの見直しや食器の更新を行った結果、患者の満足度が向上したが、新型コロナウイルス感染症による面会制限を理由に、産後ケアの利用を希望しない褥婦が多く、宿泊型、デイサービス型ともに件数が減少した。 ・新型コロナウイルス感染症渦でも満足度の高い産後ケア事業が出来るような体制の整備とSNSを活用して旬な情報を視覚的に発信していくことが課題である。 																		
15	【令和3年度に推進する事項】 ・常勤医師の確保等による診療体制の充実	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・内科は常勤医が1人増え6人体制となり、また引き続き常勤外科医を配置し、通常診療のほか、施設診療、公衆衛生活動も積極的に行い診療体制の充実が図られた。 ・前年に続き常勤整形外科医は不在であったが、非常勤医師により週3日の診療を行い地域の医療ニーズに応えた。また、泌尿器科外来について、愛知医科大学及び飯田市立病院からの非常勤医師派遣により毎週受診できる体制とした。 																		
16	【令和3年度に推進する事項】 ・産科ユニットを整備し、産科の療養環境を改善	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・産科病棟の改修工事について、10月に入札を行って工事に着手した。 																		
17	【令和3年度に推進する事項】 ・地域医療支援病院として地域の医療機関との連携を推進	こども	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放射線治療紹介人数 (延べ)</td> <td>86人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>66人</td> <td>130.3%</td> </tr> <tr> <td>放射線治療算定件数 (延べ照射回数及び 治療計画数)</td> <td>1,882件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2,048件</td> <td>91.9%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	放射線治療紹介人数 (延べ)	86人	—	—	66人	130.3%	放射線治療算定件数 (延べ照射回数及び 治療計画数)	1,882件	—	—	2,048件	91.9%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
放射線治療紹介人数 (延べ)	86人	—	—	66人	130.3%																	
放射線治療算定件数 (延べ照射回数及び 治療計画数)	1,882件	—	—	2,048件	91.9%																	

			リニアック稼働額 (成人及び小児)	26,745千円	－	－	31,044千円	86.1%
(高度医療機器の共同利用件数：延べ件数)								
			項目	実績	年度目標	対目標比	前年度	対前年度比
			リニアック	1,882件	－	－	1,905件	98.8%
			MRI	0件	－	－	5件	0%
			3Dモデル	17件	－	－	24件	70.8%
			RI	46件	－	－	10件	460%
			計	1945件	－	－	1,944件	100.1%
<ul style="list-style-type: none"> 放射線治療における成人患者の紹介人数は70人と過去最高であったが照射方法の違いから件数は減少した。 MRIは院内の検査で予約が埋まり、院外の受託MRI検査を受ける余裕が無い状態。 3Dモデルについては装置の老朽化による不具合で受託を一旦停止した。 RIは受託の認知症に関する検査と骨シンチグラフィ検査の紹介が前年度10件から46件と増加した。 医療連携登録制度は213医療機関（医科148・歯科65）、268人の医師（医科192・歯科76）が登録中。 医療連携登録医を対象とする研修会は、医科132・歯科65へ送付。令和3年7月3日 WEB研修で開催し、8施設参加。 								

18	<p>へき地医療</p> <p>阿南病院及び木曽病院は、へき地医療拠点病院として、救急医療体制を含めた地域住民への医療提供体制を維持するとともに、関係機関等との連携のもと、無医地区への巡回診療を行う。</p> <p>へき地診療所からの要請に基づき医師を派遣する等の支援を行う。</p> <p>【巡回診療実施体制】</p> <table border="1" data-bbox="232 624 763 804"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阿南</td> <td>26回 (71人)</td> <td>26回 (70人)</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標	阿南	26回 (71人)	26回 (70人)	阿南	A	<p>【巡回診療実施件数】</p> <table border="1" data-bbox="907 240 2051 384"> <thead> <tr> <th>地区名</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阿南町和合(日吉)</td> <td>26回 (74人)</td> <td>26回 (70人)</td> <td>100.0% (105.7%)</td> <td>26回 (77人)</td> <td>100.0% (96.1%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・常勤医師が不在となった売木村診療所への代診医師の派遣を実施（毎週1回 計47回）</p> <p>・無医地区（下伊那郡阿南町和合（日吉地区））において、隔週での巡回診療を提供した。</p> <p>・天龍村への巡回診療は4月から常勤医師着任のため終了</p>	地区名	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	阿南町和合(日吉)	26回 (74人)	26回 (70人)	100.0% (105.7%)	26回 (77人)	100.0% (96.1%)												
病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																																
阿南	26回 (71人)	26回 (70人)																																
地区名	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													
阿南町和合(日吉)	26回 (74人)	26回 (70人)	100.0% (105.7%)	26回 (77人)	100.0% (96.1%)																													
19	<p>同上</p> <p>【巡回診療実施体制】</p> <table border="1" data-bbox="232 932 763 1112"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木曽</td> <td>24回 (43人)</td> <td>24回 (48人)</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標	木曽	24回 (43人)	24回 (48人)	木曽	C	<p>【巡回診療実施件数】</p> <table border="1" data-bbox="907 884 2051 1208"> <thead> <tr> <th>地区名</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>台</td> <td>7回 (7人)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>9回 (9人)</td> <td>77.8% (77.8%)</td> </tr> <tr> <td>才児</td> <td>12回 (25人)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>12回 (35人)</td> <td>100% (71.4%)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>19回 (32人)</td> <td>24回 (48人)</td> <td>79.2% (66.7%)</td> <td>21回 (44人)</td> <td>90.5% (72.7%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・上松町2地区（台、才児）への巡回診療を各地区月1回実施した。</p> <p>・対象患者の入院や施設入所により、患者数が減少した。</p>	地区名	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	台	7回 (7人)	—	—	9回 (9人)	77.8% (77.8%)	才児	12回 (25人)	—	—	12回 (35人)	100% (71.4%)	計	19回 (32人)	24回 (48人)	79.2% (66.7%)	21回 (44人)	90.5% (72.7%)
病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																																
木曽	24回 (43人)	24回 (48人)																																
地区名	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													
台	7回 (7人)	—	—	9回 (9人)	77.8% (77.8%)																													
才児	12回 (25人)	—	—	12回 (35人)	100% (71.4%)																													
計	19回 (32人)	24回 (48人)	79.2% (66.7%)	21回 (44人)	90.5% (72.7%)																													

20	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の医療、保健及び福祉医療機関との連携強化による無医地区の医療機能の充実（阿南・木曾） 	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別養護老人ホーム等7施設に医師6人の派遣を実施 全施設で閉域通信網を通じて電子カルテサーバとアクセスし、施設診療の際に画像データ等の閲覧や処方入力を行うなどの、電子カルテでの運用を実施 診療圏の町村及び福祉施設へリハビリ指導のため、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の派遣を実施 <p>(令和3年度天龍村 集団8回、泰阜村 個別48回、売木村 集団24回、救護施設富草寮集団11回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳児健診において町村保健師等と連携した発達障がい児の早期発見とフォローアップ体制の維持 																														
21	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> 木曾郡内の診療所が当院の検査機器を共同利用して患者のCT検査、MRI検査（いずれも単純撮影のみ）等を簡便に行う仕組みを構築した。 歯科口腔外科開設に伴い、診療所インプラントCTの紹介の仕組みを構築した。 <p>【共同利用件数】</p> <table border="1" data-bbox="907 821 2040 1077"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>51件</td> <td>42件</td> <td>121%</td> <td>26件</td> <td>196%</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>9件</td> <td>12件</td> <td>75%</td> <td>14件</td> <td>64%</td> </tr> <tr> <td>その他（骨密度）</td> <td>5件</td> <td>6件</td> <td>83%</td> <td>5件</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>65件</td> <td>60件</td> <td>108%</td> <td>45件</td> <td>144%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センター担当者会議に毎月出席し、地域の関係機関との強化を図った。 病院・地域連携連絡会議は新型コロナウイルス感染症対策により開催できなかった。 郡内各診療所から順調に依頼が来ており、目標を上回る件数になった。 	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	CT	51件	42件	121%	26件	196%	MRI	9件	12件	75%	14件	64%	その他（骨密度）	5件	6件	83%	5件	100%	計	65件	60件	108%	45件	144%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													
CT	51件	42件	121%	26件	196%																													
MRI	9件	12件	75%	14件	64%																													
その他（骨密度）	5件	6件	83%	5件	100%																													
計	65件	60件	108%	45件	144%																													
22	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> へき地診療所への代診医の派遣 	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> 常勤医師が不在となった売木村診療所への代診医師の派遣を実施（毎週1回 計47回） 																														

23	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 下伊那南部地区診療所との連携方針を検討 	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> 診療所との連携を推進し、下伊那南部地域全体の医療機能の向上を図るため、放射線機器共同利用を開始した。 電子カルテシステムの更新に併せ、飯田下伊那診療情報連携システム（ism-Link）の情報開示病院となり、他の医療機関、介護関係事業者等の中で、診療や介護に必要な情報を電子的に閲覧共有することにより、地域の医療と介護の適正、円滑な連携の推進に取り組んだ。
24	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 準地域医療人材拠点病院として診療所への医師の派遣 	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年2月18日に木曾町みたけ診療所に医師1人を派遣した。

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 県立病院が担うべき医療等の提供

(2) 高度・専門医療の提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

感染症医療の提供では、感染が拡大した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対し、信州医療センターが、県の感染症医療の拠点病院として適切な診療を提供するとともに、医療機関、地域住民等への正しい情報提供や相談等を実施した。

また、県立病院すべてが感染者等を積極的に受け入れ、感染拡大に対応した適切な医療の提供を行った。

精神医療の提供では、こころの医療センター駒ヶ根が、県の精神科医療の中核病院として24時間365日体制で精神科救急医療、児童精神科、アルコール・薬物依存など多職種チームによる専門医療を提供した。依存症治療では、県から指定された「依存症専門医療機関」及び「依存症治療拠点機関」の役割、各種依存症プログラムの提供を内外に示し、関係機関との連携を強化するため、令和4年3月に「依存症医療センター」を開設した。センター開設とともに、令和2年度から体制を整備していたインターネット・ゲーム依存症治療について外来受入れを開始した。また、救急外来やウォークイン患者に対しては、速やかに緊急性の評価を行い、適切な入院治療に繋げた。

高度小児医療、周産期医療の提供では、こども病院が、一般の医療機関では対応が困難な高度な小児医療の中核病院、県の総合周産期母子医療センターとしての機能を担いつつ、長野県のアレルギー疾患拠点病院として患者支援体制を強化するため小児アレルギーセンターを開設したほか、成人先天性心疾患センター及び移行期医療支援センターを開設し、信州大学医学部附属病院と連携した診断・治療、県内の移行期医療体制を整備した。

がん診療機能の向上では、木曽病院が、地域がん診療病院として、がん相談支援センター及び緩和ケア外来等の運営に加え、歯科口腔外科の開設を進めるなどがん診療機能の充実を図り、こども病院は、小児がん連携病院として信州大学医学部附属病院及び相澤病院と連携し、全県的に小児がん治療の提供を行うとともに、令和4年4月からの小児がんセンター開設に向けた準備を進める等、各病院において、がんの治療や緩和ケア等で質の高い医療サービスの提供に努めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績																																																																						
		病院	評定	取組結果及び取組の効果																																																																				
第1 1(2) 1	<p>ア 感染症医療（新型コロナウイルス感染症対応を含む。）</p> <p>各病院は、新型コロナウイルス感染症重点医療機関及び診療・検査医療機関（駒ヶ根を除く。）として、県が実施する感染症対策と連携し感染者を積極的に受け入れるとともに、診療・検査体制の充実により適切な医療を提供する。また、感染防止対策を徹底し、院内感染の防止を図る。</p> <p>信州医療センターは、県の感染症医療の拠点病院として、感染症に対し適切な診療を提供するほか、感染症発生時に迅速な対応ができるよう定期的に受入訓練を実施するとともに、教育機能の拡充及び医療機関、地域住民への最新情報の発信に努める。</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染者のうち、高齢者、基礎疾患を有する中等症患者を常時受 	信州	S	<p>・感染者等の受け入れ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染者 受入数</td> <td>208人 延べ2,314日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>195人 延べ2,181日</td> <td>106.7% 106.1%</td> </tr> <tr> <td>疑い患者 受入数</td> <td>2人 延べ2日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>21人 延べ48日</td> <td>9.5% 4.2%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>210人 延べ2,316日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>216人 延べ2,229日</td> <td>97.2% 103.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>① 県内感染者を積極的に受け入れ、常時入院患者に対応</p> <p>② 北6階結核病棟を転用し、受け入れを実施</p> <p>・検査実績等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>検査種類等</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCR検査</td> <td>1,826件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>341件</td> <td>535.5%</td> </tr> <tr> <td>抗原定性検査</td> <td>3,625件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,074件</td> <td>337.5%</td> </tr> <tr> <td>抗原定量検査</td> <td>8,240件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>206件</td> <td>4,000.0%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13,691件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,621件</td> <td>844.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・発熱外来受け入れ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>検査種類等</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対年度比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	感染者 受入数	208人 延べ2,314日	—	—	195人 延べ2,181日	106.7% 106.1%	疑い患者 受入数	2人 延べ2日	—	—	21人 延べ48日	9.5% 4.2%	計	210人 延べ2,316日	—	—	216人 延べ2,229日	97.2% 103.9%	検査種類等	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	PCR検査	1,826件	—	—	341件	535.5%	抗原定性検査	3,625件	—	—	1,074件	337.5%	抗原定量検査	8,240件	—	—	206件	4,000.0%	計	13,691件	—	—	1,621件	844.6%	検査種類等	実績	年度目標	対年度比	前年度実績	対前年度比						
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																																			
感染者 受入数	208人 延べ2,314日	—	—	195人 延べ2,181日	106.7% 106.1%																																																																			
疑い患者 受入数	2人 延べ2日	—	—	21人 延べ48日	9.5% 4.2%																																																																			
計	210人 延べ2,316日	—	—	216人 延べ2,229日	97.2% 103.9%																																																																			
検査種類等	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																																			
PCR検査	1,826件	—	—	341件	535.5%																																																																			
抗原定性検査	3,625件	—	—	1,074件	337.5%																																																																			
抗原定量検査	8,240件	—	—	206件	4,000.0%																																																																			
計	13,691件	—	—	1,621件	844.6%																																																																			
検査種類等	実績	年度目標	対年度比	前年度実績	対前年度比																																																																			

<p>け入れられるよう体制を整備（信州）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外渡航者外来での海外赴任者等に対するワクチンの予防接種及び帰国後の輸入感染症への対応（同上） ・渡航者に対するビジネスPCR検査やスクリーニング抗原検査を自費診療で行う体制を整備（同上） ・第一種感染症指定医療機関として集団発生等に適切に対応するため、受入訓練を実施（同上） ・住民へのワクチン接種開始に伴う市町村への支援（各病院） 	<table border="1"> <tr> <td>発熱外来受入れ</td> <td>8,396件</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>1,568人</td> <td>535.5%</td> </tr> </table>	発熱外来受入れ	8,396件	－	－	1,568人	535.5%																											
	発熱外来受入れ	8,396件	－	－	1,568人	535.5%																												
<ul style="list-style-type: none"> ・ ワクチン接種実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>住民</td> <td>2,079件</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>0件</td> <td>皆増</td> </tr> <tr> <td>医療従事者</td> <td>2,993件</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>450件</td> <td>665.1%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5,072件</td> <td>－</td> <td>－</td> <td>450件</td> <td>1,127.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【市町村へのワクチン接種支援】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">市町村名</th> <th rowspan="2">延べ日数</th> <th colspan="2">派遣延べ人数</th> </tr> <tr> <th>医師</th> <th>看護師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>須坂市</td> <td>95日</td> <td>95人</td> <td>96人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染拡大防止対策 <ol style="list-style-type: none"> ① 正面玄関での体温測定及び問診によるトリアージを実施 ② 感染状況に応じた面会の禁止及び制限 ③ 電話による処方箋の発行 ④ 感染者・家族のオンライン面会の実施（55回） ⑤ 信州医療センター版COVIDロードマップを策定し、感染状況の変化に対応した対策を実施 ・ 感染患者等への対応 <ol style="list-style-type: none"> ① 北5階感染症病棟に加え、北6階結核病棟を転用し、新型コロナウイルス感染症患者の受入れを行った。 ② 感染者受入れ等の詳細 参照（p.16-No1） ③ 新型コロナ感染患者の振り分け診察を実施 	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	住民	2,079件	－	－	0件	皆増	医療従事者	2,993件	－	－	450件	665.1%	計	5,072件	－	－	450件	1,127.1%	市町村名	延べ日数	派遣延べ人数		医師	看護師	須坂市	95日	95人	96人
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													
住民	2,079件	－	－	0件	皆増																													
医療従事者	2,993件	－	－	450件	665.1%																													
計	5,072件	－	－	450件	1,127.1%																													
市町村名	延べ日数	派遣延べ人数																																
		医師	看護師																															
須坂市	95日	95人	96人																															

		<p>長野医療圏全体（長野市含む） 909件（うち須高地域503件） 2月から、振り分け診察後在宅等での療養となった患者に対し、リモート（電話）診察を110回実施。</p> <p>また、新たに承認された内服治療薬（ラゲブリオ、パキロビッド）は院内配置が限られたため、須高薬剤師会と連携し院外処方を可能とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民及び県内医療機関等への情報発信等 ① 各種媒体を活用し、地域住民に向けた新型コロナウイルス感染症及び当院の感染症病棟についての正しい情報を発信 ② 感染症センターの機能を生かした新型コロナウイルス感染症の診療等に関する情報提供 ③ 県内医療機関及び福祉施設を対象とした電話及びメールでの相談の実施 ④ 福祉施設において、新型コロナウイルス感染症についての研修会の開催⑤ 福祉施設において、新型コロナウイルス感染症についての研修会の開催 ⑤ 感染対策委員会リンクナース部会にて実施 <p>実績 8回（患者受入れ訓練、物品受け渡し訓練、洗濯物受入れ訓練等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他 ① ビジネス海外渡航者のためのPCR検査の実施と結果証明書の発行 <ul style="list-style-type: none"> ・海外渡航者外来での海外赴任者等に対するワクチンの予防接種 <p>令和3年度実績 256件 89人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界的な新型コロナウイルス感染症のまん延によって、海外への旅行、留学、赴任が著しく減少したため、ワクチン接種は減少した。 ・新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、複数の国が入国者に対して求めている渡航前のPCR検査と結果証明書の発行を令和2年11月から開始した。 <p>令和3年度実績 91件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日の午前中に検査を受けた場合、翌日10時までに英文の陰性証明書を発行した。
--	--	--

			②補助金を活用し、新型コロナウイルス感染症患者及び疑い患者の受入体制を整備																																																																								
2	<p>各病院は、新型コロナウイルス感染症重点医療機関及び診療・検査医療機関（駒ヶ根を除く。）として、県が実施する感染症対策と連携し感染者を積極的に受け入れるとともに、診療・検査体制の充実により適切な医療を提供する。また、感染防止対策を徹底し、院内感染の防止を図る。</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策の徹底により、精神疾患を有する新型コロナウイルス感染者（疑い含む）の受け入れ及びデイケアの継続（駒ヶ根） ・住民へのワクチン接種開始に伴う市町村への支援（各病院） 	駒ヶ根	<p>A</p> <p>感染者等の受け入れ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染者 受入数</td> <td>5人 延べ 58日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0人 延べ 0日</td> <td>皆増 皆増</td> </tr> <tr> <td>疑い患者 受入数</td> <td>8人 延べ 23日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>15人 延べ 71日</td> <td>53.3% 32.4%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13人 延べ 81日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>15人 延べ 71日</td> <td>86.7% 114.1%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ A 2病棟にて、感染エリアと非感染エリアをゾーニングして対応 ・ 夜間の勤務体制を2単位にして対応 ・ 県からの要請で2人、入院後発症確認の陽性患者を3人受け入れ <p>検査実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>検査種類</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCR検査※</td> <td>109件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>8件</td> <td>1,326.5%</td> </tr> <tr> <td>抗原定性検査</td> <td>115件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>9件</td> <td>1,277.8%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>224件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>17件</td> <td>1,317.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和3年12月までは外部機関、令和4年1月から院内</p> <p>ワクチン接種実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>住民</td> <td>387件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0件</td> <td>皆増</td> </tr> <tr> <td>医療従事者</td> <td>1,136件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0件</td> <td>皆増</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,523件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0件</td> <td>皆増</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	感染者 受入数	5人 延べ 58日	—	—	0人 延べ 0日	皆増 皆増	疑い患者 受入数	8人 延べ 23日	—	—	15人 延べ 71日	53.3% 32.4%	計	13人 延べ 81日	—	—	15人 延べ 71日	86.7% 114.1%	検査種類	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	PCR検査※	109件	—	—	8件	1,326.5%	抗原定性検査	115件	—	—	9件	1,277.8%	計	224件	—	—	17件	1,317.6%	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	住民	387件	—	—	0件	皆増	医療従事者	1,136件	—	—	0件	皆増	計	1,523件	—	—	0件	皆増
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																																						
感染者 受入数	5人 延べ 58日	—	—	0人 延べ 0日	皆増 皆増																																																																						
疑い患者 受入数	8人 延べ 23日	—	—	15人 延べ 71日	53.3% 32.4%																																																																						
計	13人 延べ 81日	—	—	15人 延べ 71日	86.7% 114.1%																																																																						
検査種類	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																																						
PCR検査※	109件	—	—	8件	1,326.5%																																																																						
抗原定性検査	115件	—	—	9件	1,277.8%																																																																						
計	224件	—	—	17件	1,317.6%																																																																						
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																																						
住民	387件	—	—	0件	皆増																																																																						
医療従事者	1,136件	—	—	0件	皆増																																																																						
計	1,523件	—	—	0件	皆増																																																																						

			<ul style="list-style-type: none"> ・駒ヶ根市及び西駒郷へワクチン接種のため医師及び看護師を派遣 <p>感染拡大防止対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来の電話再診を実施 ・上伊那圏域の特別警報発出に伴いデイケアを一時中止したが、感染状況に応じてショートケア（昼食なし）を実施 ・入院患者の家族等の面会禁止によりオンライン面会を実施 ・入院患者に対し、入院前に抗原定性検査を実施 ・PCR検査機器導入による院内検査体制の拡充 																																																												
3	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所等と連携した新型コロナウイルス感染者の受入れ及び検査体制の充実（阿南） ・住民へのワクチン接種開始に伴う市町村への支援（各病院） 	阿南	<p>S</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染者等の受入れ <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染者</td> <td>49人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>56人</td> <td>87.5%</td> </tr> <tr> <td>受入数</td> <td>延べ364日</td> <td></td> <td></td> <td>延べ368日</td> <td>98.9%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・感染者の受入れ体制 <p>第3病棟にて入院受け入れを行った。飯伊地区外の患者（18.8%）も積極的に受入れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査実績等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>検査種類</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCR(RT-PCR)検査</td> <td>647件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>17件</td> <td>3,805.9%</td> </tr> <tr> <td>PCR(LAMP)検査</td> <td>686件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>203件</td> <td>337.9%</td> </tr> <tr> <td>抗原定性検査</td> <td>249件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>28件</td> <td>889.2%</td> </tr> <tr> <td>発熱外来受入れ</td> <td>515件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>119人</td> <td>432.8%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン接種実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	感染者	49人	—	—	56人	87.5%	受入数	延べ364日			延べ368日	98.9%	検査種類	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	PCR(RT-PCR)検査	647件	—	—	17件	3,805.9%	PCR(LAMP)検査	686件	—	—	203件	337.9%	抗原定性検査	249件	—	—	28件	889.2%	発熱外来受入れ	515件	—	—	119人	432.8%	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比						
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																										
感染者	49人	—	—	56人	87.5%																																																										
受入数	延べ364日			延べ368日	98.9%																																																										
検査種類	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																										
PCR(RT-PCR)検査	647件	—	—	17件	3,805.9%																																																										
PCR(LAMP)検査	686件	—	—	203件	337.9%																																																										
抗原定性検査	249件	—	—	28件	889.2%																																																										
発熱外来受入れ	515件	—	—	119人	432.8%																																																										
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																										

				住民	7,682 件	—	—	0 件	皆増																								
				医療従事者	905 件	—	—	0 件	皆増																								
				小児	74 件	—	—	0 件	皆増																								
				計	8,661 件	—	—	0 件	皆増																								
				<ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大防止対策 <ul style="list-style-type: none"> ① 新型コロナウイルス感染症感染対策マニュアルの策定 ② 入館時の体温測定・問診・トリアージの実施 ③ 院内のインターネット環境を整備し、オンライン面会を実施（16件） ・その他 <ul style="list-style-type: none"> ① 地域で発生時の毎週1回の対策会議、院内への周知 ② 下伊那南部地区の診療所医師及び行政と協同し、医療従事者の接種及び住民の集団接種のほか、9つの高齢者施設、障がい者施設での巡回接種、外出ができない患者への訪問接種、小児のワクチン接種を実施 ③ 入院患者に対する面会の制限及び代替手段としてweb会議ツールを利用したオンライン面会の実施 																													
4	同上 【令和3年度に推進する事項】 ・感染者の受入れ、発熱外来及び自費での新型コロナウイルス検査の継続（木曽） ・住民へのワクチン接種開始に伴う市町村への支援（各病院）	木 曽	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染者等の受入れ <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染者 受入数</td> <td>34 人 延べ 259 日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>33 人 延べ 327 日</td> <td>103.0% 79.2%</td> </tr> <tr> <td>疑い患者 受入数</td> <td>0 人 延べ 0 日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>5 人 延べ 18 日</td> <td>皆減</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>34 人 延べ 259 日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>38 人 延べ 345 日</td> <td>89.5% 75.1%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・感染者の受入れ体制 						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	感染者 受入数	34 人 延べ 259 日	—	—	33 人 延べ 327 日	103.0% 79.2%	疑い患者 受入数	0 人 延べ 0 日	—	—	5 人 延べ 18 日	皆減	計	34 人 延べ 259 日	—	—	38 人 延べ 345 日	89.5% 75.1%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																												
感染者 受入数	34 人 延べ 259 日	—	—	33 人 延べ 327 日	103.0% 79.2%																												
疑い患者 受入数	0 人 延べ 0 日	—	—	5 人 延べ 18 日	皆減																												
計	34 人 延べ 259 日	—	—	38 人 延べ 345 日	89.5% 75.1%																												

感染症病棟、4階病棟にて対応

・令和2年5月から令和4年3月まで外来・検査センターを受託

・検査実績等

検査種類	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
PCR(RT-PCR)検査	0件	-	-	153件	皆減
PCR(LAMP)検査	433件	-	-	388件	111.6%
PCR(IDNOW)検査	1,371件	-	-	0件	皆増
抗原定性検査	0件	-	-	192件	皆減
抗原定量検査	3,527件	-	-	1,780件	198.1%
発熱外来受入れ	2,298件	-	-	1,262人	182.1%

・ワクチン接種実績

項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
住民	847件	-	-	0件	-%
医療従事者	1,799件	-	-	0件	-%
計	2,646件	-	-	0件	-%

・感染拡大防止対策

- ① 病院職員（委託業者含む）へのワクチン接種
- ② 木曽郡内町村のワクチン接種への協力
- ③ 発熱外来の継続

			<ul style="list-style-type: none"> ④ 自費でのウイルス検査の実施 ⑤ 正面玄関における体温計測及び体調確認の実施 ⑥ 入院患者の面会禁止を徹底 ⑦ 入院患者への術前抗原定量検査を実施 ⑧ 面会禁止となっている入院患者にオンラインによる面会及び窓越し面会を実施 ⑨ 補助金を活用し検査機器を導入することで休日夜間のウイルス検査の時間を短縮 																														
5	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症に対応する感染隔離室の増設（こども） ・住民へのワクチン接種開始に伴う市町村への支援（各病院） 	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染者等の受入れ <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染者</td> <td>3人</td> <td></td> <td></td> <td>0人</td> <td>皆増</td> </tr> <tr> <td>受入数</td> <td>延べ 11日</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>延べ0日</td> <td>皆増</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・感染者の受入れ体制 ① 集中治療病棟2床、一般病棟2床を受入病床として確保 ② 外来や一般病棟に入った患者が実は新型コロナウイルス感染症であった、という可能性を鑑みた受け入れ体制を整備 ・検査実績・検査実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>検査種類</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCR検査</td> <td>1,082件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>52件</td> <td>1,030件</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・発熱外来受入れ：適宜、発熱患者の外来対応を行った。 ・感染拡大防止対策 ① 外来付き添い者、面会者の人数制限 ② 長野県内、県外に関わらず、感染症状やコロナ患者との接触歴を確認した上で、通常通りの患者受入を実施（入院制限、受診制限はなし） ③ 来院の必要がない患者に対する電話診療の継続 	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	感染者	3人			0人	皆増	受入数	延べ 11日	—	—	延べ0日	皆増	検査種類	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度増減	PCR検査	1,082件	—	—	52件	1,030件
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																												
感染者	3人			0人	皆増																												
受入数	延べ 11日	—	—	延べ0日	皆増																												
検査種類	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度増減																												
PCR検査	1,082件	—	—	52件	1,030件																												

- ④ iPadを活用した院内のテレビ電話による面会の継続
 - ⑤ 新型コロナウイルス感染症に関する全職員対象（委託職員も含む）のWeb研修会を実施。その受講率は100%。
 - ⑥ 新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの適宜改訂、それぞれの部署独自のマニュアルの作成とシミュレーションの継続
 - ⑦ 院外の施設等（養護学校、医療福祉施設、乳児院、県からの指導依頼など）からのCOVID-19感染対策について相談に応じたり、研修会に出向く活動の継続
- ・外来エリアで適切な感染対策を実践するため、感染隔離室を増設する北棟増改築工事を9月下旬から開始した。4月中旬から運用開始となりそれまでは発熱テントを使用

・ワクチン接種実績

項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度増減
住民	171件	—	—	0件	皆増
うち基礎疾患がある小児患者	71件	—	—	0件	71件
医療従事者	1,693件	—	—	347件	1,346件
計	1,864件	—	—	347件	1,517件

・松本保健所、安曇野市、山形村からの依頼に応じてワクチン接種に必要な人員を派遣した。

支援の実績（延べ人数） 支援の実績（延べ人数）

依頼主	回数	医師	看護師	薬剤師	計
松本保健所	7	13	14	6	40

				安曇野市	46	120	197		363																								
				山形村	20	20			40																								
				計	73	153	211	6	443																								
6	イ 精神医療 こころの医療センター駒ヶ根は、県の政策的・先進的な精神医療を担う病院として、次に掲げる医療を提供する。 ・精神科救急医療の常時対応型病院として24時間体制の精神科救急・急性期医療を行うとともに、m-E C T（修正型電気痙攣療法）等の先進的な専門医療を充実する。 【令和3年度に推進する事項】 ・医療安全の向上と治療の充実のため、m-E C T（修正型電気痙攣療法）センターを開設	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間365日、重症精神科急性期患者の受入れに対応する常時対応型施設として常に空床2床を確保し、精神保健指定医等による診療応需態勢を整備した（国の精神科救急医療体制整備事業）。また、措置入院を23人受け入れた。参照（p.3-No.2） ・救急外来やウォークイン患者に対して、速やかに緊急性の評価を行い、適切な入院治療に繋げた。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ウォークイン救急患者数</td> <td>81人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>80人</td> <td>101.3%</td> </tr> <tr> <td>（うち入院）</td> <td>（38人）</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>（47人）</td> <td>（80.9%）</td> </tr> <tr> <td>入院割合</td> <td>46.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>58.8%</td> <td>79.8%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関の診察時間外の緊急相談に対応する精神障がい者在宅アセスメントセンターへの相談件数は310件であった。（2年度252件） ・治療抵抗性や難治性疾患患者へのクロザピンの投薬（実人数14人）、m-E C T治療（実施件数245件）等の専門医療を提供した。 ・治療の充実、実施回数の増を図り、県内医療機関からの入院患者を受入れるため、令和4年1月にm-E C Tセンターを開設し、週2回・5人/日（現行3人/日）まで治療可能とする体制での運営を開始した。参照（p.129-No.7） 						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	ウォークイン救急患者数	81人	—	—	80人	101.3%	（うち入院）	（38人）	—	—	（47人）	（80.9%）	入院割合	46.9%	—	—	58.8%	79.8%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																												
ウォークイン救急患者数	81人	—	—	80人	101.3%																												
（うち入院）	（38人）	—	—	（47人）	（80.9%）																												
入院割合	46.9%	—	—	58.8%	79.8%																												
7	・児童・思春期、青年期の精神疾患の専門医療機能を充実させる。 【令和3年度に推進する事項】 ・児童・思春期、青年期までの切れ目のない医療提供のため、子どものこころ総合医療	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「児童・思春期、青年期精神科医療懇談会」を2回開催し、学識者・児童支援者・相談機関関係者等から広く意見や要望を集め、センターのあり方、開設の意義や目指すべき姿など基本計画の骨格となる「基本構想」を策定した。 ・センターの部門別計画、施設整備計画等の詳細を明確にする基本計画策定のため、長野 																													

	センター（専門病棟新設）、思春期デイケア（小規模デイケア）の開設に向けた有識者懇談会及び基本計画会議の開催			<p>県・長野県立病院機構・専門家の3者による「基本計画会議」を開催し、県関係者・学識者からの提言を参考に計画の策定を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内に3つの検討チーム（新病棟検討チーム、病床転換検討チーム、A1病棟・児童外来後利用検討チーム）を設置し、新病棟の運営方法、既存病棟の病床転換、後利用等、センター開設に向け必要な各種検討事項の協議を職員一体となり進めた。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコール・薬物・ギャンブル等多様な依存症の専門医療機能の強化や医療従事者等への研修の充実を図るほか、ゲーム・ネット依存症の診療体制を整備する。 <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルコール・薬物・ギャンブル等に関する依存症専門医療機関、依存症治療拠点機関として「依存症専門医療センター」の開設 ・アルコール等の依存で悩む家族と依存症本人とのコミュニケーションを支援し医療につなげるプログラム（CRAFT）の開始 	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年に県から指定されたアルコール健康障害、薬物・ギャンブル等に関する「依存症専門医療機関」及び「依存症治療拠点機関」の役割、各種依存症プログラムの提供を内外に示し、関係機関との連携を強化するため、令和4年3月に「依存症医療センター」を開設した。 ・依存症治療拠点機関として依存症患者及び患者家族のニーズに対応するため、依存症のプログラムをオンライン実施とし、新型コロナウイルス感染症の影響を受けない治療体制を構築した。 ・依存症で悩む家族のためのプログラム（CRAFT）を本格稼働した。参加家族は6人、対象患者は5例*であり、うち3例が、当院への入院、内科受診をし、飲酒問題の解消に繋がった。（*一人の患者に対し複数名の家族が参加するケースあり。） ・長野県との「受診後の患者支援に係るモデル事業」業務委託契約により、従前からの取組みである自助グループ等の民間支援団体との連携や依存症患者への継続支援を実績として報告した。
	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム・ネット依存症治療プログラムの開発、診療体制の整備 	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・専門研修を受講した職員による伝達研修を行うほか、出前講座を院内及びオンライン聴講も可能にするなど、職員への理解を深め、治療開始への協力体制を強化した。 ・全9回のゲーム・ネット依存症チーム会で、治療体制、家族支援、情報発信について検討し、入院3例に対して先進病院の治療プログラムを参考に治療を実施後、病院独自のプログラムを確立した。 ・令和4年3月から外来受入れを開始し、4月に家族向け学習プログラム、5月以降に入院・外来治療プログラム開始を予定している。

9	<ul style="list-style-type: none"> 心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（平成15年法律第110号）に基づく指定入院・指定通院医療機関を運営し、同法の処遇対象者が社会復帰するために必要な医療を行う。 	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> 指定入院医療機関として、厚生労働省が示す医療観察法各種ガイドラインに沿い、対象者12人の社会復帰に向けた治療を進めた。 新たな入院の受入れは6人、入院処遇の終了者（退院）は1人、居住予定地への転院は4人、1日平均入院患者数は5.6人であった。（3月末現在：入院7人） 全国的に医療観察法の病床が不足しているため、一般病床で医療観察法の対象者を受入れる特定病床を令和4年3月14日から開始した。 指定通院医療機関として、1人の対象者の治療を行った。 																		
10	<p>ウ 高度小児医療、周産期医療</p> <p>こども病院は、県における高度小児医療・総合周産期医療を担う病院として、次に掲げる医療を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度小児医療の中核病院として診療機能を強化させるとともに、全県的立場で小児重症患者の医療体制を充実する。 	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> 参照（p.5-No.5） 																		
11	<ul style="list-style-type: none"> 小児在宅医療の支援体制の充実のほか、信州大学医学部附属病院等と連携した成人移行期患者に対する継続的な医療の充実に取り組む。 	こども	S	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年4月に移行期医療支援センターを開設し、小児慢性疾患全般に対する小児期から成人期への移行医療を円滑に進めた。 移行期医療支援センターとして、5月から16歳以上を対象に移行医療支援外来を毎月3枠開設し、25件の利用があった。患者・家族からは「病気のことではなく、将来の生活を見据えたことを考えることができるとてもよかった。」と好評であった。・成人移行期支援看護外来へ依頼があった診療科数：R2年度11診療科→R3年度13診療科に増加 13診療科から成人移行期支援看護外来へ依頼があった。（前年度11診療科） <p>（介入患者数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新患</td> <td>196人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>73人</td> <td>268.4%</td> </tr> <tr> <td>再来（延べ）</td> <td>283人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>182人</td> <td>155.4%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	新患	196人	—	—	73人	268.4%	再来（延べ）	283人	—	—	182人	155.4%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
新患	196人	—	—	73人	268.4%																	
再来（延べ）	283人	—	—	182人	155.4%																	

				<ul style="list-style-type: none"> ・9月11日に開催された第32回長野県小児保健研究会のシンポジウム「長野県の移行期医療を考える～様々な視点から～」にて当院で支援した症例を発表した。 ・2月5日に県の移行期医療支援センターと共同で「移行期医療シンポジウム：みんなで知ろう つながろう 移行期医療」を開催。当院の移行期医療支援センター長が講演を行い、県民への啓発と理解を深めた。(医療関係者ほか患者・家族が参加) 																																									
12	<ul style="list-style-type: none"> ・県の総合周産期母子医療センターとして、県内産科医療機関との連携を図りながら胎児診療を含む周産期医療の維持・向上に努める。 	こども	<p>A</p> <p>【高度検査機器を活用した遺伝子検査の実施】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遺伝学的検査</td> <td>22件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>26件</td> <td>84.6%</td> </tr> <tr> <td>腫瘍関連検査</td> <td>45件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>33件</td> <td>136.4%</td> </tr> <tr> <td>病原体遺伝子検査</td> <td>71件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>146件</td> <td>48.6%</td> </tr> <tr> <td>SARS-COV2検査</td> <td>1082件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>52件</td> <td>2080.8%</td> </tr> <tr> <td>FA検査</td> <td>34件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>20件</td> <td>170.0%</td> </tr> <tr> <td>新生児マススクリーニング検査</td> <td>13,710件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>13,874件</td> <td>98.8%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・病原体遺伝子検査が令和2年度以降大きく減少しているが、FilmArray 検査の導入により、複数の病原体遺伝子を同時に検査することが可能になったためである。 ・SARS-COV2検査は市中で小児感染の増加が見られ、検査体制を強化したため件数が大きく増えた。 ・新生児マススクリーニング検査の減少は本年度は2.1%であったが、年度ごとに多少の変動があり、ここ7-8年の平均減少率は4%程度である 	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	遺伝学的検査	22件	—	—	26件	84.6%	腫瘍関連検査	45件	—	—	33件	136.4%	病原体遺伝子検査	71件	—	—	146件	48.6%	SARS-COV2検査	1082件	—	—	52件	2080.8%	FA検査	34件	—	—	20件	170.0%	新生児マススクリーニング検査	13,710件	—	—	13,874件	98.8%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																								
遺伝学的検査	22件	—	—	26件	84.6%																																								
腫瘍関連検査	45件	—	—	33件	136.4%																																								
病原体遺伝子検査	71件	—	—	146件	48.6%																																								
SARS-COV2検査	1082件	—	—	52件	2080.8%																																								
FA検査	34件	—	—	20件	170.0%																																								
新生児マススクリーニング検査	13,710件	—	—	13,874件	98.8%																																								
13	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増加傾向の外来患者への対応と診療機能を強化するため、外来診察室を増設 	こども	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増加傾向の外来患者に対応して診療機能を強化するための外来診察室の増設、及び外来エリアで適切な感染対策を実践するための感染隔離室の増設を行う北棟増改築工事を9月下旬から開始した。 ・3月末までに増築部分の1階ベッドセンター及び2階会議室・休憩室、改築部分の 																																										

				<p>リハビリスタッフルームが完成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月中旬に感染隔離室の増築、新外来診察室の改修が完了し、令和4年5月中旬から新外来診察室の運用を開始した。
14	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の診療機能について、多職種連携の円滑化や対外的責任者の明確化及び成果の報告等、効率的にPDCAを実行するためセンター化 ・小児アレルギーセンター 令和3年4月1日に長野県から指定される予定の「アレルギー疾患医療拠点病院」として、重症・難治性アレルギー疾患患者の診療、地域住民に対する情報提供、アレルギー医療に関わる医療従事者の人材育成、疫学や臨床研究への協力等の役割を進めるために設置 ・成人先天性心疾患センター 日本成人先天性心疾患学会認定の「連携修練施設」※1として、同学会より「総合修練施設」※2認定されている信州大学とも連携し、成人先天性心疾患の診断・治療を行うとともに、人材の育成と臨床研究を支援するために設置 <p>※1 連携修練施設・総合修練施設と連携し</p>	こ ど も	A	<p>【小児アレルギーセンターの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年4月に開設。長野県から「アレルギー疾患医療拠点病院」に指定され、重症・難治性アレルギー疾患患者の診療、地域住民に対する情報提供、アレルギー医療に関わる医療従事者の人材育成、疫学や臨床研究への協力等を実施した。 <p>(人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県と連携し、アレルギー疾患に関わる養護教諭、保健師などへのアレルギーに関する正しい情報に関する研修を実施した。 6月 長野県養護教諭研修会 (対象：長野県養護教諭) 8月 長野県学校給食研究協議会講演 (対象：長野県学校管理者) 9月 母子保健専門研修会 I (対象：長野県保健師) 10月 栄養教諭研修会 (対象：長野県 栄養教諭) ・若手医師対象とした小児アレルギー疾患の基本的研修の実施 (アレルギー概論、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー) ・食物経口負荷試験の他院からの研修の受け入れ 3人 <p>(情報提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月 小児アレルギー相談用メールアドレスの開設 (対象：医療従事者、学校関係者、保健師など) 相談件数：26件 <p>(疫学・臨床研究の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月 長野県小児アレルギー診療の実態調査 (アンケート調査) の実施 ・12月 厚生労働省科学研究 全国アレルギー疾患拠点病院職員を対象としたアレルギー疾患有病率調査の実施 <p>【成人先天性心疾患センター】</p>

て積極的に成人先天性心疾患に携わる施設
 ※2 総合修練施設・成人先天性心疾患総合
 診療体制における総合診療施設

・移行期医療支援センター

他医療機関との連携を強化し、県内の移行
 期医療体制の整備を行うとともに、小児慢
 性疾患全般に対する小児期から成人期への
 移行医療を円滑に進めるために設置

・令和3年4月に開設。日本成人先天性心疾患学会認定の「連携修練施設」として、同
 学会より「総合修練施設」に認定されている信州大学と連携し、成人先天性心疾患の
 診断・治療を行うとともに、人材の育成と臨床研究を支援

(成人先天性心疾患に対 する診療) 診断・治療 実績	実 績	年度 目標	対目標 比	前年度 実績	対前年度 増減
カテーテル検査	13件	—	—	37件	△24件
カテーテル治療	11件	—	—	22件	△11件
心臓大血管手術	8件	—	—	6件	2件

・令和4年1月から3月にかけて血管撮影装置の更新に伴い、心臓カテーテル検査及び
 治療の休止期間があった影響もあり対前年度での診断・治療件数は減少

・長野県成人先天性心疾患カンファランスを6回実施し、信州大学成人先天性心疾患セン
 ター、佐久総合医療センター他、県内基幹病院との合同カンファランスを開催した。
 第1回：6月16日、第2回：7月21日、第3回：9月15日、第4回：10月20日、
 第5回：11月17日、第6回：2月16日

・平均2か月に1回の頻度でカンファランスを開催し、特に第4回以降は佐久総合医療セ
 ンター心臓血管外科もカンファランスに加わってもらう事ができた。今後、多職種によ
 るカンファランスに持つて行くにはどうするかが課題である。

【移行期医療支援センター】

・令和3年4月に開設。小児慢性疾患全般に対する小児期から成人期への移行医療を
 円滑に進めるためセンター化。5月から16歳以上を対象にした移行期医療支援外来
 を毎月3枠開設し25件の利用があった。

(連絡会議・研究会)

・信州大学、地域一般病院や開業医との連携を強化、県内の移行期医療体制の整備を

			<p>進め、信州大学との連絡会議を10回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月11日に開催された長野県小児保健研究会のシンポジウム「長野県の移行期医療を考える～様々な視点から～」にて当院で支援した症例を発表 ・ 2月5日に県の移行期医療支援センターと共同で「移行期医療シンポジウム：みんなで知ろう つながろう 移行期医療」を開催。当院センター長が講演を行い、県民への啓発と理解を深めた。(医療関係者ほか患者・家族が参加) <p>(就学・就労支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小児慢性疾患患者の準備性・社会性を整えるため、小学校入学前、中学卒業前に知能、発達検査を行い、患者の適性に配慮した就学・就労を目指した支援を患者・家族に実施(就労支援：個別相談延べ7人・集団講話(就労支援セミナー)4回、学習サポート：延べ15人) <p>【ニューロケア(神経治療)センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療者向け公開シンポジウムを10月23日に実施し、40人以上が参加した。 ・ ロボットスーツHALによる治療は継続し、新規治療者2人を加え、5人が定期的に治療を受けた。また、SSサイズのデモンストレーションでより小さい学童に対しても実施できた。 ・ バクロフェン持続髄注療法を2人に対して、新規埋め込み術を試行し、合計4人の管理を行なった。トライアルは、4人に対して実施し、いずれも次年度以降の手術を予定している。 ・ 迷走神経刺激療法は新規埋め込みが1人で、合計5人の患者の管理を行なっている。カンファレンスにて3人の新規導入予定患者の検討を行なった。 <p>(代表的な治療法と症例)</p>		
代表的な治療法	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度増減

				バクロフェン持続髄注療法	手術2件 トライアル4件	-	-	手術1件 トライアル4件	手術1件 トライアル±0件							
				迷走神経刺激療法	新規1件	-	-	新規2件	新規△1件							
				ロボットスーツHAL療法	97件	-	-	85件	12件							
				ヌシネルセン髄注療法	11件	-	-	19件	△8件							
15	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小児の先制医療の推進（小児がん経験者の晩期合併症早期発見のための検診の充実） 	こども	A	<p>【長期フォローアップ外来】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長期フォローアップ外来</td> <td>68人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>47人</td> <td>144.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・小児がん経験者の晩期合併症早期発見のための長期フォローアップ外来を推進するとともに、移行期医療支援センターと協力し他医療機関との連携を強化した。</p> <p>【新生児期からの先制医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新生児期からの先制医療の重要性について理解を深めるため、10月6日に福島県立医科大学特任教授 福岡秀興先生のWeb講演会（「DOHaD（ドーハッド）説からみた胎生期環境と成人病（生活習慣病）の発症機序」）を開催し、38人が聴講した。 <p>【臨床研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> 出生時体重、年齢（月齢）別の血清脂質濃度及び動脈硬化関連のマーカーに関連する臨床研究を臨床医学研究院内助成によりスタートさせた。 	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	長期フォローアップ外来	68人	-	-	47人	144.7%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
長期フォローアップ外来	68人	-	-	47人	144.7%											

16	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <p>・当院の得意分野を充実させ、最近の小児患者のニーズに対応した診療体制の構築（例：成育女性科の開設）</p>	こ ど も	A	<p>【あたまの形外来】</p> <table border="1" data-bbox="936 236 2018 480"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>561人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>232人</td> <td>329人</td> </tr> <tr> <td>新患者数</td> <td>121人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>71人</td> <td>50人</td> </tr> <tr> <td>矯正用ヘルメット作成数</td> <td>71件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>30件</td> <td>41件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・あたまの形外来(令和元年10月から診療開始)では、広報やSNSなどを通じた頭蓋変形に対する治療有効性、県内外の関連施設に対する当院での活動に対する認知度が上がり新規患者数が増加した。</p> <p>【形成外科】</p> <p>・眼瞼下垂は、初診枠の予約取得まで2年間程度を要する状況が課題であったため、前年度より患者会を通じて当院への受診を考えている患者家族を対象とした講演会（無償）を開催し、講演の中で診療内容（初診時に行う説明の基本部分）を伝えることで実際の初診時にかかる時間短縮を図っている。令和3年度は講演会を1月に開催し、46組の患者家族が参加された。（前年度は25組参加）この講演会を受講された患者の予約を4月から開始予定である。なお、遠方からの受診者の利便性向上のため、今後オンライン診療の確立が必要である。</p> <p>・小児形成外科的治療における脂肪移植の保険収載を見越し準備を進め、具体的な治療が行える段階までに達した。</p> <p>【成育女性外来】</p> <table border="1" data-bbox="936 1141 2018 1238"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成育女性外来患者数</td> <td>94件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0件</td> <td>皆増</td> </tr> </tbody> </table> <p>・令和3年4月に開設し、産科外来で適宜対応していた婦人科診療について院内に広報・周知を行い、月経異常・無月経・月経痛などの症状で悩む患者及びその家族をケアし、治療や治療マネジメントを実施した。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度増減	患者数	561人	—	—	232人	329人	新患者数	121人	—	—	71人	50人	矯正用ヘルメット作成数	71件	—	—	30件	41件	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度増減	成育女性外来患者数	94件	—	—	0件	皆増
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度増減																																			
患者数	561人	—	—	232人	329人																																			
新患者数	121人	—	—	71人	50人																																			
矯正用ヘルメット作成数	71件	—	—	30件	41件																																			
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度増減																																			
成育女性外来患者数	94件	—	—	0件	皆増																																			

- ・4月5件、5月6件、6月9件、7月3件、8月12件、9月13件、10月10人、11月14人、12月6人、1月17人と増加傾向を維持。
- ・院内に成育女性科についての認知が進み新規患者の紹介が増え、紹介元の診療科も以前は血液腫瘍科、循環器小児科、小児内分泌科がほとんどであったが、眼科、リハビリ科、神経小児科等院内全体に広がった。
- ・子宮頸がんワクチン接種については成育女性科ではなく予防接種センターで実施しており、成育女性科としては、ワクチン接種の重要性や将来の子宮頸がん予防についての情報提供を行った。今後、予防接種センターと合同で、子宮頸がんワクチンについて院内の認知度をあげる目的で院内スタッフ向けのキャンペーンを実施予定である。
- ・感染症科、総合診療科と一緒にHPVワクチン啓蒙月間を計画し、各科の医師にHPVワクチン実施の再開やその重要性について周知した。

【周術期術前外来】

項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度増減
患者数	62人	—	—	8人	54人

患者内訳（眼科25人、麻酔科外来37人）

- ・眼科の手術患者で発達障がいのある患者について、手術室の入室や麻酔の導入がスムーズに行われることを目的に、麻酔科医とともに個別性を重視した対応を行った。視能訓練士との連携も定着し、対象患者の9割以上への介入ができ手術室への入室困難な症例は減少した。また、1月から麻酔科外来にて入院前の術前の患者評価やオリエンテーションを開始し、安全な麻酔導入の実施と患者及び家族が理解して手術を受けられる取組を行った。

【薬剤師外来】

項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
持参薬なし面談	633件	—	—	643件	98.4%

				件数																	
				薬剤鑑別件数	792件	—	—	764件	103.7%												
				計	1,425件	—	—	1,407件	101.3%												
				<p>・患者サポートセンターが9月13日から業務開始となった。現在、鼠経ヘルニア、停留精巣、陰嚢水腫、胃瘻造設・噴門形成、漏斗協、眼瞼下垂、検査入院（稲葉医師）が対応疾患となっているが、今後対応疾患の拡大予定もあり、入院前支援（手術前中止薬の確認、代替薬提案）への薬剤師のかかわりが増加する見込みである。</p>																	
17	<p>エ がん医療</p> <p>質の高いがん医療を提供するため、がん診療連携拠点病院との連携を強化し、がん診療機能の向上に努める。</p> <p>信州医療センターは、内視鏡センターの充実強化を図り、木曽病院は、地域がん診療病院として、がん患者の診療及び相談支援体制の充実に努める。</p>	信州	B	<p>・須高地域の市町村がん検診事業における対策型胃内視鏡検診の受託継続 令和3年度受託件数330件（令和2年度 312件）</p> <p>・新型コロナウイルスによる年度当初のドック受診控えの影響で内視鏡検査件数が減少 参照（p.62-No7）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内視鏡検査件数</td> <td>6,657件</td> <td>8,000件</td> <td>83.2%</td> <td>6,316件</td> <td>105.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・年度当初は、病院全体がコロナ患者受け入れと感染警戒レベルに対しての対応をとっていたために4月、5月の人間ドック受け入れ制限をかけていた。また、例年6月から実施している対策型胃検診においても受け入れ準備が整わず7月から実施した。以上の理由で目標件数に及ばなかった。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	内視鏡検査件数	6,657件	8,000件	83.2%	6,316件	105.4%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																
内視鏡検査件数	6,657件	8,000件	83.2%	6,316件	105.4%																

18	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域がん診療病院として、がん相談支援センターへ専従職員1人を引き続き配置した。 ・患者サロンは新型コロナウイルス感染症対策として、会場を変更して月2回開催から1回開催として行う予定だったが、県内の感染状況を鑑み、今年度は開催しなかった。 ・緩和ケアチームに認定看護師を引き続き専従で配置した。 ・信州大学医学部附属病院での症例検討会への定期的な参加及び信州大学がんセンターから派遣された教授による化学療法、放射線治療、緩和ケア等、病棟・外来での診療・職員への指導等、信州大学医学部附属病院との連携によりがん診療体制を強化した。 ・チャリティーイベント「リレーフォーライフジャパン松本」にオンライン参加した。 ・歯科口腔外科の開設により、がん患者の歯科治療を行った。 ・コロナの影響で終末期を在宅で看取るため、訪問診療を充実した。 ・MSWの患者への診断時からの早期介入を行った。 <table border="1" data-bbox="934 710 2016 858"> <thead> <tr> <th data-bbox="934 710 1146 762">相談実績</th> <th data-bbox="1146 710 1321 762">実績</th> <th data-bbox="1321 710 1494 762">年度目標</th> <th data-bbox="1494 710 1666 762">対目標比</th> <th data-bbox="1666 710 1839 762">前年度実績</th> <th data-bbox="1839 710 2016 762">対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="934 762 1146 858">がん相談支援センター</td> <td data-bbox="1146 762 1321 858">1,434件</td> <td data-bbox="1321 762 1494 858">-</td> <td data-bbox="1494 762 1666 858">-</td> <td data-bbox="1666 762 1839 858">1,286件</td> <td data-bbox="1839 762 2016 858">111.5%</td> </tr> </tbody> </table>	相談実績	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	がん相談支援センター	1,434件	-	-	1,286件	111.5%
相談実績	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
がん相談支援センター	1,434件	-	-	1,286件	111.5%											
19	こども病院は、小児がん診療機能の向上を図るとともに、小児がん連携病院として、小児がん拠点病院と連携して診療体制の整備に努める。	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> ・信州大学医学部附属病院、及び相澤病院とWEBを活用し密に連携し、小児がん治療の体制を構築している。 ・院内の小児がん診療体制を整備し、信州大学や地域医療機関と連携した全県的な小児がん治療体制の充実を目的として、令和4年4月からの小児がんセンター開設に向けて準備を進めた。 												

20	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピロリ菌専門外来の利用促進と検査の積極的な広報 	信州	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピロリ菌抗体測定検査についての積極的広報の実施 ・新型コロナウイルスによる受診控えの影響で検査件数が減少 <table border="1" data-bbox="936 284 2024 663"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康管理センターにおける抗体測定検査件数</td> <td>80件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>68件</td> <td>117.6%</td> </tr> <tr> <td>ピロリ菌専門外来への紹介件数</td> <td>39件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>45件</td> <td>86.7%</td> </tr> <tr> <td>うちピロリ菌専門外来での受診件数</td> <td>24件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>31件</td> <td>77.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・年度当初は、病院全体がコロナ患者受け入れと感染警戒レベルに対しての対応をとっていたために4月、5月の人間ドック受け入れ制限をかけていた。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	健康管理センターにおける抗体測定検査件数	80件	—	—	68件	117.6%	ピロリ菌専門外来への紹介件数	39件	—	—	45件	86.7%	うちピロリ菌専門外来での受診件数	24件	—	—	31件	77.4%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																						
健康管理センターにおける抗体測定検査件数	80件	—	—	68件	117.6%																						
ピロリ菌専門外来への紹介件数	39件	—	—	45件	86.7%																						
うちピロリ菌専門外来での受診件数	24件	—	—	31件	77.4%																						
21	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域がん診療病院としての診療機能を充実させるため歯科口腔外科の開設 	木曾	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療機能の充実のため、歯科口腔外科を令和3年4月に開設し、患者数は485人だった。 ・歯科口腔外科開設後の課題等への対応及び情報共有のため、ワーキンググループを昨年度から継続して開催した。(5月・7月・9月・2月に開催) 																								
22	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者への適正な生殖医療の提供や就学・就労支援体制の構築 	こども	<p>S</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当院でがん化学療法、造血幹細胞移植を受けた患者に対して、健康管理と治療による晩期合併症の早期発見や早期治療、また晩期合併症に対する予防的支援と小児がん経験者、AYA世代(39歳位まで)の経験者が、成人専門診療科や成人一般診療科への移行支援を目的に平成30年度からLTFU外来を開設。 ※AYA世代：Adolescent & Young Adult (思春期・若年成人：15歳～39歳位まで) ※LTFU外来：long term follow up (長期フォローアップ外来) ・LTFU外来を受診した件数は、R2年度 11人 → R3年度 68人に増加 ・がん医療を推進するため、緩和ケア医療、妊孕性温存や就労支援の実施体制を療育支援部と連携し推進した。妊孕性温存に関しては、卵巣保存2人、卵子保存1人に対応。復 																								

				学支援では、小学生2人、中学生2人に対応。ターミナル期を家族で過ごすためのファミリールームは、1年間に5人の家族が利用し、最後の時間を過ごされた。
--	--	--	--	---

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 県立病院が担うべき医療等の提供

(3) 災害医療等の提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

こころの医療センター駒ヶ根では、D P A T（災害派遣精神医療チーム）の登録機関として、各研修に参加し資格取得と研鑽に務めるとともに令和3年11月には駒ヶ根市で開催された長野県総合防災訓練に7人が参加した。

木曽病院では、駒ヶ根市で開催された県総合防災訓練に1チームが参加し、救護指揮所として活動した。また、災害拠点病院としての機能強化のため井戸水の浄化設備の整備を進めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 1(3) 1	災害医療等の提供 長野県地域防災計画に基づく県立病院の役割を果たすため、木曽病院は災害拠点病院及びD M A T（災害派遣医療チーム）指定病院として、こころの医療センター駒ヶ根はD P	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月5日 新規採用職員及び異動職員向けに防災についてのオリエンテーションを実施した。 ・ 4月27日 非常用連絡網メール配信システム「オクレンジャー」を使用し、全職員及び委託業者を対象とした非常招集及び伝達訓練（夜間想定）を実施した。 ・ 9月1日 本部事務局の衛星携帯電話の通話テストに参加した。

	<p>A T（災害派遣精神医療チーム）登録病院として、適時適切な医療活動を行う。</p> <p>他の県立病院においては、関係機関からの要請に応じた職員の派遣や患者の受け入れ等、適切に対応する。</p> <p>各病院は、災害発生時において必要な医療を確実に提供するため、電子カルテデータのバックアップのほか、災害時における医療提供体制を整備する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・衛星携帯電話の維持管理のため、トレーニングを兼ねた動作チェックを定期的実施した。 ・10月26日 須坂市消防本部の指導のもと、南棟1階放射線技師室から出火し、南棟1階及び2階病棟の患者を避難させる想定で、総合消防・防災訓練（全体）を実施した。 ・11月～12月 看護部の各部署において火災等の災害時を想定した訓練を実施した。 ・洪水時の避難確保計画の作成が義務化されたため、防災委員会で議論を行い作成した。また、併せて消防・防災計画及び災害対策マニュアルの改正も実施した。 ・防災用品が各所に分けて保管されていたが、駐輪場倉庫へまとめて保管する運用に変更した。 ・大規模地震発生に備えて、院内のロッカーやスチール棚等の転倒防止対策について、順次実施した。令和4年度中にすべての箇所を施工完了予定。
2	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時におけるDMAT（木曽）・DPAT（駒ヶ根）等による適時適切な医療活動 	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・11月14日に駒ヶ根市で行われた長野県総合防災訓練に7人が参加した。 ・院内研修を2回実施した。 6月 PFA(サイコロジカルファーストエイド)研修会 3月 トリアージ研修会 ・令和3年度長野県DPAT研修会（オンライン）に7人が参加した。 ・災害時PFAと心理対応研修会（オンライン）に2人が参加した。
3	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテの更新に合わせた電子カルテデータのバックアップ 	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・11月の電子カルテシステムの更新に併せて、災害時の電子カルテデータのバックアップを遠隔地のクラウドシステムを利用し行えるようシステム追加を実施
4	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時におけるDMAT（木曽）・DPAT 	木曽	A	<ul style="list-style-type: none"> ・9月に長野県DMAT緊急自動車運転研修に2人が参加し、緊急走行や安全補助要領等の実技を学んだ。 ・木曽保健福祉事務所職員を対象に開催する広域災害・救急医療情報システム（EMI

	(駒ヶ根)等による適時適切な医療活動			<p>S) 操作研修に講師として2人を派遣した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災時における対応の見直しを行うため、10月に避難訓練、3月に消火訓練を行った。 ・11月6～7日に、県DMAT養成研修に3人が参加し、隊員登録した。 ・11月14日に駒ヶ根市で開催された県総合防災訓練に1チームが参加し、救護指揮所として活動した。 ・11月25日の日本DMAT維持研修に4人が参加し、資格更新した。 ・災害拠点病院の機能強化のため、12月に災害救護訓練を行った。 ・3月13日に県が委託し長野県赤十字病院が開催した「県災害医療研修会(Web)」に2人が参加した。 ・BCP及び避難確保計画の整備を行った。
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時医療体制を整備するため令和3年12月11日に、大規模地震を想定した訓練を行った。訓練の結果を踏まえマニュアルの見直を行った。 ・年間を通して防災用物品の整理・更新を進めた。 ・災害時の電子カルテデータの利用については、引き続きBCP専用端末による通信確認を毎月1日から5日の間に実施し有事に備えた。
6	【令和3年度に推進する事項】 ・井戸水の浄化設備を整備し災害拠点病院としての機能を強化	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・災害拠点病院の機能強化のため、井戸水の浄化設備を整備した。

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 県立病院が担うべき医療等の提供

(4) 認知症の専門医療の提供

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

こころの医療センター駒ヶ根では、令和2年4月に開設した「認知症疾患医療センター」において、専門相談や鑑別診断、日常生活支援を開始し、関係機関等と連携して認知症の専門医療・専門相談を提供した。

阿南病院では、高齢者の多い当地域において、地域住民が住み慣れた場所で生活していける居場所づくりや相談から治療につなげる支援を行った。木曽病院では、院内研修の実施等により認知症ケア加算の取得を目指すなど、認知症ケアの充実に努めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評 定	取組結果及び取組の効果

第1 1(4) 1	<p>認知症の専門医療の提供</p> <p>こころの医療センター駒ヶ根は、認知症疾患医療センターにおいて、地元市町村、関係機関等と連携し、認知症に関する専門医療・専門相談を提供する。</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症疾患医療センターによる認知症の専門相談・鑑別診断のほか、地域包括ケアの支援体制の強化（駒ヶ根） 	駒 ヶ 根	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">専門医療相談</td> <td>電話</td> <td>1,198件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>958件</td> <td>125.1%</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>515件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>607件</td> <td>84.8%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">もの忘れ外来件数</td> <td>1,903件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,981件</td> <td>96.1%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(うち鑑別診断)</td> <td>(124件)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>(91件)</td> <td>(136.3%)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">ラウンド件数(延べ実施数)</td> <td>113件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>189件</td> <td>59.8%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">訪問支援(延べ件数)</td> <td>25件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>19件</td> <td>131.6%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">ピア活動(認知症カフェ等参画)</td> <td>31件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>19件</td> <td>163.2%</td> </tr> </tbody> </table>							項目		実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	専門医療相談	電話	1,198件	—	—	958件	125.1%	面接	515件	—	—	607件	84.8%	もの忘れ外来件数		1,903件	—	—	1,981件	96.1%	(うち鑑別診断)		(124件)	—	—	(91件)	(136.3%)	ラウンド件数(延べ実施数)		113件	—	—	189件	59.8%	訪問支援(延べ件数)		25件	—	—	19件	131.6%	ピア活動(認知症カフェ等参画)		31件	—	—	19件	163.2%
				項目		実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																																							
				専門医療相談	電話	1,198件	—	—	958件	125.1%																																																							
					面接	515件	—	—	607件	84.8%																																																							
				もの忘れ外来件数		1,903件	—	—	1,981件	96.1%																																																							
				(うち鑑別診断)		(124件)	—	—	(91件)	(136.3%)																																																							
				ラウンド件数(延べ実施数)		113件	—	—	189件	59.8%																																																							
				訪問支援(延べ件数)		25件	—	—	19件	131.6%																																																							
ピア活動(認知症カフェ等参画)		31件	—	—	19件	163.2%																																																											
<ul style="list-style-type: none"> 専用電話により当事者、家族、医療介護福祉関係者等からの相談対応を行った。 医師、保健師、公認心理師など多職種による「もの忘れ外来」を行い、地域包括支援センター、居宅介護事業所等への紹介など、地域における生活支援を行うため医療・介護の連携を進めた。 多職種で構成する「認知症高齢者ケアサポートチーム」によるラウンドを入院患者に実施した。 令和3年9月に地域連絡会議を新型コロナウイルス感染症対策のため、資料送付及びアンケートによる意見収集・回答を行った。 令和4年1月に認知症地域包括ケア及び地域連携を推進することを目的として、研修会をオンラインで開催した。(参加人数90人) 駒ヶ根市が実施する「認知症初期集中支援チーム事業」に認知症認定看護師と作業療法士が参画し、相談や訪問支援等を行った。 																																																																	

2	阿南病院及び木曽病院は、認知症に対する医療需要へ対応するため、診療及び患者や家族の相談・支援体制を充実する。	阿南	B	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				相談業務（院外）	112件	—	—	194件	57.7%
				認知症デイサービス	633人 (212日)	—	—	867人 (229日)	73.0% (92.6%)
				<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケア加算Ⅱ算定開始に合わせ、院内研修を実施し、ケアの充実に努めた。 ・相談業務は、専任スタッフと認知症看護認定看護師を配置することにより相談業務を実施した。また、HDS-Rなどの認知機能スクリーニング検査も実施した。 ・専任スタッフが中心となり、病棟、外来スタッフの協力を得ながら高齢者や認知症を併発した入院患者を対象とした院内デイサービスを継続して実施した。 					
3	同上	木曽	A	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症患者のアセスメントや看護方法等に係る院内研修の実施等により認知症ケア加算Ⅱを取得するなど認知症ケアを充実させた。 					
4	【令和3年度に推進する事項】 ・せん妄ハイリスク患者ケア加算の取得	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢の入院患者が多い状況のため、入院早期からせん妄のリスク因子をスクリーニングし、ハイリスク患者に対して非薬物療法（院内デイサービスなど）を中心に予防的なせん妄対策を行うための体制を作り開始した。 ・9月から「せん妄ハイリスク患者ケア加算」の算定を開始（件数256件 加算金額256,000円） 					
5	【令和3年度に推進する事項】 ・臨床心理技術者の確保等による認知症医療の充実	木曽	D	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理技術者の確保についてはコロナウイルス感染症の影響で収支が悪化していたため、採用を見送った。 					

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 県立病院が担うべき医療等の提供

(5) 介護サービスの提供

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

阿南介護老人保健施設は、下伊那南部地域の老健施設の拠点として介護保険における入所、短期入所、通所リハビリテーションサービスを切れ目なく提供した。また、老健本来の役割を踏まえた入所者の在宅復帰の支援、在宅への入退所前後の訪問を積極的に推進し、優位な介護報酬の施設基準を取得し増収を図った。

木曾介護老人保健施設は、多職種による自宅訪問を実施し、在宅復帰に重点をおいたサービスを提供した。

阿南病院訪問看護ステーションさくらは、人口減や在宅ニーズの低迷がある中でも、在宅での療養生活を継続できるよう切れ目なく支援を行った。

木曾病院介護医療院は、入所者のニーズを把握し、多職種との連携を強化。そして、個々の状況に応じた生活支援を行った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績						
		病院	評定	取組結果及び取組の効果				
第1 1(5)	介護サービスの提供 阿南介護老人保健施設、木曾介護老人保健	阿南	A	【阿南介護老人保健施設利用実績】				
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績

1	施設は、在宅復帰に重点を置いたサービスを提供する。			利用者数	13,969 人	13,800 人	101.2%	13,635 人	102.4%
				入所単価	11,018 円	10,688 円	103.1%	10,454 円	105.4%
				【在宅超強化型】※基本サービス料+加算の算定額の比較					
				項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				加算件数	13,969 件	13,800 人	—	13,635 件	102.4%
				加算金額	135,814,620 円	130,267,000 円	—	124,719,820 円	108.9%
				【通所リハママネジメント加算】					
				項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				算定件数	107 件	—	—	67 件	159.7%
				算定金額	638,070 円	—	—	221,100 円	288.6%
<ul style="list-style-type: none"> ・入所者数は圏域全体の人口減少や他施設との競合が厳しい状況が続いているが、入所期間の延長や在宅復帰した利用者の再入所等により前年度より334人の増加となった。 ・在宅復帰率の向上や在宅訪問を進め、基本サービスの施設基準について、4月から「在宅強化型」、10月から「在宅超強化型」の単位数を算定、加えて科学的介護推進システム（LIFE）を稼働してデータ提出を開始、「栄養マネジメント強化加算」「通所リハママネジメント加算」の算定が可能になり、入所単価が向上した。 									
2	同上	木 曾	A	【木曾介護老人保健施設利用実績】					
				項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				利用者数	15,684 人	16,485 人	95.1%	14,915 人	105.2%
				入所単価	11,904 円	11,547 円	103.1%	11,301 円	105.3%
				<ul style="list-style-type: none"> ・在宅強化型の維持により、自宅での生活能力が向上した。 ・多職種による在宅訪問を実施し、在宅復帰に重点をおいたサービスを提供した。 ・在宅復帰率を上げるため入所前後・退所前後の訪問指導の取組みを強化した。 ・短期集中リハビリ・認知症短期集中リハビリを実施し、認知機能等の維持向上が図れ 					

						た。																	
3	<p>阿南病院は、訪問看護ステーションの運営を行い、在宅医療・介護サービスを提供する。</p> <p>【訪問看護ステーション利用者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阿南</td> <td>1,006人 (病院の訪問のみ)</td> <td>2,900人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携し、介護ニーズに対応した訪問看護ステーションの安定的な運営及び利用者の拡大 	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標	阿南	1,006人 (病院の訪問のみ)	2,900人	阿南	B	<p>【訪問看護ステーション利用実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td>2,767人</td> <td>2,900人</td> <td>95.4%</td> <td>2,963人</td> <td>93.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う利用控えなどにより、利用者数は対前年度比93.3%に留まった。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	利用者数	2,767人	2,900人	95.4%	2,963人	93.3%	
病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																					
阿南	1,006人 (病院の訪問のみ)	2,900人																					
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																		
利用者数	2,767人	2,900人	95.4%	2,963人	93.3%																		
4	<p>木曽病院は、介護医療院の運営を行い介護ニーズに適切に対応する。</p>	木曽	B	<p>【木曽病院介護医療院利用実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td>6,449人</td> <td>6,570人</td> <td>98.2%</td> <td>5,834人</td> <td>110.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・入所者のニーズを把握し、多職種との連携を強化。そして、個々の状況に応じた生活支援を行った。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	利用者数	6,449人	6,570人	98.2%	5,834人	110.5%							
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																		
利用者数	6,449人	6,570人	98.2%	5,834人	110.5%																		

5	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーション事業所への移行に向けた検討 	信州	D	<p>令和3年度は地域の担当者が参加する須高地区訪問看護連絡会において周囲のステーションとの意見交換ができなかったため、ステーション事業所への移行に向けての取り組みはできなかった。今後は地域のステーションと交流し、当院の訪問看護室に期待することやステーション化に対する意見交換などを行いたい。</p>
6	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護医療院、介護老人保健施設及び地域包括ケア病棟の役割分担の明確化と効果的な活用 	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッドコントロール会議等で部署ごとの本来の機能を確認しながら情報を共有し、入所者の状態及びニーズに合ったサービスの提供を図った。

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 地域連携の推進

(1) 地域医療構想への対応

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

地域医療構想を踏まえ、地域における医療連携体制の強化について、県立病院としての役割・使命を果たすべく、信州医療センター、阿南病院、木曾病院は、地域医療構想調整会議等の場における議論を通して検討を行った。

こころの医療センター駒ヶ根は、精神科地域包括ケアシステムの一資源として、訪問看護ステーション開設に向けた検討を行った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 2(1) 1	地域医療構想への対応 地域医療構想を踏まえ、地域医療構想調整会議における議論を通じて、地域における医療連携体制の強化について検討し、県立病院としての役割・使命を果たす。	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> ・例年2回開催されている地域医療調整会議は新型コロナウイルス感染症への対応のため、本年度は1回の書面開催となり、長野医療圏域の3施設からの病床機能変更等の申請について審議されるにとどまった。 ・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症（新興感染症）に関する県、保健所、近隣医療機関との情報共有が積極的に行われ、当院は感染症指定医療機関・重点医療機関として連携体制の強化に貢献した。 ・県の許可（2020年3月）のもと北6階結核病棟を新型コロナウイルス感染症対応病棟と

				<p>し、昨年度に引き続き同病棟での受入を行い、本年度の第4波、第5波・第6波においても多くの患者さんの診療・治療を行った。</p> <p>昨年度当初、県から即応病床として14床(中等症、透析患者、妊婦患者)の確保が求められ対応していたが、長野医療圏域の保健所長と感染症患者受入病院長の合同テレビ会議(原則毎週1回開催)などを通じ情報交換する中で、即応病床数の増減の必要性が出てきたため、あらためて県からの要請に基づき以下の通りの病床数の確保を行った。2021年2月より即応病床18床、5月より22床。7月より14床、8月より18床、10月より14床、11月中旬より8床、2022年1月中旬より14床、同下旬より22床。またこれに合わせ、必要時にはスタッフの配置換え等を行った。特に5月の病床確保に際しては、感染症対応スタッフ確保のため地域包括ケア病棟の稼働病床数を49床から25床に削減し、一時的な入院制限を行った。</p>
2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> 精神科地域包括ケアシステムの一資源として、令和4年8月の訪問看護ステーション開設に向けて、近隣クリニック等への訪問調査や情報収集を行い基本計画の策定を進めた。
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> 阿南病院と下伊那南部地域に所在する福祉施設とが相互に連携し、保健、医療、福祉を一体的に推進するため、「地域医療福祉連携会議」を開始した。 阿南病院の現状を地域に伝え、要望や意見を運営に反映させるため、下伊那南部5町村の首長及び議会議長、地元選出の県議、県機関等を構成員とした「病院運営懇談会」を、昨年引き続き開催した。訪問看護ステーションを含めた病院の経営状況や新型コロナウイルス感染症への対応、常勤医不在となった売木村診療所への医師派遣状況などを説明した。
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> 12月に開催された木曾地区医療協議会にて、病棟編成、新型コロナウイルス感染症への対応、在宅医療の充実、診療所との連携強化等について当院の取り組みを説明した

5	【令和3年度に推進する事項】 ・開設した地域包括ケア病床の適切な運用	阿南	A	実績	計画	対計画比	病床利用率	1日あたり 入院単価
				3,657人	-	-	59.3%	34,905円
				【地域包括ケアシステムの推進】 <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度3月から本格的に稼働開始した包括ケア病床の適切な運用方法を検討するため、多職種による拡大ベッドコントロール会議を月1回実施。利用率の向上を図った結果、計画を大幅に上回る入院患者数となった。 ・4階病棟看護師を対象に効率的なベッドコントロールを進めるため、地域包括ケア病床についての研修会を実施。 ・タイムリーな運用を目的として、老健、訪問看護を含めた各師長、理学療法士にて患者、利用者の情報共有を目的とした連絡会議を開始した。 				

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 地域連携の推進

(2) 地域包括ケアシステムの推進

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州医療センターでは、地域包括ケア病棟において、急性期病院との連携のほか、慢性期対応病院や介護施設及び訪問看護ステーションとの連携を図り、地域包括ケアシステムの中核的役割を果たした。訪問リハビリでは、育産休の取得のため、9月からスタッフが1.5人減り訪問件数が減少した。その中でも新規の受け入れに努めた。

こころの医療センター駒ヶ根では、精神障がい者にも対応した地域包括ケアへの参画や精神科訪問看護の充実、強化による地域生活、社会復帰支援を実施し、訪問看護ステーション開設に向けて準備を進めた。

阿南病院では、地域医療総合支援センターを中心に、訪問診療・看護・リハビリ・服薬指導等を積極的に実施し在宅医療の充実を図った。

木曽病院では、患者サポートセンターを中心に、地域の医療・介護・福祉施設等との連携、退院調整、相談支援等の実施体制を強化し、また、地域の高齢化及び住宅でのターミナルケア等の患者ニーズに対応するため、24時間365日訪問体制の維持等により、在宅医療を積極的に展開した。

こども病院は、医療的ケアが必要な在宅患者に対応するために開設した訪問診療センターにおいて、引き続き小児の訪問診療及び訪問リハビリを実施した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績	
		病	評
			取組結果及び取組の効果

		院	定																		
第1 2(2) 1	<p>地域の実情に応じた医療・介護ニーズに適切に対応するため、関係機関等と連携し、在宅医療に積極的に取り組むとともに、地域における各病院の立ち位置に応じて地域包括ケアシステムにおける役割を果たす。</p> <p>こころの医療センター駒ヶ根は、精神障がい者の地域生活を支援する体制を強化し、こども病院は、小児の訪問診療を充実する。</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトチームを設置し、返書作成マニュアルの整備及びかかりつけ医との連携強化による逆紹介率の向上 	信州	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域の病院、診療所、訪問看護ステーション及び3市町村の連携による「須高在宅ネットワーク」に参加し「地域みんなで支える在宅医療」の維持継続に寄与した。また、地域包括ケア病棟は、急性期病院との連携のほか、慢性期対応病院や介護施設及び訪問看護ステーションと連携を図り、地域包括ケアシステムの中核的役割を果たした。 返書の未作成リストを作るサイクルを今までよりも短期化し、頻繁に医師に作成依頼を行うことで返書作成率は向上した。 逆紹介率の向上が課題であることについて院内広報を行うと共に、医師が診療情報提供書などの作成の際に戸惑わないよう電子カルテ上の文書種別を分かり易い表示に変更した。それにより、逆紹介率は大幅にアップした。 引き続きフィードバックを丁寧に行い、他の医療機関とのより良い連携と患者さんの利益につなげていく。 																	
2	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神科訪問看護ステーションの開設に向けた基礎調査等の準備 	駒ヶ根	A	<p>参照 (p.50-No.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> デイケアにおいて、円滑な地域移行に結びつけるため、新型コロナウイルス感染症により中止していた一般就労出前講座(2回)や作業所見学(7回)を再開した。 思春期デイケアのプログラムをPRするため、地域の中学校教員の見学(2回、20人)を実施した。 																	
3	同上	阿南	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度計画</th> <th>対計画比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リハビリテーション患者数</td> <td>11,159人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>13,111人</td> <td>85.1%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比	リハビリテーション患者数	11,159人	-	-	13,111人	85.1%
項目	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比																
リハビリテーション患者数	11,159人	-	-	13,111人	85.1%																

				脳血管・廃用・運動器・呼吸器	15,752 単位	—	—	19,658 単位	80.1%																													
				(内訳) 理学療法士 (PT)	9,051 単位	—	—	10,140 単位	89.3%																													
				作業療法士 (OT)	3,829 単位	—	—	6,517 単位	58.8%																													
				言語聴覚士 (ST)	2,872 単位	—	—	3,001 単位	95.7%																													
				早期リハ加算 (30 日以内介入)	6,252 単位	—	—	11,163 単位	56.0%																													
				(内訳) 理学療法士 (PT)	3,208 単位	—	—	5,198 単位	61.7%																													
				作業療法士 (OT)	1,221 単位	—	—	3,774 単位	29.7%																													
				言語聴覚士 (ST)	1,823 単位	—	—	2,191 単位	83.2%																													
				<p>・年度当初の作業療法士 (OT) の欠員や理学療法士 (PT) の長期休暇の影響が大きかったうえ、アイライフあなんへの応援派遣等にも対応した結果、PTとOTは単位数低下がみられた。一方、言語聴覚士 (ST) については昨年並みの実績を確保した。また、地域包括ケア病棟入院患者が早期加算対象外となることから算定数は大幅に減少したが、多くの単位数を地域包括ケア病棟に投入したことにより、病院機能向上に貢献できた。</p>																																		
				<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">訪問診療</td> <td>実患者数</td> <td>214人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>291人</td> <td>73.5%</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>238件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>313件</td> <td>76.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">訪問リハビリ</td> <td>実患者数</td> <td>325人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>236人</td> <td>137.7%</td> </tr> <tr> <td>単位数</td> <td>2,050単位</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,688単位</td> <td>121.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・訪問診療は、患者さんの死亡や施設入所の増加により減少した。 ・訪問リハビリは、安定的に利用者が確保されたことにより、大幅に単位数が伸びた。</p>						項目		実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	訪問診療	実患者数	214人	—	—	291人	73.5%	件数	238件	—	—	313件	76.0%	訪問リハビリ	実患者数	325人	—	—	236人	137.7%	単位数	2,050単位
項目		実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																
訪問診療	実患者数	214人	—	—	291人	73.5%																																
	件数	238件	—	—	313件	76.0%																																
訪問リハビリ	実患者数	325人	—	—	236人	137.7%																																
	単位数	2,050単位	—	—	1,688単位	121.4%																																
4	同上 【令和3年度に推進する事項】 ・在宅療養支援病院としての機能の充	木曾	A	<p>・木曾広域連合から運営を委託された「在宅医療・介護連携支援センター」により、郡内各関係機関の情報共有や共通課題の解決を図り、地域包括ケアシステムの中核的役割を果たした。 ・在宅療養支援病院として、緊急時の連絡体制並びに24時間往診及び24時間訪問看護の提供が可</p>																																		

	実			能な体制を確保した。																		
5	同上 【令和3年度に推進する事項】 ・訪問診療センター・訪問ケア科による小児の訪問診療を充実	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策のためWebを活用してカンファレンスを実施した。院外カンファレンスのうちWeb会議は86件で院外会議の87%にあたる。 ・医療機関だけではなく訪問看護、訪問リハビリテーション、薬局、相談支援専門員など、多機関多職種とのカンファレンスを行い、多機関共同指導加算12件を算定した。 ・院外カンファレンスを通し、転院、退院に向け地域機関病院、訪問看護ステーション、リハビリテーション施設、福祉、教育、行政との連携強化に努め、スムーズに地域へ移行することができた。 ・在宅移行だけでなく、件数は少ないが患者・家族のニーズに合わせ自宅での看取りへの在宅医師や地域病院との連携が図れた。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度計画</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カンファレンス件数</td> <td>305件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>296件</td> <td>103%</td> </tr> <tr> <td>(うち院外件数)</td> <td>(99件)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>(137件)</td> <td>(72.3%)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問診療については、参照 (p.8-No.10) 	項目	実績	年度計画	対目標比	前年度実績	対前年度比	カンファレンス件数	305件	—	—	296件	103%	(うち院外件数)	(99件)	—	—	(137件)	(72.3%)
項目	実績	年度計画	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
カンファレンス件数	305件	—	—	296件	103%																	
(うち院外件数)	(99件)	—	—	(137件)	(72.3%)																	
6	【令和3年度に推進する事項】 ・認定看護師等の知識を地域に対し広報誌等で積極的に発信	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・病院職員の専門知識を生かし、地域住民の健康意識の向上とともに病院活動の情報発信となるように「出前講座」として昨年度より多い27講座を企画し、医師や認定看護師などの資格を有した看護師等を中心に実施(8回実施、171人参加 令和2年度は新型コロナにより実施なし) ・地域医療連携会議内でミニ講座を開催 																		

7	【紹介率及び逆紹介率】(単位：%)				信州	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>28.4%</td> <td>34.0%</td> <td>83.5%</td> <td>33.1%</td> <td>86.7%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>26.8%</td> <td>21.0%</td> <td>127.6%</td> <td>23.8%</td> <td>113.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考：令和3年度より地域医療支援病院計算式による算出へと変更。令和2年度まで採用していた全国自治体病院協議会計算式によると、紹介率55.7%、逆紹介率31.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題であった逆紹介率の向上は院内啓発と診療部の協力等により、対目標比129.0%となり目標を大きく達成した。 ・新型コロナ病床即応病床確保のための地域包括ケア病床削減が、紹介率減少の要因の一つとなった。一方、紹介率算定のための分母に関与する「紹介なしの初診患者数」が大幅に増加したため、紹介率の減少に繋がったと考えられる。「紹介なしの初診患者数」が増加した原因としては、新型コロナウイルス感染の疑いで、自発的に受診する患者数が増加したことがあげられる。紹介なし患者の受診制限は地域の医療機関として現在のところ困難なため、紹介率の向上は難しい。 						区分	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	紹介率	28.4%	34.0%	83.5%	33.1%	86.7%	逆紹介率	26.8%	21.0%	127.6%	23.8%	113.9%
	区分	実績	年度目標	対目標比			前年度実績	対前年度比																						
紹介率	28.4%	34.0%	83.5%	33.1%	86.7%																									
逆紹介率	26.8%	21.0%	127.6%	23.8%	113.9%																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th colspan="2">令和元年度実績</th> <th colspan="2">令和3年度目標</th> </tr> <tr> <th></th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州</td> <td>33.7</td> <td>20.7</td> <td>34.0</td> <td>21.0</td> </tr> </tbody> </table>		病院名	令和元年度実績		令和3年度目標			紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	信州	33.7	20.7	34.0	21.0														
病院名	令和元年度実績		令和3年度目標																											
	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率																										
信州	33.7	20.7	34.0	21.0																										
8	同上 (単位：%)				駒ヶ根	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>49.3%</td> <td>52.0%</td> <td>94.8%</td> <td>52.5%</td> <td>93.9%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>44.6%</td> <td>40.0%</td> <td>111.5%</td> <td>48.1%</td> <td>92.7%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症疾患医療センターにおいて、鑑別診断の件数が増加し、紹介元の医療機関及び地域包括支援センター等への逆紹介率が増加した。 						区分	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	紹介率	49.3%	52.0%	94.8%	52.5%	93.9%	逆紹介率	44.6%	40.0%	111.5%	48.1%	92.7%
	区分	実績	年度目標	対目標比			前年度実績	対前年度比																						
紹介率	49.3%	52.0%	94.8%	52.5%	93.9%																									
逆紹介率	44.6%	40.0%	111.5%	48.1%	92.7%																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th colspan="2">令和元年度実績</th> <th colspan="2">令和3年度目標</th> </tr> <tr> <th></th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駒ヶ根</td> <td>51.8</td> <td>35.7</td> <td>52.0</td> <td>40.0</td> </tr> </tbody> </table>		病院名	令和元年度実績		令和3年度目標			紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	駒ヶ根	51.8	35.7	52.0	40.0														
病院名	令和元年度実績		令和3年度目標																											
	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率																										
駒ヶ根	51.8	35.7	52.0	40.0																										
9	同上 (単位：%)				阿南	S	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>34.2%</td> <td>23.0%</td> <td>148.6%</td> <td>31.2%</td> <td>109.6%</td> </tr> </tbody> </table>						区分	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	紹介率	34.2%	23.0%	148.6%	31.2%	109.6%						
	区分	実績	年度目標	対目標比			前年度実績	対前年度比																						
紹介率	34.2%	23.0%	148.6%	31.2%	109.6%																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th colspan="2">令和元年度実績</th> <th colspan="2">令和3年度目標</th> </tr> <tr> <th></th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> <th>紹介率</th> <th>逆紹介率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阿南</td> <td>34.2</td> <td>23.0</td> <td>23.0</td> <td>23.0</td> </tr> </tbody> </table>		病院名	令和元年度実績		令和3年度目標			紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率	阿南	34.2	23.0	23.0	23.0														
病院名	令和元年度実績		令和3年度目標																											
	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率																										
阿南	34.2	23.0	23.0	23.0																										

	名	紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率			逆紹介率	22.4%	16.0%	140.0%	17.6%	127.3%
	阿南	22.5	15.3	23.0	16.0			・飯田市立病院からの感染者受入れ及び診療からの紹介により紹介率は増加。診療所からの紹介の増加に伴い逆紹介率も増加					
10	同上 (単位：%)					木曾	B						
	病院名	令和元年度実績		令和3年度目標				区分	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
		紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率			紹介率	17.0%	22.0%	77.3%	20.1%	84.6%
	木曾	28.1	21.5	22.0	26.0	逆紹介率	31.0%	26.0%	119.2%	28.0%	110.7%		
							<ul style="list-style-type: none"> ・紹介率は、紹介患者数自体はほとんど変わらないが、初診救急患者の減少と分母である初診患者数全体の増加により、計画値・前年度値を下回った。 ・逆紹介率は、信州大学医学部附属病院や伊那中央病院への逆紹介患者数の増加、地域のかかりつけ医への逆紹介で機能分化が出来、計画値・前年度値を上回った。 						
11	同上 (単位：%)					こども	B						
	病院名	令和元年度実績		令和3年度目標				区分	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
		紹介率	逆紹介率	紹介率	逆紹介率			紹介率	69.0%	77.0%	89.6%	70.5%	97.8%
	こども	75.4	75.1	77.0	73.9	逆紹介率	78.6%	73.9%	106.3%	80.6%	97.5%		
							<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療支援病院計算式により算定。なお、紹介率、逆紹介率ともに地域医療支援病院認定要件を満たしている。 						

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 地域連携の推進

(3) 地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州医療センターでは、須高地域の医療機関、介護施設及び住民と活発に交流し、地域の中核病院として地域医療に貢献した。また、市町村と連携し対策型胃内視鏡検診・大腸内視鏡検診の啓発を実施した。

こころの医療センター駒ヶ根では、市町村、児童相談所等と連携し、虐待や自殺企図、摂食障がいなどの緊急入院に対応した。

阿南病院では、乳児健診において町村保健師等と連携した発達障害児の早期発見とフォローアップ体制の整備を行った。

木曾病院では、患者サポートセンターを中心に、地域の医療・介護・福祉施設等との連携、退院調整、相談支援等の実施体制を充実させた。

こども病院では、療育支援において、当院の役割への理解、転院・退院後の連携について、地域基幹病院及び入所施設との情報交換を行い、病院間連携を進めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果

第1 2(3) 1	各病院は、市町村、保健福祉事務所、児童相談所等の関係機関やNPO等と連携し、児童虐待への対応や発達障がい児、医療的ケア児への支援等に取り組む。 市町村等が行う健康増進施策と連携した疾病予防及び母子保健、地域のニーズに応じた健康寿命の延伸に資する取組や地域の福祉関係機関等が行う退院後の支援等に対し、積極的に協力する。	信州	B	(高度医療機器の共同利用件数)					
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				CT	305件	—	—	328件	93.0%
				MR I	249件	—	—	240件	103.8%
				内視鏡	378件	—	—	351件	107.7%
				その他 (RI、超音波、脳波等)	59件	—	—	66件	89.4%
				計	991件	—	—	985件	100.6%
				<ul style="list-style-type: none"> ・須高医師会が開設する須高休日緊急診療室を当院内で実施した。 ・DV、小児・高齢者・障がい者虐待などが疑われたり認められたりした場合は、チェックシートを用い早期発見に努めた。定期・臨時ACPT会議（院内虐待対応会議）で、医師、看護師及び相談員等が情報を共有・検討し、市町村、保健福祉事務所、児童相談所等の関係機関と連絡を密に取り合い、連携して対応した。 ・須坂市の保健師や当院の産婦人科医・小児科医・助産師・医療ソーシャルワーカー、精神科医等多職種が連携し、妊娠期から産後まで切れ目のない支援を行った。地域の産前産後の母親のメンタルヘルスを向上させ、産後うつ予防、子どもへの虐待防止に貢献した。また、須坂市、小布施町、高山村、長野市との連携により、産後ケア事業を受託し、産後に家族の援助が受けられない者や育児に不安がある者を対象に、授乳相談や新生児の一時預かりを行った。 					
2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・入院後速やかに多職種により地域関係者及び家族と支援会議を行い、退院後の地域生活について協議した。 ・地域支援者の状況、福祉制度利用状況、入院及び退院時の課題などのアセスメントを実施し、地域生活へのスムーズな移行、施設での生活維持に向けた支援を行った。 ・保健所、市町村等と連携し、「措置入院者退院支援計画」を作成した。（4件） 					

3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小児発達障害診療のため専門リハビリスタッフの早期確保・養成により効果的な医療を提供した。 ・乳児健診において町村保健師等と連携した発達障害児の早期発見とフォローアップ体制を整備した。 																										
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・患者サポートセンターを中心に、地域の医療・介護・福祉施設等との連携、退院調整、相談支援等の実施体制を充実させた。 ・新設した部位別がん検診（胃・膵臓・肺・大腸）について木曾郡内の町村を訪問し、周知を図るとともに、受診の際の助成についての検討を依頼した。 																										
5	同上	こども	A	<p>【発達障がい専門外来】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい専門外来では94人の診察を行った。（内訳：幼児59人、学齢児35人） <p>幼児においては、健診外来で精査が必要とされた児を院内紹介により発達障害専門外来で受け入れ19人が受診した。また、病院近隣地域の保健・福祉機関からの受け入れも順調に進んでいる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> <th>実施後の経過</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発達障がい専門外来</td> <td>94人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>83人</td> <td>113.3%</td> <td>紹介元医療機関で継続フォロー</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の発達障害理解に係る支援者育成として発達障害専門外来学習会を1回開催した。 <p>「医療からみたLD～教育と医療のより良い連携のために～」をテーマにWeb配信で開催し、県内の小中学校教諭（小児科医含む）179人が参加した。</p> <p>【患者支援地域連携会】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	実施後の経過	発達障がい専門外来	94人	—	—	83人	113.3%	紹介元医療機関で継続フォロー	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比						
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	実施後の経過																								
発達障がい専門外来	94人	—	—	83人	113.3%	紹介元医療機関で継続フォロー																								
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																									

				患者支援 地域連携 会	26回	—	—	15回	173.3%	
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 連繋機関の内訳は、医療機関12件、福祉機関7件、教育機関5件、行政2件であった。 ・ 昨年度よりWebでの会議を更に推進してきたため、スムーズな運営が可能となった。当院と連携機関との共通症例についての検討が主であるが、各療法の開始基準、終了基準、外来受け入れのシステムなどについての情報交換がなされた。 <p>【療育支援関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援会議、関係者会議を通し、地域基幹病院及び保険福祉事務所、児童相談所、福祉事業所、行政機関、入所施設との情報交換を継続している。 ・ 上伊那圏域、北信圏域自立支援協議会に参加し、当院の在宅移行支援と療育支援部の役割について説明し、意見交換を行った。 						
6	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心不全、糖尿病、フレイル等に対する地域連携ケアシステムの構築に向け、多職種による予防的リハビリテーションを実施 	信州	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で中止されていた須高地域リハビリテーション連絡会を8月にWEBにて再開し地域連携ケアシステム構築に向けた情報共有を実施。 ・ 地域との連携には至らなかったが、心不全リハビリについてWEB研修（出前講座）開催に向けた資料作成までは完了した。 						

7	【内視鏡検査件数】			信州	B						
	病院名	令和元年度 実績	令和3年度 目標			項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	信州	6,334	8,000			6,657件	8,000件	83.2%	6,316件	105.4%	
	【令和3年度に推進する事項】					<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初は、病院全体がコロナ患者受け入れと感染警戒レベルに対しての対応をとっていたために4月、5月の人間ドック受け入れ制限をかけていた。 ・当院広報誌や地域のフリーペーパー、ケーブルテレビなどを活用し、内視鏡検査の有効性等について継続した発信を行った。 					
8	【令和3年度に推進する事項】			駒ヶ根	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所との連携強化のため、諏訪及び飯田児童相談所へ医師を派遣した。 ・市町村、児童相談所等と連携した虐待や自殺企図、摂食障がいなどの緊急入院に対応した。 ・児童病棟満床時には、緊急避難的に成人病棟で児童患者を受け入れた。 					
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所・要保護児童対策地域協議会等と連携し児童虐待や自殺企図児童などの緊急入院に対応 					項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
						新規入院患者数	45件	—	—	53件	85.0%
						(うち緊急・優先入院)	(6件)	—	—	(3件)	(200.0%)
						(うち成人病棟への入院)	(4件)	—	—	(24件)	(16.7%)

9	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 信州母子保健推進センターとの連携による保健師、助産師の研修を実施 	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年2月4日に周産期看護連絡検討会を開催(WEB)し、10施設29人が参加。コロナの状況での面会状況等について意見交換と講義を行った。 令和4年2月19日に予防接種従事者研修会を開催(WEB)し、62人が参加。 令和4年3月29日に市町村保健師研修を開催(WEB)し、52市町村61人が参加。移行期支援について、予防接種について研修と意見交換を行った。 												
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健診初診外来件数</td> <td>106件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>47件</td> <td>225.5%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	健診初診外来件数	106件	—	—	47件	225.5%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
健診初診外来件数	106件	—	—	47件	225.5%											

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 医療従事者の養成と専門性の向上

(1) 県内医療に貢献する医師の確保・養成

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

総合診療専門医の養成については、信州医療センターは引き続き基幹施設として、他の県立病院は連携施設として、総合診療専門研修プログラムに基づき総合診療医の養成を推進した。

信州医療センターは、信州大学と共同して総合内科医養成講座(寄附講座)を開講した。初期研修については、定期的なシミュレーション研修を行い、確かな技術の向上に努めた。

各病院においても、精神科や小児科などの臨床研修プログラムにより臨床医を受け入れ、県内医療に貢献する医師の育成に尽力した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 3(1) 1	各病院は、特色を活かした臨床研修プログラムやシミュレーション教育を充実させ、研修指導体制を強化するとともに、積極的な広報活動と県立病院間の指導医連携を推進し、	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> 医師の確保に向け医師求人サイトへの掲載、大学医局との連携などあらゆるチャンネルを駆使し、県、機構本部と病院が一体となり取り組んだ。 医師臨床研修マッチングにおいて、コロナ禍で合同説明会が中止になったが、オンラインによる説明会を実施することで、医学生に寄り添った情報発信と当院の良さをアピールし、1人の研修医を確保。また信州大学からのたすき掛け研修医1人及び自治医科大

	<p>医学生、初期臨床研修医及び専攻医の受入れと育成を行う。</p> <p>信州医療センターは、信州大学医学部寄附講座を開設し総合内科専門医の養成に取り組み、こころの医療センター駒ヶ根は、児童精神科医の育成に努める。</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新専門医制度に対応したプログラムにより総合診療医の養成と定着を支援（信州） ・信州大学医学部との寄附講座を開設し、総合内科専門医の育成プログラムの策定及び専門研修医の受入れ準備（信州） 			<p>学卒業生3人を含む5人の研修医を確保できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPの掲載内容の充実や、研修医ブログの定期的な更新の効果もあり、11人の病院見学者を受け入れた。 <p>【総合内科医の養成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新専門医制度に対応したプログラムの作成及びスタッフの充実を図り、総合内科医の養成と定着を推進するため、4月から「総合内科医育成学講座(寄附講座)」を開講した。 ・信州大学との寄附講座により担当教員（内科系）2人を配置し、プログラム作成と専門医確保の準備を進めた。
2	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期研修医制度の精神科必須化への対応 	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日本精神神経学会新専門医制度における信州大学の精神科研修プログラムの連携施設として引き続き専攻医1人を育成した。 ・子どもこころ専門医機構に研修施設群（基幹病院）として、12月に承認された。 ・医学生7人及び初期臨床研修医17人を受け入れた。
3	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師確保を目的とした阿南町との連携による医師住宅の整備 	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した医師住宅について、阿南町の支援を受け2棟を新築
4	<p>同上</p>	木曾	A	<p>信州大学医学部の研修医及び医学生の受け入れを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信大地域医療研修医実習 1人 ・6年次選択臨床実習 3人 ・5年次150通り実習 9人

5	同上	こ ど も	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度採用専攻医に対してオンラインによる病院見学会を実施し、7人が参加した。参加者のうち2人が当院専攻医に応募し、参加者以外からの応募も合わせて、5人の応募があり4人の専攻医を採用した。(前年度6人採用) ・専攻医教育に関して、毎週Webレクチャーと、救急外来振り返りの会を開催、また、救急シミュレーション教育を隔週で実施した。 ・3月5日に本部研修センター主催で学生向けjointセミナーが開催され、当院医師が医学生に向けて実習・講義を行った。 ・信州大学医学部の講義や実習受け入れを継続した。感染対策のため一時受入中止を余儀なくされたが、27人のうち16人の実習生を受け入れた。(前年度は21人のうち5人受入) 実習に参加した学生のアンケートでは好評価を得た。 ・初期研修医は、相澤病院5人(前年度5人)、飯田市立病院1人(前年度0人)、松本市立病院1人(前年度0人)の研修受入を実施した。
6	<p>本部研修センターは、信州医師確保総合支援センター分室として、県との連携を強化し、医療職を目指す地域の中高生、医学生や医師を対象とした研修を充実する。</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学生や初期臨床研修医等を対象としたシミュレーション教育の充実 	本 部	B	<ul style="list-style-type: none"> ・信州医療センターにおいて「信州大学医学部150通りの選択肢からなる参加型臨床実習」を行う医学生へ、シミュレーション教育を28回実施し、延べ62人が参加した。 ・信州医療センターの1年目初期研修医へ、シミュレーション教育を24回実施し、延べ80人が参加した。 ・信州医療センターにおいて病院見学中の医学生へ、スキルスラボ及び初期研修医向けシミュレーション教育の説明を8回実施し、8人が参加した。
9	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師確保推進のための医学生対象長野県立5病院 joint セミナーの開催 	本 部	B	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県立5病院JointセミナーYouTube公式チャンネルに昨年度掲載した動画を含めた限定公開及び公開動画26本を更新。(現チャンネル登録56人、再生回数567回) ・ライブ配信(3月5日)では10大学20人の参加があった。

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 医療従事者の養成と専門性の向上

(2) 機構職員の養成

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州医療センターは、指定研修機関として、令和3年10月に看護師特定行為研修（第2期）を開講した。

本部研修センターは、課程別の基礎研修から医療技術職員に対する専門研修まで含めた体系的な研修カリキュラムを構築し、計画的な人材の育成に努め、各病院においても、独自の院内研修の充実により、職員の資質向上に努めた。

各病院においては、医師・看護職・医療技術職の認定資格の取得を奨励し専門研修への派遣を行い、医療技術の向上を図った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 3(2) 1	<p>全職員を対象とした研修体系の評価と見直しを継続的に行い、研修の充実を図ることにより、職員の知識、技術、資質の向上を図る。</p> <p>医師、看護師、医療技術職員等の認定資格の取得を推進する。</p> <p>信州医療センターは、機構本部と連携し、指定研修機関として特定行為ができる看護師</p>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研修センターと連携し、医師・研修医・医学生・看護師等を対象にシミュレータを活用した技術研修を実施した。 ※腹腔鏡、大腸カメラ、上部消化管内視鏡、中心静脈カテーテル挿入シミュレータ、分娩シミュレータ、AED、Simman 3 G、さくら、リトルアン、切開キットなどを使用した。 ・初期研修医シミュレーション教育を年間通して15回実施した。 ・院内の各委員会等の企画による研修会を計画し順次実施 新任職員（医師）オリエンテーション、院内感染対策研修会、医療安全推進研修会、褥

	<p>の養成を進める。</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定研修機関として特定行為ができる看護師の養成（信州） ・ 			<p>瘡予防研修会、育児休暇中フォローアップ研修会、重症度・医療・看護必要度研修会、クリニカルパス学習会、口腔ケア研修会、接遇研修会、糖尿病学習会、医療ガス安全管理研修会、RST呼吸器学習会、看護師復帰支援研修会、臨床病理カンファレンス等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年10月に看護師特定行為研修（在宅・慢性期領域パッケージ研修）を開講し、当院2人の看護師を含む県立病院機構看護師5人が受講した。令和3年9月30日、受講者5人を修了認定した。 ・第2期は当院3人の看護師を含む県立病院機構看護師6人が令和3年10月より受講開始 ・研修内容は、在宅・慢性期領域パッケージ研修（長期呼吸療法に係る呼吸器関連、ろう孔管理関連、創傷管理関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連）及び血糖コントロールに係る薬剤投与関連
2	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病全般にわたる疾病・がんの栄養管理・栄養療法ができる管理栄養士の養成 	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> ・病態栄養学会・日本栄養士会認定資格であるがん病態栄養専門管理栄養士資格更新のためe-ラーニングでがん栄養療法について1人受講した。 ・日本栄養士会特定分野認定資格、食物アレルギー管理栄養士資格取得のためe-ラーニングで基礎研修を1人受講した。
3	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科認定看護師の養成（駒ヶ根） 	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科認定看護師の養成のため、1人が資格取得した。 ・令和2年度に整備したキャリアマネジメントシステムの利用拡大を図るため、職員へ操作説明会を実施し、研修体系の一元管理に取り組んだ。
4	<p>同上</p>	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・看護部教育体制の見直しを行い、継続教育の充実に取り組んだ。 ・認定看護師、特定行為研修修了看護師等により「リソースナース会」を設置し、専門的な知識を院内外へ啓発し、看護の質の向上に向けた取り組みを開始した。 ・認知症認定看護師により「せん妄への理解と身体抑制に対する考え方」を実施した。（参加者14人）
5	<p>同上</p>	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特定行為研修に2人が終了し、新たに2人が参加した。 ・救急看護認定看護師養成校にて1人受講。

			<ul style="list-style-type: none"> ・認定看護師管理者教育課程ファーストレベルを1人、セカンドレベルを2人受講。
6	同上	こ ど も	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職種の研修助成制度を継続し、研修を積極的に推奨している。 ・特に、院内急変対応医師の認定制度を発足させ、医師看護師のPALS講習参加に補助金を設定し、受講を積極的に推奨し、10人以上の医師を認定した。 ・院内研究助成制度を、特に若手研究者が利用しやすいように整備した。 ・医局会を利用して、専攻医の発表の機会を設け、プレゼンテーション技能の向上を計った。 ・職員研修管理委員会にて、全職員を対象とした研修体系の評価と見直しを行い、年度当初に計画的に実施するよう管理を行なうようにした。 ・引き続きナーシングスキルによるWeb研修を充実させた。 ・新規入職者研修をナーシングスキルを用いて実施し、年度途中での入職者にも速やかに研修に参加した。 ・感染管理認定看護師は予定通り受講終了し、2022年度5月に認定看護師試験受講予定。皮膚・排泄ケア認定看護師は、2022年度教育課程受験に1人決定。 ・認定看護師、専門看護師育成計画を立案し、看護師長会や専門・認定看護師会などで報告した。その結果、皮膚・排泄ケア認定看護師養成学校受講者決定。各認定看護師から次世代候補者が2分野上がってきた。今後調整していく。 ・2021年10月より特定行為研修『慢性期パッケージ』1人受講開始。2022年9月終了予定。 ・専門看護師受講者がおらず、今後受講促進に向け看護部全体として検討予定。
7	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員を対象とした研修の充実（研修セ） 	本 部	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の知識・技術・資質の向上を図るため、病院等の意見を反映させた課程別研修、選択研修及び専門研修を実施し、延べ766人が受講した。 ・新型コロナウイルス感染防止のため、塩尻市文化会館レザンホールで開催した新規採用職員研修I並びに院内で他職種の体験を行う薬剤師新規採用者研修及び事務職新規採用者研修Iを除き、Web会議ツールを活用したオンライン研修により実施した。

区分	研修名	実施日	受講者数	前年度実績
課程別 研修	新規採用職員研修Ⅰ	4月8日	72人	94人
	新規採用職員研修Ⅱ	4月16日	59人	41人
	新規採用職員研修Ⅲ	7月27日	54人	
	勤務3年目研修	10月1日 10月15日	46人	29人
	キャリア形成研修①(5年目)	8月6日	32人	55人
	キャリア形成研修②(10年目)	8月27日 9月10日	36人	32人
	キャリア形成研修③(15年目)	10月22日	25人	19人
	キャリア形成研修④(20年目)	11月5日	32人	32人
	新管理職研修	6月4日	19人	12人
	計		375人	314人
選択 研修	公文書の書き方等研修	9月17日	35人	31人
	リーダー研修Ⅰフォローシップ	6月11日	47人	40人
	リーダー研修Ⅱリーダーシップ	7月9日	46人	40人
	診療報酬研修	7月14日	56人	—
	OJT研修	2月25日	38人	37人
	計		222人	148人
専門 研修	看護部専門研修①	8月30日	27人	31人
	看護部専門研修②	11月20日	42人	14人
	臨床検査技師研修会	1月29日	37人	—
	放射線技師研修会	1月22日	28人	—

				管理栄養士研修会	9月18日	16人	—
				県立病院等栄養部門研修会	11月12日	14人	—
				薬剤師研修会		—	37人
				第2回薬剤師研修会		—	35人
				薬剤師新規採用者研修	6～11月	3人	—
				事務職新規採用者研修 I	6～11月	2人	3人
				計		169人	120人
				合計		766人	582人
8	【令和3年度に推進する事項】 ・各病院に精神看護の経験者を配置するため、こころの医療センター駒ヶ根への人事交流を検討	本部	A	各病院看護部長及びこころの医療センター駒ヶ根と検討及び調整を進め、研修実施要綱及び研修プログラムを策定し、各病院に周知した。			
9	【令和3年度に推進する事項】 ・特定行為研修内容と修了後の活用の検討	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> ・看護部長打ち合わせ会で終了後の活用について検討し、修了者の支援体制を構築した。 ・来年度の研修内容について、コアメンバーや看護部長打ち合わせ会で検討した。令和4年度からは、新しい研修区分を追加し、在宅慢性期パッケージ研修に外部からの受講生を受け入れることに決定した。 			
10	【令和3年度に推進する事項】 ・シミュレーション教育指導者委員会による指導者連携と教育の充実	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> ・5月13日 第1回委員会開催（シミュレーション教育指導スキルアップシリーズのファシリテータ依頼等） ・8月19日 第2回委員会開催（シミュレーション教育指導者研究会開催要項等） ・12月23日 第3回委員会開催（シミュレーション教育指導スキルアップシリーズの振り返りと次年度への検討等） ・委員会メンバーは、シミュレーション教育指導者の育成と自己研鑽を兼ねて、シミュレーション教育指導スキルアップシリーズへファシリテータとして参加。 ・次年度開催予定のシミュレーション教育指導者研究会発足に向けた検討 ・委員会時はシミュレーション教育シナリオ情報共有事業として、昨年度登録された 			

				各施設シナリオ（5本）の発表を行い、意見交換を実施。
--	--	--	--	----------------------------

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 医療従事者の養成と専門性の向上

(3) 県内医療従事者の技術水準の向上への貢献

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

本部研修センターでは、昨年度に引き続き、シミュレーション教育指導スキルアップシリーズを開催したほか、貸出可能なシミュレーターリスト等をホームページに掲載し、他医療機関等における利便性の向上を図った。

信州大学医学部や信州木曾看護専門学校をはじめとする県内の医療関係教育機関からの要請に基づき、各病院から医師・看護師を派遣するとともに、各病院のもつ医療機能に応じ、職種ごとに実習生を積極的に受入れた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 3(3) 1	本部研修センターは、県内外の医療機関等と連携し、シミュレーション教育を活かした研修会、講師派遣等を実施するとともに、同センター木曾分室・こども分室における研修の更なる充実を図り、県内医療従事	本部	A	【シミュレーション研修】 スキルアップ研修シリーズ①（オンライン） 19人 スキルアップ研修シリーズ②（オンライン） 19人 スキルアップ研修シリーズ③（オンライン） 18人 シナリオブラッシュアップ講座（オンライン） 19人 Fun Sim J（オンライン版）への参加 7人

	<p>者の技術水準の向上に向けて取り組む。</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> Web会議システムを活用したシミュレーション研修の実施 		<p>【講師派遣等】</p> <p>○病院への研修講師派遣等</p> <ul style="list-style-type: none"> 医師関係 参照 (p.59-No.6) 看護師関係 <ul style="list-style-type: none"> 新人看護職員技術研修 (こころの医療センター駒ヶ根) 5人 フィジカルアセスメント研修Ⅱ③ (こども病院) 11人 薬剤師関係 <ul style="list-style-type: none"> 薬学病院実務実習生フィジカルアセスメント研修 2人 <p>○学校、福祉施設等への講師派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生 BLS 研修 (阿南消防署管内3校) 61人 救命救急特別講座 (信州木曾看護専門学校) 28人 医療的ケア生緊急時対応訓練研修会 (稲荷山養護学校) 26人 <ul style="list-style-type: none"> (寿台養護学校) 19人 (松本養護学校) 13人 特別支援学校医療的ケア学校看護師研修 B (教育委員会) 12人 長野県保健師専門研修①採血編 (健康福祉部) 12人 長野県保健師専門研修②在宅医療技術編 (健康福祉部) 14人
2	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページを活用したスキルスラボ等の利用促進 	本部	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 信州医療センターの院外広報誌にシミュレータ貸し出し手順など「研修センターの紹介」を掲載。(須坂市、高山村、小布施町全戸および各関係医療機関に配布。) <p>【スキルスラボ及びシミュレータ使用実績】 ()内はR2年度</p> <ul style="list-style-type: none"> スキルスラボ使用回数 505回 (417回) スキルスラボ利用者数 2,851人 (2,352人) シミュレータ使用回数 400回 (395回) シミュレータ利用者数 2,409人 (2,087人) <ul style="list-style-type: none"> スキルスラボの使用回数と利用者数については、Web会議、研修に加え、その他各種会議等で

			<p>の使用増加と集合研修の再開により、昨年度と比較し使用回数は21%増加、利用者人数も21%増加した。シミュレータ使用回数と利用者数については、コロナとの共存を図りつつ機構内外で集合研修が再開されたことにより、昨年度と比較し使用回数は1%増加、利用者数は15%増加となった。</p>																														
3	医療従事者の育成に資するため、医療関係職種の各養成所からの要請に基づき職員を講師として派遣するとともに、学生の実習受入れ等を積極的に行う。	信州	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師として信州木曾看護専門学校へ2人、長野県須坂看護専門学校へ33人、佐久大学へ1人、化学園長野保育専門学校へ1人派遣した。 ・看護学生等実習指導者養成講習会を看護師1人が受講した。 ・看護師のインターンシップは、1回目が令和3年8月5日に開催し8人、2回目が令和4年3月23日に開催し14人の参加があった。新型コロナウイルス感染症拡大のため、半日～時間を短縮しての開催となった。 ・看護師病院説明会は年間7回の計画であったが、開催は5回で10人の参加があった。 ・信州大学、自治医科大学医学部のクリニカルクラークシップ実習受入要請に応じておりCOVID-19感染拡大の影響により中止となった実習もあるが、25人を受入れた。さらに今年度は医学生の受け皿となる診療科を2科追加した。 ・各科で以下の実習生を受け入れた。 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">看護部</td> <td style="padding-right: 20px;">須坂看護専門学校（8月は実習受け入れ中止）</td> <td style="text-align: right;">114人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>清泉女学院大学（小児実習及び助産専攻実習）</td> <td style="text-align: right;">25人</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 20px;">リハビリテーション技術科</td> <td style="padding-right: 20px;">信州大学</td> <td style="text-align: right;">理学療法士 1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">作業療法士 1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding-left: 20px;">長野保健医療大学</td> <td style="text-align: right;">理学療法士 2人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">作業療法士 1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding-left: 20px;">東京福祉大学</td> <td style="text-align: right;">作業療法士 1人</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 20px;">栄養科</td> <td style="padding-right: 20px;">長野県立大学</td> <td style="text-align: right;">3人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>高崎健康福祉大学</td> <td style="text-align: right;">2人</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 20px;">薬剤部</td> <td style="padding-right: 20px;">名城大学</td> <td style="text-align: right;">1人</td> </tr> </table> 	看護部	須坂看護専門学校（8月は実習受け入れ中止）	114人		清泉女学院大学（小児実習及び助産専攻実習）	25人	リハビリテーション技術科	信州大学	理学療法士 1人			作業療法士 1人		長野保健医療大学	理学療法士 2人			作業療法士 1人		東京福祉大学	作業療法士 1人	栄養科	長野県立大学	3人		高崎健康福祉大学	2人	薬剤部	名城大学	1人
看護部	須坂看護専門学校（8月は実習受け入れ中止）	114人																															
	清泉女学院大学（小児実習及び助産専攻実習）	25人																															
リハビリテーション技術科	信州大学	理学療法士 1人																															
		作業療法士 1人																															
	長野保健医療大学	理学療法士 2人																															
		作業療法士 1人																															
	東京福祉大学	作業療法士 1人																															
栄養科	長野県立大学	3人																															
	高崎健康福祉大学	2人																															
薬剤部	名城大学	1人																															

				新潟薬科大学	1人												
4	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・信州木曾看護専門学校等へ医師4人及び看護師18人を講師として派遣した。 ・学生の実習として医学生7人、作業療法実習生39人、薬学生2人、看護学生82人を受け入れた。 													
5	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・阿南高校、信州木曾看護専門学校への講師派遣及び実習生の受入れを実施 <p>講師派遣：阿南高校福祉コース 26回（看護師4回、介護福祉員22回） 実習生受入：飯田女子短大 計17人・20日間 信州木曾看護専門学校 計25人・5日間</p>													
6	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により他病院での実習ができなくなった信州木曾看護専門学校の学生80人（1年27人、2年28人、3年25人）の実習を当院で受け入れた。 ・院内職員（31人）が信州木曾看護専門学校で講義を行った。 ・認定看護師が郡内の施設にて、ICN1人が専門分野の研修を行った。 													
7	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県看護大学、信州大学医学部医学科・保健学科、佐久大学、松本短期大学、信州木曾看護専門学校、須坂看護専門学校、長野県、各市町村、各教育委員会、小学校、保育園等に小児、産科、アレルギー他に係る講師として、Webの利用や現地への派遣により講義を行った。（94件） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職員派遣</td> <td>94件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>88件</td> <td>98.9%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・学生実習は、新型コロナウイルス感染症の影響からWeb講義を中心に実施した。7月以降は段階的に病院への受入れを開始し、信州大学医学部医学科（医学生4人）、松本短期大学、飯田女子短期大学、信州大学医学部保健学科、長野看護専門学校、小諸看護専門学校、信州木曾看護専門学校（看護関係120人）等から受け入れた。 		項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	職員派遣	94件	—	—	88件	98.9%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比												
職員派遣	94件	—	—	88件	98.9%												
8	【令和3年度に推進する事項】	信	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症センターにより以下の取組を行った。 													

	<p>・県内の医療従事者を対象とした感染症センター（信州）、精神科研修・研究センター（駒ヶ根）、小児・周産期薬物療法（こども）等における研修の実施</p>	<p>州</p>	<p>日本感染症学会認定施設として感染症専門医を育成 医療機関内で感染制御に関わる薬剤師の短期研修開始に向けた準備 感染症に関する知識を広めるため、研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に関する講演会 長野県COVID-19症例検討会 120人 須坂商工会議所新型コロナウイルス感染症研修会50人 長野県病院協議会 南信支部(WEB) 80人 長野市医師会 感染症対策講演会40人 長野放送 健康ばんざい 10月23日放送 北信地区看護連携協議会 (WEB) 300人 ・抗菌薬適正使用に関する講演 長野県病院薬剤師会中信支部 (WEB) 100人 ・肺炎球菌ワクチンに関する講演会 信州リウマチセミナー (WEB) 40人 群馬東毛リウマチセミナー (WEB) 50人 長野県肺炎球菌ワクチン講演会(WEB)100人 ・2021年度H I V感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業「実地研修事業」 受講者3人 ・北信地区HIVセミナー開催 30人
<p>9</p>	<p>同上</p>	<p>駒ヶ根</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の医療従事者、一般向けに出前講座を23件実施した。そのうち、インターネット・ゲーム依存症関係の出前講座では、オンラインで開催し258機関が参加した。
<p>10</p>	<p>同上</p>	<p>こども</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児周産期薬物療法研修コースに8人の薬剤師を受け入れた（令和2年度受け入れ実績なし）。 ・研修内容は、無菌調製研修及び新型コロナワクチン調製研修であった。

	も	・ 県立病院の他施設研修（1週間）は令和4年1月下旬に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の第6波とまん延防止等重点措置の時期にあたり今年度は中止とした。
--	---	---

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 医療従事者の養成と専門性の向上

(4) 信州木曾看護専門学校の運営

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州木曾看護専門学校の令和3年度の在學生は81人であり、充足率は90%であった。

第6期の卒業生は24人であり、全員が第111回看護師国家試験に合格した。卒業生の進路は、2人が助産師養成校に進学、22人が就職した。就職先の内訳は、県外病院が3人、県内病院が19人であり、地域医療に貢献できる人材を輩出した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績					
		病院	評定	取組結果及び取組の効果			
第1 3(4) 1	看護基礎教育の質を確保し、県立病院の持つ医療資源を活かして、地域医療、高度・専門医療等に幅広く対応しうる看護人材を、安定的かつ継続的に育成する。	木曾看護	A	【看護師国家試験の状況】			
				受験者数	合格者数	合格率	合格率（全国平均）
				24人	24人	100%	91.3%
				【令和3年度卒業生の進路】			
就職	進学						
木曾	上伊那	南信州	その他県内	県外	うち機構病院		

人数	5人	0人	2人	12人	3人	8人	2人
----	----	----	----	-----	----	----	----

・県立5病院への実習、また、5病院からの講師の派遣など様々な学習機会を通して地域医療への理解を深めている。・環境論など特色あるカリキュラムの運用により地域への理解につながっている。

【特色あるカリキュラム】

項目	実績	年間計画	対計画	前年度	対前年度
授業・課外活動	8件	8件	100%	7件	114.3%

実施項目	学年	実施日	実施場所
看護の日（看護チラシ配布、ごみ拾い）	1・2	5月12日	イオン等
ほおば巻づくり（食育学習）	1	6月25日	ふるさと体験館
森林セラピー（環境論）	1	7月6日	赤沢自然休養林
盲・ろう学校講義（人間関係論）	1	9月14・15日	訪問から変更
第7回白凜祭（学校祭）	1～3	10月9日	当校
そば打ち（食育学習）	2	10月15日	ふるさと体験館
アイスキャンドル制作	2	1月21日	八沢

【地元行事等への参加】

項目	実績	年間計画	対計画	前年度	対前年
地元行事等	1件	8件	12.5%	1件	前年と同

・新型コロナ

ウイルス感染症の蔓延により地元行事が中止となり、1件に止まった。

【2年生から1年生へ技術伝授】（基礎的な看護技術の習得と実勢力の向上の工夫）

項目	3年度当初	3年度最終	2年度当初	2年度最終
----	-------	-------	-------	-------

				ベトナムメイキングテスト合格率	22%	100%	71%	100%		
				【国家試験対策の推進及び受験のサポート】						
				全国模試、過去問 試験の実施等	実績	年間計画	対計画	前年度	対前年	
				1年生	2回	2回	計画どおり	3回	前年と同	
				2年生	4回	4回	計画どおり	4回	前年と同	
				3年生	28回	25回	3回	25回	3回	
				【ホームカミングデイの実施】 （前年は、新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い中止）						
				項目	実績	年間計画	対計画	前年度	対前年	
				ホームカミングデイ	1回	1回	計画どおり	0件	1回	
				期日：6月26日（土）						
				参加人数（卒業生）：8人（新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い郡内在住者に限定）						
				【学校評議会の開催、自己点検・自己評価の公表】						
				項目	実績	年間計画	対計画	前年度	対前年	
				学校評議会	1回	1回	計画どおり	1回	計画どおり	
				自己点検・自己評 価の公表	1回	1回	計画どおり	1回	計画どおり	
2	看護護員の確保に向け、看護教員養成講習会を受講させる。	木 曾 看	A	【教員の養成講習会への派遣、大学での単位取得】						
				項目	実績	年間計画	対計画	前年度	対前年	
				教務主任養成講習会	1人	1人	100%	0人	1人	
				看護教員養成講習会*	0人	0人	—	2人	△2人	
				放送大学	1学期	2人	2人	100%	2人	0人
					2学期	3人	3人	100%	2人	1人

				<table border="1"> <tr> <td>その他大学</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>100%</td> <td>1人</td> <td>前年と同</td> </tr> </table>	その他大学	1人	1人	100%	1人	前年と同																										
その他大学	1人	1人	100%	1人	前年と同																															
				* 3年度は県内で開催なし																																
3	【令和3年度に推進する事項】 ・令和4年度開始の改正カリキュラムに備えた学校運営	木曾看	A	・改正カリキュラムの理解を深めるために、中心となる教員を研修に派遣し、その他の教員はWebによる学習会へ参加した。 ・学生の夏季休暇中に3日間の集中会議を行い、現行カリキュラムの評価を行った。 ・中心となる教員2人がスケジュールを立て、月2～3回のペースで会議を企画・運営し、令和3年7月必要書類を提出。																																
4	【令和3年度に推進する事項】 ・入学生の質及び数の確保と看護教員の安定的な確保	木曾看	B	【入学生の質及び数の確保】 ・新型コロナウイルス感染症による拒否が減り、積極的に高校訪問を行った。																																
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>前年度</th> <th>対前年</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高校訪問</td> <td>65校</td> <td>5校</td> <td>60校</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ガイダンス・模擬授業</td> <td>13回</td> <td>13回</td> <td>前年と同</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">オープンキャンパス参加者</td> <td>夏期</td> <td>81人</td> <td>108人</td> <td>△27人</td> <td>保護者を含む。</td> </tr> <tr> <td>秋期</td> <td>32人</td> <td>62人</td> <td>△30人</td> <td>保護者を含む。</td> </tr> <tr> <td>ブログ更新</td> <td>41回</td> <td>36回</td> <td>5回</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	実績	前年度	対前年	備考	高校訪問	65校	5校	60校		ガイダンス・模擬授業	13回	13回	前年と同		オープンキャンパス参加者	夏期	81人	108人	△27人	保護者を含む。	秋期	32人	62人	△30人	保護者を含む。	ブログ更新	41回	36回	5回	
項目	実績	前年度	対前年	備考																																
高校訪問	65校	5校	60校																																	
ガイダンス・模擬授業	13回	13回	前年と同																																	
オープンキャンパス参加者	夏期	81人	108人	△27人	保護者を含む。																															
	秋期	32人	62人	△30人	保護者を含む。																															
ブログ更新	41回	36回	5回																																	

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

4 医療の質の向上に関すること

(1) より安全で信頼できる医療の提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

新型コロナウイルス感染症に係る院内の感染対策については、各病院が徹底した対応を行い、院内感染の発生を防ぐことができた。

医療安全相互点検については、新型コロナウイルス感染対策のため、医療安全管理者による点検ではなく各病院の医療安全管理者等で点検を行い、医療安全管理者会議で結果について報告をし、評価を行う方法に変更して実施した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 4(1) 1	各病院が連携して医療安全対策を推進し、各病院の医療安全の標準化と質の向上に努める。	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> ・参照 (p.16-No1) ・5病院共通の医療安全チェックシートを活用した院内自己点検を部署長、医療安全管理委員を中心に行った。自己点検を行うことで、自施設でできていないことを明確にすることができた。今後も引き続き点検を行い、課題を明らかにしていくと共に、スタッフの医療安全に対する意識付けを行っていく。

2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理研修会を開催した。（2回）
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携室へ専従看護師を配置し、入院当初から退院支援を行うことにより患者・家族が安心できる環境の継続 ・摂食嚥下障害看護認定看護師を中心に、多職種が参加する摂食嚥下チームを立ち上げ、高齢者に多い誤嚥減少への取り組みを継続 ・院内における医療安全研修会の実施（令和3年度 3回開催 延受講者 253人）
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各部署のリスクマネージャーによる医療安全推進部会を毎月実施した。また、8月から1月にかけて院内巡視を行い、各部署の医療安全への意識を高めた。医療安全推進月間を11月に設け院内環境を整えるため5S推進活動を行い、5S活動の理解を深めた。 ・県医療安全管理者会議を毎月Webにて実施し、各病院間の情報共有を基に医療安全管理マニュアルの見直しを行い標準化に努めた。また、事例報告及び対応や取り組みについて情報共有を行い課題を抽出した。 ・医療安全研修会はナーシングスキルを活用し、2回開催（委託業者除く） <ul style="list-style-type: none"> 第1回 患者・家族の苦情への対応 参加率100% 第2回 5S活動推進 参加率100% ・第2回 5S活動推進研修は医療安全管理室と感染対策室共同開催で実施し、手指衛生の基本周知を促した。 ・院内BLS研修会を当院医師が講師となり、基礎編・応用編の2部編成で計11回開催した。応用編では院内急変対応デモンストラクションのファシリテーターを募り実施し、急変対応に対する理解と学習意欲を養成した。
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月Webで医療安全管理者会議に参加し、自施設に関連する医療安全管理上の課題を相談し、助言等を参考にすることができた。 ・コロナ禍であり、相互点検は他病院に点検してもらうことはできなかったが、10月に

				<p>自施設の担当で栄養科と療育支援部の2か所を実施、11月に医療安全管理者会議で評価を受けることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他施設の相互点検内容を参考にして、防災ヘルメット数などの検討を防災委員と共有した。 ・医療安全管理者研修会を6月と11月にWeb講習を実施した。1ヶ月ほど研修期間を超過したが、委託職員・育休及び療養休暇者を除く100%の職員が視聴できた。
6	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全相互点検の実施及び医療安全管理研修会の開催（本部） 	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染状況の県レベルに応じた方法で実施。3病院は各病院の医療安全管理者等で点検、評価を行った。2病院は医療安全管理者が点検を実施し評価した。 <p>なお、再点検項目については、すべて改善した。</p>
7	<p>院内感染防止のため、県立病院間で情報の共有化を図りながら、発生予防と拡大防止対策を推進する。</p>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染対策を考慮し、信州医療センターでの相互点検を中止とし、自施設（臨床検査科、健康管理センター）の自己点検を医療安全管理室長と医療安全管理委員のメンバーで行った。今後、改善を求めていくところもあるため部署と検討を行いながら取り組んでいく。
8	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防の対応強化のため、他の県立病院から情報収集を行った。 ・参照（p.19-No.2）
9	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新人オリエンテーション：受講者12人 ・放射線安全管理研修会・医療機器安全管理研修会をナーシングスキル配信で実施：延受講者113人 ・薬剤安全管理研修会をナーシングスキル配信で実施：受講者128人 <p>ナーシングスキルを活用しての研修会を行うことで、多くの参加者を確保し医療安全に関する知識の習得、資質の向上を図った。</p>
10	同上	木	A	<ul style="list-style-type: none"> ・他施設の医療安全管理者による点検を実施し、外来、検査科での改善ができた。

		曾		<p>総務課による再点検では指摘項目が改善されていることが確認できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全推進者研修は医療安全推進部会の小集団活動の取り組みとして、院内研修と院外研修への参加を促した。
11	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> ・機構の感染管理担当者会議については、今年度の会議は開催されなかったが、県立病院間以外にも、加算要件に関わる他施設との連携会議や相互ラウンドの運営、小児医療施設協議会の感染管理ネットワーク会議の担当業務などとの連携活動を行った。 ・COVID-19の院内感染は0件であった。刻々と変化するCOVID-19の流行状況と、国や県の方針、研究報告などを参考に、当院の方針を決定し、マニュアルを更新し、周知し、職員の感染対策教育活動を実践し続けた。 ・耐性菌の院内発生はあったが、アウトブレイク症例はなかった。 ・全職員研修会合計4回、うち2回は全職員必須研修の位置づけとし、その参加率は委託職員も含めて99%であった。その他にも部署限定の感染対策関連の研修会を9回実施した。 ・ほぼ毎月、ICNと看護部感染対策委員の手指衛生遵守率調査を実施。4211件の観察を行った。遵守率は85%（適切な手技の遵守率は55%）であった。 ・参照（p.23-No.5）
12	同上 【令和3年度に推進する事項】 ・院長会議等における現状、課題等の共有、 感染防止対策の徹底（本部）	本部	B	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全相互点検は新型コロナウイルス感染対策のため、医療安全管理者による点検ではなく各病院の医療安全管理者等で点検を行い、医療安全管理者会議で結果について報告をし、評価を行う方法に変更して実施した。 ・医療安全管理研修は新型コロナウイルス感染症の感染対策上実施することができなかった。

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

4 医療の質の向上に関すること

(2) 医療等サービスの一層の向上

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

各病院においては、患者満足度調査の結果を参考によりよい患者サービスの提供に努めた。

阿南病院では、患者の利便性を図るため、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリの利用患者を対象として診療費の口座振替を開始した。

こども病院では、慢性疾患児等に対し、地域の教育支援者や福祉関係者と連携した学習支援及び就労支援を行った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 4(2) 1	患者満足度調査により患者及び家族の要望・要求を把握・分析した上で、よりよい患者サービスの提供に努める。 患者の病院選択に資する臨床評価指標及び医療の質の評価指標の提供や、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の実践に向け	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> 患者満足度調査による患者サービスの検討 令和2年度患者満足度調査の集計・分析結果の報告会を開催し、職員間での情報共有と改善策検討を行った。当年度は10月に外来及び入院患者にアンケートを実施。外来患者295人、入院患者130人から回答があった。 サービス向上委員会において、下記事業を実施。 「接遇標語」を作成し、院内に掲示し周知

	た検討等、患者サービスの一層の向上に努める。			<p>全職員対象の接遇研修を実施 各パートの「いいところ探し」を募集。「いいところ」を院内掲示し、院内外へ紹介</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>在宅復帰率</td> <td>93.6%</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>92.6%</td> <td>101.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・自宅へ退院した患者の割合が増え、在宅復帰率が向上した。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	在宅復帰率	93.6%	—	—	92.6%	101.1%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
在宅復帰率	93.6%	—	—	92.6%	101.1%											
2	同上	駒ヶ根	A	<p>・患者満足度調査の結果は、入院、外来ともに令和2年度と比較して概ね同等又は上昇した。(回答者 入院50人、外来281人)</p> <p>・調査結果については病院運営会議で報告し共有した。また、セクションごと結果の考察と今後の対応について検討し、患者満足度の向上・維持への取組みを進めた。</p> <p>・全国自治体病院協議会の医療の質の評価の指標を活用し、3ヶ月以内の再入院防止に向けて全国と比較した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>再入院率※</td> <td>18.4%</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>16.4%</td> <td>112.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和3年4月から12月の全国平均は19.4%</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	再入院率※	18.4%	—	—	16.4%	112.2%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
再入院率※	18.4%	—	—	16.4%	112.2%											
3	同上	阿南	A	<p>・地域の薬剤師との連携の維持、病棟専任薬剤師の配置等により、病棟薬剤業務の強化を図った。</p> <p>・時間予約制や眼科、泌尿器科、整形外科、精神科の午後診療の周知により、患者の利便性の向上を推進した。</p> <p>・サービス向上・接遇委員会においては接遇対応の月間目標の設定、また、経営企画会議においては満足度調査の分析から改善策を検討し実施することで、患者サービス意識の向上に努力した。</p>												
4	同上	木曾	A	<p>・患者満足度調査を実施し、調査結果を共有し、患者サービスの向上を図った。(回答 入院72人、外来142人)</p> <p>・サービス向上委員会で「接遇標語」を作成し、院内各所に掲示し周知した(年6回)。</p>												

			<ul style="list-style-type: none"> ・接遇の改善を図るために、身だしなみチェックを実施した。(6月、11月の年2回実施) ・5月及び10月に、木曽病院を守る会の協力のもと、プランターに花の苗を植え、入口や中庭に配置した。
5	同上	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者満足度調査の結果は、ホームページへ掲載のほか家族ラウンジで閲覧可能とし、公開に努めた。 ・本年度の患者満足度アンケート回収数は入院が129人(前年度比△36人)、外来が286人(前年度比+63人) ・入院満足度の結果は、7指標全体として昨年度よりも上昇。「入院環境満足」のみやや下回った。 ・医師満足の内訳：6指標全体で昨年度より上昇。6指標全てで80以上の高水準となった。 ・看護師満足の内訳：昨年度に引き続き6指標全てで上昇。特に「説明満足度」は5ポイント以上上昇した。 ・医療技術職満足の内訳：5職種(薬剤、放射線、栄養、検査、リハビリ)全て上昇。特にリハビリと薬剤が大きく上昇 ・事務職満足の内訳：8指標中5指標が上昇。「病棟事務」「医療相談」がやや昨年度より下回った。 ・患者満足度アンケート回収数は129人(前年度比△36人)、外来が286人(前年度比△63人)となった。 ・入院満足度の結果は、7指標全体として昨年度よりも上昇。「入院環境満足」のみやや下回った。 ・医師、看護師、医療技術部門及び事務職への満足度は調査項目全て令和2年度より上昇した。事務職満足の内訳のうち「病棟事務」「医療相談」がやや昨年度より下回った。 ・外来満足度の結果は、8指標全てで昨年度を下回った。 ・患者満足度調査の結果は、各項目の分析や自由記載欄を参考に、各部署で検討、対策を立て満足度の向上に努めている。

			<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き病院指標はホームページへ掲載し、患者の病院選択に資するよう努めた。 ・臨床倫理的な検討が必要な事案について、院内共有と共に自由に話題にできる環境を作り、医療現場での倫理的思考の醸成を図ることを目的に、「臨床倫理カンファレンス」を2月8日に開催。次年度は4回（2か月に1回）計画している。
6	【令和3年度に推進する事項】 ・番号案内表示システム、自動精算機の導入	信州	B <ul style="list-style-type: none"> ・番号案内表示システムと自動精算機を令和3年度に導入するため、10月にデモと外来WGを実施した。 しかし、県内の感染者数の大幅な増加に伴い受診者数も増加し、院内の診療及び受け入れ体制強化に対応する必要があったため、令和4年度以降に延期することとした。
7	【令和3年度に推進する事項】 ・薬局、院内保育所を含めた敷地内集合店舗施設等の誘致に向けた検討	信州	A <ul style="list-style-type: none"> ・薬局・院内保育所を含めた敷地内集合店舗施設の誘致について、経営企画室会議で検討し、疑義事項の確認と今後の進め方を決定した。
8	【令和3年度に推進する事項】 ・医療の質の向上と病院運営の透明化のため病院機能評価の更新（駒ヶ根、こども）	駒ヶ根	S <ul style="list-style-type: none"> ・8月2、3日に日本医療機能評価機構の病院機能評価（3rdG:Ver.2.0）を受審し、11月5日に更新認定となった。 ・救急医療機能、多職種協働、地域への情報発信などS評価が7項目と、初回認定時よりも高い評価を得られた。 ・入院から退院までの診療・看護を遂行していく過程（ケアプロセス）について、多職種によるチーム医療の実施状況を検証した。
9	同上	こども	A <ul style="list-style-type: none"> ・病院機能改善委員会及びコアメンバー会議にて進捗管理を行い、院内全体で準備を進めて、令和3年9月2日、3日に訪問審査を受審した。11月1日に届いた中間的な結果報告を踏まえて、各項目ごと改善計画の作成を依頼し、コアメンバー会議にて内容を精査、今後の方針を検討した。最終的に12月3日付けで機能評価の更新認定を受けることができ、高い評価を得ることができた。 ・機能評価の審査結果：S = 7、A = 78、B = 4、C = 0 ※前回受審時と比較して、A評価が2つ増え、B評価が1つ減となった。

10	【令和3年度に推進する事項】 ・クレジットカード支払導入による利便性の向上	阿南	B	・患者の利便性の向上を図るため、クレジットカードによる支払の導入に向けた準備を開始																																		
11	【令和3年度に推進する事項】 ・ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に基づくリビングウィル（事前指示書）の取組みを推進するため、患者サポートセンター内に相談窓口を設置	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・患者サポートセンター内に相談窓口を設置するとともに、院内掲示、地域の広報を行った。 ・ACP推進するため院内だけでなく、地域の関連機関ともオンラインでの研修会を実施した。 																																		
12	【令和3年度に推進する事項】 ・患児の適性に配慮した就学、就労サポートを推進	こども	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>人数</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就労支援事業（個別相談）</td> <td>延べ7人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>延べ15人</td> <td>46.7%</td> <td>雇用形態、就職試験についてなど</td> </tr> <tr> <td>就労支援事業（集団講和）</td> <td>4回 延べ34人</td> <td></td> <td></td> <td>中止</td> <td>皆増</td> <td>就労準備性、ハローワーク・福祉関連の利用方法など</td> </tr> <tr> <td>就学支援相談</td> <td>延べ15人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>延べ15人</td> <td>100%</td> <td>発達検査と学校との連携、高校進学・見学、授業環境、大学進学に向けた相談など</td> </tr> </tbody> </table> <p>・集団講和（就労支援セミナー）は、令和2年度はコロナのため中止であったが、令和3年度は計4回開催できた。第1回目は「就労準備性について」（7月30日）11人が参加。第2回目は「ハローワーク・福祉関連の利用方法」（8月6日）8人が参加。第3回目は3月</p>							項目	人数	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	内容	就労支援事業（個別相談）	延べ7人	—	—	延べ15人	46.7%	雇用形態、就職試験についてなど	就労支援事業（集団講和）	4回 延べ34人			中止	皆増	就労準備性、ハローワーク・福祉関連の利用方法など	就学支援相談	延べ15人	—	—	延べ15人	100%	発達検査と学校との連携、高校進学・見学、授業環境、大学進学に向けた相談など
項目	人数	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	内容																																
就労支援事業（個別相談）	延べ7人	—	—	延べ15人	46.7%	雇用形態、就職試験についてなど																																
就労支援事業（集団講和）	4回 延べ34人			中止	皆増	就労準備性、ハローワーク・福祉関連の利用方法など																																
就学支援相談	延べ15人	—	—	延べ15人	100%	発達検査と学校との連携、高校進学・見学、授業環境、大学進学に向けた相談など																																

			<p>22日に開催し8人が参加。4回目は3月28日に開催し7人が参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「具体的でわかりやすかった。」「就職の準備性を知ることができてよかった」「準備性の重要瀬が理解できた」と好評であった。
13	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の入院前から退院後までを多職種連携で支援する「患者サポートセンター」を開設 	こども	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に患者サポートセンターを開設し、体制整備期間を経て、9月13日から業務開始し、鼠経ヘルニア、停留精巣、陰嚢水腫、胃瘻造設・噴門形成、漏斗胸、眼瞼下垂、一部の検査入院を対応疾患として運用した。 ・今後対応疾患が拡大予定であり入院前支援（手術前中止薬の確認、代替薬提案）への薬剤師のかかわりが増加する見込みである。 ・小児外科の手術患者対応数 58件（9月～3月） ・形成外科の手術患者対応数 11件（12月～3月） ・入院前加算実績数 加算2 在宅人工呼吸器の乗り換え 10件（9月～3月） ・ 〃 加算1 4件（1月～3月）

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

4 医療の質の向上に関すること

(3) 先端技術の活用

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州医療センター及び木曽病院では、一部の外来診療科においてA I 問診サポートを導入し、患者待ち時間の短縮や診療の効率化を図った。
各病院では、新型コロナウイルス感染症対策のためオンライン面会や電話診療を実施し、患者の利便性を図った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 4(3) 1	訪問診療等における遠隔診療の実施や、電子カルテの相互参照、モバイル端末による医療従事者間の情報共有等、医療分野における先端技術の活用により、医療従事者の負担軽減及び業務の効率化を推進するとともに、地域の診療機能の充実を図り医療・介護サービスを提供する。 【令和3年度に推進する事項】	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外来の一部診療科でタブレットによるA I 問診サポートを継続し、医師、看護師における問診時間の削減、カルテ記載業務の大幅な効率化、患者との対話時間の増加及び診療待ち時間短縮による患者満足度の向上を図った。 ・AI問診については、医師・看護師・受付スタッフに運用状況のアンケートを実施し、タスク・シフトへの効果と実施する診療科の拡大を検討した。

	・タブレットによるAI問診サポートの積極的活用及び実施する診療科の増設検討（信州）											
2	同上	駒ヶ根	A	・令和2年度に整備したインターネット環境を活用し、オンライン面会を実施した。（212件、うちニーズの高い児童精神科病棟では120件実施）								
3	同上	阿南	A	・院内医療情報システムと信州メディカルネットを接続し、相互データ参照・公開を行った。 ・院内のインターネット環境を整備し、オンライン面会を実施した。（16件）								
4	同上 【令和3年度に推進する事項】 ・モバイル端末の活用による医療従事者間の情報共有の推進（木曽） ・外来診療におけるAI問診サポートの導入（木曽）	木曽	A	・ビデオ通信機能を使用したオンライン診療を小児科で導入した。 ・信州メディカルネットのリモートカルテ機能を活用し、非常勤医師や拘束医師への相談機能を強化した。 ・新型コロナウイルス感染症対策で面会禁止となっている入院患者にオンラインによる面会を実施した。 ・外来診療（内科）においてAI問診サポートを活用した。 ・院内のインターネット無線環境を整備し、オンライン面会を実施した。 ・医療情報部を新設し、電子カルテ更新業務・クリニカルパス・院内情報システム・ネットワークの構築等を推進した。								
5	同上 【令和3年度に推進する事項】 ・オンライン面会システムの拡充（こども）	こども	A	<p>・来院の必要が無い患者に対する電話診療による処方箋の発行について診療体制を継続し、外来担当医師が利用。</p> <table border="1" data-bbox="943 1145 1962 1246"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電話診療実施件数</td> <td>271人</td> <td>125人</td> <td>146人</td> </tr> </tbody> </table> <p>・面会制限で患児と面会できない家族のためのオンライン面会システムについて、セキュリティ対策に配慮したシステム構築を行い、12月から運用を開始した。</p>	項目	実績	前年度実績	対前年度増減	電話診療実施件数	271人	125人	146人
項目	実績	前年度実績	対前年度増減									
電話診療実施件数	271人	125人	146人									

	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県立病院の画像診断体制強化のため、本部画像診断センターを開設（本部） 	本 部	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ こども病院以外は画像診断を行う放射線科医が不在であり、県立病院全体の画像診断体制を強化するため、4月1日に本部画像診断センターをこども病院内に開設 木曾病院からの依頼に基づき画像診断を実施 ・ 画像診断件数 <table border="1" data-bbox="943 379 1413 679"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>3,986件</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>864件</td> </tr> <tr> <td>RI</td> <td>28件</td> </tr> <tr> <td>一般撮影</td> <td>988件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5,866件</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	CT	3,986件	MRI	864件	RI	28件	一般撮影	988件	計	5,866件
項目	実績															
CT	3,986件															
MRI	864件															
RI	28件															
一般撮影	988件															
計	5,866件															

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

4 医療の質の向上に関すること

(4) 信州大学等との連携

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

こころの医療センター駒ヶ根及びこども病院は、信州大学との協定に基づく連携大学院教育により、臨床業務に携わりながら研究活動を行う医学博士取得を目指す医師を養成した。

信州医療センターは、総合内科医の養成と定着を推進するため、令和3年3月に信州大学と協定を締結し、4月から「総合内科医育成学講座(寄附講座)」を開講した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果

第1 4(4) 1	<p>こころの医療センター駒ヶ根及びこども病院における信州大学との連携大学院教育等により、職員の研究活動を推進し専門性の高い医師等の養成を行う。</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携大学院教育による勤務医の博士号の取得及び職員の研究活動の促進（駒ヶ根・こども） 	駒ヶ根	B	<ul style="list-style-type: none"> ・連携大学院教育による勤務医の博士号取得に係る研究を実施した。 																		
2	同上	こども	A	<p>(連携大学院)</p> <table border="1" data-bbox="958 619 2045 774"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学者数</td> <td>3人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>セミナー開催</td> <td>8回</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>7回</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・信州大学との協定に基づく連携大学院教育による職員の研究活動を推進し、専門性の高い医療従事者（医師7人、検査技師2人）を養成し、学生数は新規進学者3人を加え合計9人に増加した。 ・次年度の連携大学院進学者も3人となり、コンスタントに進学者を確保でき、研究指導体制も充実した。 ・連携大学院セミナーを8回、Webにて開催した。 ・研究体制の整備の一環で、外部資金の間接経費を利用して研究環境、特にWebカンファレンスに関連する資材の整備を行なった。 	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度増減	入学者数	3人	—	—	2人	1人	セミナー開催	8回	—	—	7回	1回
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度増減																	
入学者数	3人	—	—	2人	1人																	
セミナー開催	8回	—	—	7回	1回																	
3	同上	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新専門医制度に対応したプログラムの作成及びスタッフの充実を図り、総合内科医の養成と定着を推進するため、4月から「総合内科医育成学講座(寄附講座)」を開講した。 ・信州大学との寄附講座により担当教員（内科系）2人を配置し、プログラム作成と専門医確保の準備を進めた。 																		

4	県と信州大学との地域医療の推進に関する覚書に基づき、県立病院と信州大学医学部附属病院との電子カルテの統一等について検討する。	本部	D	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関における新型コロナウイルス感染症に係る対応等により、電子カルテの統一等のワーキンググループが開催されなかったため、実績なし
5	【令和3年度に推進する事項】 ・「子どもの心の診療ネットワーク事業」による児童精神科医の育成（駒ヶ根・こども）	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どものこころ公開講座をオンラインで開催し、医療機関等約160施設が参加した。 医師（当院を基幹とする医師）1人が、連携施設である信州大学医学部附属病院にて研修を実施し、精神科専門医研修を修了した。
6	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> 県から「発達障がい診療専門家現地派遣事業」の一部委託を受け、信州大学医学部附属病院、こころの医療センター駒ヶ根とともに、県内10圏域の地域連携病院と保健福祉事務所で企画する研修会に講師として専門家を派遣し、各圏域における発達障がい診療のネットワークづくりに寄与した。 各圏域での連携会は11回、参加者数は732人と、前年よりわずかに上回った。感染症拡大防止のため集合研修を企画した圏域では中止となった地域が2ヶ所あった。また、医師向け研修会はWeb配信で実施し、111人が受講し、かかりつけ医の発達障害理解促進に寄与した。

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

4 医療の質の向上に関すること

(5) 医療に関する研究及び調査の推進

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

各病院では、学会、公開講座及び出前講座等において、またホームページや各種メディアを通じて、各病院で行った調査研究の成果を、積極的に情報発信し県民の健康増進に貢献した。

「令和2年度長野県立病院機構年報」において、第1期及び第2期中期計画期間の統計データを掲載し、資料としての価値を高めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 4(5) 1	臨床研究を推進して研究機能を向上させ、医療技術・医療水準の向上に努める。 病院機構が行っている取組や研究の成果を、テレビや新聞、ホームページ、公開講座等を通じて広報する。	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学会、院内研修会等の活動、医療に関する職員の学術研究や講演会活動実績を病院ホームページにて公開した ・須坂市報への当院の情報掲載を継続した。なお、須坂市報5月号、8月号における新型コロナに関する企画では、感染対策やワクチンの有効性について、地域へ向けた情報発信を行った。 ・院外広報誌「かがやき」を6月、10月、1月に発行し、須高地域に全戸配布を行った。

				<ul style="list-style-type: none"> ・マスメディアを利用した病院広報・P Rにより健康に関する関心を高め、地域の健康増進に寄与した。 ・新聞 <ul style="list-style-type: none"> 信濃毎日新聞 2回（新型コロナ、AZワクチン接種） 須坂新聞 8回（新型コロナ、総合内科医寄附講座、寄附等） 広報須坂 2回（信州医療センターの現状と地域医療、子宮頸がん予防） ・テレビ関連 <ul style="list-style-type: none"> Goolight「新型コロナウイルス~収束に向けた感染対策~」 NHKほかニュース「アストラゼネカワクチン接種について」 その他コロナウイルス関連で感染症専門医師が各局の取材に対応
2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座 3件（オンライン開催） <ul style="list-style-type: none"> 12月「令和3年度長野県依存症研修会」（外部講師）聴講者 約80人 1月「認知症疾患医療センター研修会」（外部講師）聴講者 約60人 2月「インターネット・ゲーム障害のこどもたちへの支援」（講師 足立医監） 接続数 約160施設 ・出前講座 23回 <ul style="list-style-type: none"> 心理的応急処置（PFA） 1回 患者家族向けのリフレッシュ方法 1回 虐待予防自助グループ 7回 インターネット・ゲーム依存（オンライン開催） 3回 認知症サポーター養成講座（オンライン開催） 1回 認知症予防 1回 自殺予防 1回 服薬指導 2回（現地1回、オンライン開催1回）

				<p>セーフティ・ファーストエイド (SFA) 1回 発達障害 (オンライン開催) 1回 不眠 (オンライン開催) 1回 ゲートキーパー (オンライン開催) 1回 精神障害の理解 1回 大人の発達障害 1回</p> <p>・新聞掲載 信濃毎日新聞 5回 (インターネット・ゲーム依存、依存症外来ミーティング) 中日新聞 1回 (インターネット・ゲーム依存) 長野日報 1回 (インターネット・ゲーム依存) 医療タイムス 1回 (m-ECTセンター開設) 月刊かみいな 2回 (月1回掲載 依存症、精神疾患への理解)</p>
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県看護研究学会へ発表 ・日本老年看護学会HPでの活動報告 ・出前講座メニュー数の充実 (令和2年度7項目から令和3年度27項目) ・出前講座実施8件 参加者171人
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・木曾病院年報に研修・研究の取組み内容及び成果を掲載した。 ・業務実績、医療の質、病院情報についてホームページへ掲載するとともに、ツイッターによる広報も併せて実施し、情報発信を行った。 ・職員の学術研究活動について、学会誌への掲載等の実績をホームページで紹介した。 ・木曾病院病院だよりを年4回発行し、広報活動を行った。 ・職員表彰制度を創設し、研究の成果に対する表彰制度を整えた。
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> ・英文専門誌 (PubMed掲載論文) に52編の論文が採択され、うち34編は生命科学研究センター研究員が関与している (生命科学研究センターの組織名が記載された論文9編に関しては同センターのホームページで公開している)。

				<ul style="list-style-type: none"> ・院内規程による臨床医学研究助成制度において、新たに8人の研究を採択し研究を支援している。 ・令和2～3年度採択課題 7課題（研究終了報告は「こども病院医学雑誌」に掲載の予定） ・令和3～4年度採択課題 8課題（引き続き研究を継続） ・病院の医学指標を機構本部のホームページで、また各診療科での診療実績や手術成績については当院のホームページで公開した。 ・院内外向け広報誌「しろくまニューズレター」を年6回発行した。
6	【令和3年度に推進する事項】 ・県立病院の担う医療、各種データ、研究成果等を網羅した「機構年報」の発刊	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> ・県立病院が担う医療や各種データに加え、平成23年度から令和2年度までの統計データを掲載し、3月に発行した。
7	【令和3年度に推進する事項】 ・科研費の活用による研究の促進と最先端医療に対応できる人材の育成	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外部資金運用のルールを明確にし、管理事務体制およびコンプライアンス体制を整備した。 ・AMED、厚労科研、文部科研、民間研究資金等の外部資金による9研究課題を実施中 ・生命科学センターが文部科研を申請できる研究機関として承認されてから実質2年目であり、5研究課題の申請をし、1課題（若手研究）が採択された ・研究者番号を持たない者が申請できる文部科研費（奨励研究）に5研究課題を申請したが採択には至らなかった。しかし、多職種のスタッフが研究マインドをもって高度小児医療の実践に臨む素養を育成するという観点から、今後もこの取り組みを継続する。
8	【令和3年度に推進する事項】 ・医療技術、医療水準の向上に資する「長野県立こども病院医学雑誌」の発行	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県立こども病院医学雑誌第4巻を刊行した。 ・総説1編、原著4編、短報3編と、院内多職種から投稿があり、充実した内容となった。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営体制の強化

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

令和2年度から導入した新しい人事評価制度について、全職員及び評価者を対象にアンケートを行い、その内容に基づき見直しを実施した。

各病院は、職員満足度調査等を活用し、職員が意欲を持って働くことのできる職場環境を整備するため、調査の集計・分析結果の報告会等により結果を共有し、職員のモチベーションの維持・向上に努めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 1 1	昨年度試行的に導入した人事評価制度の円滑な運用と検証を行うとともに、医療環境の変化に柔軟に対応し、医療機能や病院規模に応じた適切な職員配置を進める等、的確な組織・人事運営を図る。	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> ・医療サービスの内容によって職員を配置した。 ・医師については、常勤医を確保するため、信州大学医学部訪問を行うほか、引き続き入院患者数及び手術件数の増加と収益確保に努めた。 ・看護師については、適正人員配置の考え方を基本に、限られた人員を効果的に活用するため、協力体制の強化に対する意識が向上した。 ・新型コロナウイルス感染症に関連した業務や役割が増え、その都度柔軟に体制や人員を調整して対応した。 ・全産育休者を対象にして、キャリアシート及び妊娠時の手続きフローシートを活用した

				面談を実施し、復帰に向けた支援を実施した。
2	同上	駒ヶ根	A	・令和3年度人事評価方針に基づき、各セクションにおいて、期首、中間、期末の目標設定及び面談を行い、院内の人事評価委員会において総合評価を実施した。
3	同上	阿南	A	・病棟看護師の勤務形態選択肢拡充や、通勤負担軽減等を目的に令和2年度より試行していた二交代制勤務を正式導入 ・病棟看護師の業務負担軽減を図るべく病棟の看護補助者（2人）を増員した。
4	同上	木曾	A	・部署ごとに作成するBSCと、新人事評価制度とが連結し、各部署のBSCと各職員の目標設定との整合を推進した。
5	同上	こども	A	・期首に目標を設定し評価者面談。9月の中間評価の面談を経て期末評価を実施。人事評価委員会において結果を検証し、調整及び確定を行った。 ・医師の働き方改革に対応し、医師の労働時間短縮を推進するためコンサルタント業務を委託。診療科の業務別時間の把握を行い、検討を進め、3月末にとりまとめた報告書を受領した。 ・今後は報告内容を踏まえた医師労働時間短縮計画の策定を進めるとともに、診療科の勤務体系の検討、診療科別の労働時間に係る運用資料の整備、医師業務のタスクシフト等の課題に対応する。
6	同上 【令和3年度に推進する事項】 ・昨年度導入した人事評価制度の実績検証と課題整理及び見直し	本部	A	・全職員及び評価者を対象にアンケートを行い、その内容に基づき見直しを実施

7	職員満足度調査等を活用し、職員が意欲を持って働くことのできる職場環境の整備に努める。	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年実施した職員組織文化に関する調査の集計・分析結果の報告会を開催した。
8	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員への情報共有と院内コミュニケーションの円滑化を目的に、院内広報誌「猫べんちのつぶやき」を企画し、発行した。(5回発行) ・「ここ駒アワード」を企画・実施し、自己研鑽に励む職員や組織運営への貢献度が高い職員を院内で紹介することで、当該職員のモチベーションの維持・向上に繋げた。(院内広報誌で11月、3月に8人紹介)
9	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員組織文化に関する調査の集計・分析結果の報告会を開催した。 ・職員のモチベーションアップに向け、経営企画会議において職場環境の改善に関する検討を行い、その多くが実現した。
10	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員満足度調査を10月に実施した。 ・院長、看護部長、事務部長による「院内巡回ミーティング」を実施し、職員からの要望・意見等を収集し、必要な対策を実施した。 ・院内広報誌「時の河」(5月・8月・12月・3月に発行)で、職員からの川柳を募集し掲載するなど内容を工夫し職員のモチベーションアップを推進した。
11	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と同様に「病院の組織文化に関する調査を実施。職員474人から回答あり。回答率は77.8%(対前年度比△8.4%) ・「病院組織文化に関する項目」(8項目)は昨年度とほぼ同等の結果だが、「情報共有」、「士気とやる気」、「改善のシステム」で上昇 ・「業務、経営、職場環境等に関する項目」(8項目)も昨年度と大きな差異はないが、「業務改善」と「改善の成果」、「将来像」が上昇 ・各部署や職種別の結果を分析するほか、自由記載欄のコメントも参考に、会議等を通じて職場環境の向上に努めることとしている。 ・看護部では、育児短時間制度の活用、夜間院内保育の開始、労働環境改善のために時間

				<p>外勤務の削減（一人平均2時間削減）や年休取得数の向上（一人平均12回/年取得）が図れた。また、新生児病棟看護師の夜間休憩時間の確保に向け、保育士の夜勤開始を2022年4月開始する。そのため保育士の労務環境の調整が行えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新人事制度の導入により、看護部として面接の方法を変更した。看護師長、副看護師長の面接を看護部長・副看護部長が実施。スタッフ看護師の中間面接を副師長が実施した。そのための面接技法の研修を行うなど、今までよりも上司の支援体制が強化された。
12	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> ・9月に組織文化調査結果の報告会を局内にて実施した。4年前の調査開始当初から比べると全ての評価軸で改善しているが、情報共有、組織の価値観、責任と権限といった評価軸でベンチマークよりも低い傾向が見られた。
13	病院運営に一体的に取り組むため、経営状況や経営改善の取組について情報共有に努める。	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> ・役職者を対象とした毎月の運営会議では、医事課での分析結果による患者状況の把握と会計決算係による収支の分析結果を組織全体で把握した。 ・毎月の全体朝礼で院長から、経営状況や課題等の説明、損益分岐点となる病床稼働率と医療看護必要度を維持するための病床運用への協力の呼び掛けがなされた。
14	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝実施しているベッドコントロール会議において、入院患者の情報共有を行い、病棟ごとの空床状況を確認し、病床利用率の目標達成に向けた調整を実施した。 ・毎月の病院運営会議において、組織全体の課題の検討及び業務の進捗状況、経営状況を共有した。 ・「病院運営会議だより」を毎月発行し、グループウェアにより全職員に対して決定事項及び経営状況を周知した。
15	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・院内各部署における日頃の業務内容や調査研究、業務改善の取り組み等の報告を行う院内情報交換会を開催した。

16	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の運営委員会にて経営状況表及び経営改善ニュースを発行し、経営状況及び経営改善の取組みについて情報を共有した。 ・事務部での経費削減の取組みを月ごとにまとめて可視化できるよう掲示した。 														
17	同上	こども	A	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">項 目</th> <th style="width: 33%;">立案件数実績</th> <th style="width: 33%;">実行件数実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経営企画室プロジェクト</td> <td>21件</td> <td>11件</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">項 目</th> <th style="width: 25%;">増収額実績</th> <th style="width: 25%;">経費削減額実績</th> <th style="width: 25%;">経営改善総額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経営改善実績</td> <td>56,787千円</td> <td>41,513千円</td> <td>98,470千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※主な取組事項による改善金額の合計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月2回会議を実施し、病院の経営状況を確認するとともに、未来志向型のプロジェクトを策定し21件を立案した。 ・そのうち、子宮頸がんワクチン接種の開始、耳鼻いんこう科扁桃腺手術の開始、こころの診療科医師常勤化による多職種連携の推進、小児がんセンターの開設準備、長野県小児科医等へ実施したアンケートを活用した座談会の開催等、11件についてプロジェクトチームや関連委員会を中心に取組を進め、プロジェクト実現により増収や患者増に繋がった。 	項 目	立案件数実績	実行件数実績	経営企画室プロジェクト	21件	11件	項 目	増収額実績	経費削減額実績	経営改善総額	経営改善実績	56,787千円	41,513千円	98,470千円
項 目	立案件数実績	実行件数実績																
経営企画室プロジェクト	21件	11件																
項 目	増収額実績	経費削減額実績	経営改善総額															
経営改善実績	56,787千円	41,513千円	98,470千円															
18	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会や院長会議等において、前月の経営状況について報告し、機構内で情報を共有した。 														
19	【令和3年度に推進する事項】 時間当たり採算指標等を用いた職員の経営参画を促す仕組みの推進	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、部門リーダーと経営企画課の面談を実施した。また、3ヶ月に1度は院長・事務部長による面談を行い、経営参画意識の醸成を働きかけた。 ・月ごとの時間当り採算表を作成し、部門リーダーと採算指標の数値を共有した。 ・部門ごとの年間計画及び2ヶ月ごとの計画をB S Cにより作成し、毎月実績の振り返りを行い、B S Cの内容が時間当り採算表の数値に反映しているかを確認しながら取組を進めた。 														

				<ul style="list-style-type: none">・3月に令和3年度アメーバ経営報告会を実施し、今年度の時間当たり損益推移や各部署の取組みについて振返り、全体共有を図った。
--	--	--	--	---

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

2 働き方改革への対応

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

全所属における労働時間の適正把握のため、機構独自の勤怠管理システムによる管理を行った。

信州医療センターは、看護職員のユニフォーム2色制の導入により、職員の定時退勤や超過勤務の削減に効果があった。

各病院は、業務の見直しや医師事務作業補助者の増員等による医師のタスク・シフティングを推進するなど、令和6年度から適用される医師の時間外労働の上限規制への対応に向けた体制準備を進めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績							
		病院	評定	取組結果及び取組の効果					
第2 2 1	医師の健康確保と地域医療の確保の両立を図りながら、医師の労働時間短縮に向けた取組（ICTの活用、タスク・シフト/シェア、交代制勤務の導入など）を推進する	信州	A	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				超過勤務医師(1人平均)	14,542時間35分 (354時間41分)	—	—	15,394時間20分 (372時間44分)	94.5% 95.2%
				<ul style="list-style-type: none"> ・月平均80時間以上 1人 ・本人及び所属部長の院長面談を行い、業務配分見直しの検討を行った ・タスク・シフト/シェアへの取組みとして、令和2年10月に看護師特定行為研修を開講し、 					

				<p>当院職員2人が、令和3年9月に研修を修了した。</p> <p>○看護職員ユニフォーム2色制導入評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年7月から導入した看護職員ユニフォーム2色制の1年後の評価を行った。 ・看護師へのアンケート調査の結果として、「業務調整を意識した」68%、「仕事のメリハリがついた」69%、「早く帰ると意識の変化」77%、「医療従事者からの依頼がスムーズ」75%、「導入目的が果たされた」63%と、導入の評価は高かった。 												
2	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師事務作業補助者等を活用した医師（及び看護師）のタスク・シフトの推進（駒ヶ根） 	駒ヶ根	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>超過勤務医師(1人平均)</td> <td>685時間20分 (58時間19分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>912時間17分 (76時間01分)</td> <td>75.1% (76.7%)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・月平均80時間以上 0人 ・医師事務業務の削減と書類作成の迅速化を進めるため、外来クラーク2人を活用し、医師のタスク・シフティングを推進した。 	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	超過勤務医師(1人平均)	685時間20分 (58時間19分)	—	—	912時間17分 (76時間01分)	75.1% (76.7%)
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
超過勤務医師(1人平均)	685時間20分 (58時間19分)	—	—	912時間17分 (76時間01分)	75.1% (76.7%)											
3	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテの更新に併せた先端機器によるオンライン診療の検討（阿南） 	阿南	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>超過勤務医師(1人平均)</td> <td>1,989時間55分 (331時間39分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,795時間16分 (359時間3分)</td> <td>110.8% 92.4%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・月平均80時間以上 0人 ・医師事務作業補助者の業務を拡大し、また、非常勤医師による日当直業務を増やすことにより医師の負担軽減を図った。さらに、訪問診療や巡回診療にモバイル端末を活用することにより、診療の効率化を図った。 ・病棟看護師の勤務形態において二交代制を正式導入し、三交代制と併用 ・病棟看護師の業務負担軽減を図るべく病棟の看護補助者を2人増員 ・日直看護師を日勤勤務とし、負担軽減を図った。 ・4月から週1回医師を派遣している売木村診療所の診療回数の増及び医師の負担軽減を図 	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	超過勤務医師(1人平均)	1,989時間55分 (331時間39分)	—	—	1,795時間16分 (359時間3分)	110.8% 92.4%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
超過勤務医師(1人平均)	1,989時間55分 (331時間39分)	—	—	1,795時間16分 (359時間3分)	110.8% 92.4%											

				るため、オンライン診療導入準備（課題の抽出、技術的な検討、村との調整、院内ワーキンググループの設置など）																	
4	同上	木曾	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>超過勤務医師(1人平均)</td> <td>9,537時間05分 (412時間52分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>7,744時間10分 (368時間45分)</td> <td>112.0% 110.2%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・月平均80時間以上 0人 ・医師の負担軽減のため、医師事務作業補助者を2人増員し、業務範囲を拡大した。 ・信大医師によるスポット当直を活用し、医師の負担軽減を進めた。(実績 26件) ・京セラ式アメーバ経営の取組みの一環として、部署間で連携し、余裕のある部署が忙しい部署を手伝うしくみを用いて職員の負担軽減を推進した。 ・当直明け等の職務専念義務免除制度を令和3年6月から試行を始め、延べ22人が活用した。 ・コンサルタントを活用した医師の超過勤務縮減等の働き方改革を推進した。 						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	超過勤務医師(1人平均)	9,537時間05分 (412時間52分)	—	—	7,744時間10分 (368時間45分)	112.0% 110.2%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																
超過勤務医師(1人平均)	9,537時間05分 (412時間52分)	—	—	7,744時間10分 (368時間45分)	112.0% 110.2%																
5	同上 【令和3年度に推進する事項】 ・(看護師の夜勤回数の適正化と)医師の働き方改革への対応を検討(こども)	こども	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>超過勤務医師(1人平均)</td> <td>39,001時間7分 (475時間37分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>43,498時間57分 (426時間27分)</td> <td>89.7% (111.5%)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・月平均80時間以上 2人 ・医師の勤務環境改善に向け、各診療科部長と面談を実施し、勤務状況、時間管理及び健康管理面等についての課題を共有した上で、新たな勤務体制として交代制勤務の導入など、負担軽減のための検討を行っている。 ・医師事務作業補助者を13人配置し、医師の負担軽減を図っている。 ・医師の働き方改革への対応を踏まえて超過勤務時間及び休日勤務時間の削減に向けて、コ 						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	超過勤務医師(1人平均)	39,001時間7分 (475時間37分)	—	—	43,498時間57分 (426時間27分)	89.7% (111.5%)
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																
超過勤務医師(1人平均)	39,001時間7分 (475時間37分)	—	—	43,498時間57分 (426時間27分)	89.7% (111.5%)																

				<p>ンサルタントと共に診療科ごとの課題分析に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の検査実施者育成の観点から、腹部エコーを担当する技師を1人加えて述べ2人とした。医師の働き方改革を支援する方向で、さらに体制強化を図る必要があるが、技術習得に長期間を要するため取り組みを継続していく。マンパワーの確保が課題である。 																														
6	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の時間外労働の上限規制適用開始（令和6年度から）に向けて各病院が策定する「医師労働時間短縮計画」に対する支援 	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> ・6月の看護部長・事務部長合同会議において、労働基準監督署の研修講義に基づく「労務管理上の留意点」について説明 																														
7	<p>職員全体の総労働時間の短縮や年次休暇の取得推進等、適正な労務環境の整備に努める。</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間看護補助者の導入により看護師のタスク・シフトを推進（信州） 	信州	A	<p>超過勤務時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師 (1人平均)</td> <td>23,901時間17分 (106時間50分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>23,362時間09分 (109時間10分)</td> <td>102.3% (97.9%)</td> </tr> <tr> <td>医療技術者 (1人平均)</td> <td>12,152時間51分 (184時間41分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>10,763時間54分 (154時間25分)</td> <td>112.9% (119.6%)</td> </tr> <tr> <td>事務 (1人平均)</td> <td>7,308時間54分 (252時間01分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>7,507時間11分 (259時間45分)</td> <td>97.4% (97.0%)</td> </tr> <tr> <td>職員全体 (1人平均)</td> <td>57,961時間00分 (160時間20分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>57,114時間39分 (160時間31分)</td> <td>101.5% (100.0%)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・勤怠管理のため、年休取得状況及び超過勤務状況を毎月各パート長あて配布した。 ・6月から南2階～南6階病棟に、夜間看護補助者計8人を配置した。副看護師長が担当者となり夜間看護補助者の業務内容の検討を行い、それに伴い日勤看護補助者の業務の見直しも実施した。導入3カ月後に対象病棟の看護師へアンケート調査を行った。84%が「タスク・シフトが進んだ」と回答している。また、タスク・シフトが進んだことで看護師ができる 	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	看護師 (1人平均)	23,901時間17分 (106時間50分)	—	—	23,362時間09分 (109時間10分)	102.3% (97.9%)	医療技術者 (1人平均)	12,152時間51分 (184時間41分)	—	—	10,763時間54分 (154時間25分)	112.9% (119.6%)	事務 (1人平均)	7,308時間54分 (252時間01分)	—	—	7,507時間11分 (259時間45分)	97.4% (97.0%)	職員全体 (1人平均)	57,961時間00分 (160時間20分)	—	—	57,114時間39分 (160時間31分)	101.5% (100.0%)
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																													
看護師 (1人平均)	23,901時間17分 (106時間50分)	—	—	23,362時間09分 (109時間10分)	102.3% (97.9%)																													
医療技術者 (1人平均)	12,152時間51分 (184時間41分)	—	—	10,763時間54分 (154時間25分)	112.9% (119.6%)																													
事務 (1人平均)	7,308時間54分 (252時間01分)	—	—	7,507時間11分 (259時間45分)	97.4% (97.0%)																													
職員全体 (1人平均)	57,961時間00分 (160時間20分)	—	—	57,114時間39分 (160時間31分)	101.5% (100.0%)																													

				<p>ようになった業務は、「直接的ケア」「看護記録」「状態観察」などであった。副看護師長を中心に、スタッフの意見を聞き、業務の見直しやマニュアルの変更を継続的に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部の医療技術職については、産育休取得者及び休職者が発生したが、職員の補充ができず、超過勤務の増加につながった。 																																			
8	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医師事務作業補助者等を活用した（医師及び）看護師のタスク・シフトの推進（駒ヶ根・再掲） 	駒ヶ根	B	<p>超過勤務時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師 (1人平均)</td> <td>4,948時間12分 (45時間29分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4,418時間28分 (52時間31分)</td> <td>112.0% (86.6%)</td> </tr> <tr> <td>医療技術者 (1人平均)</td> <td>1,655時間45分 (48時間59分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,576時間59分 (49時間16分)</td> <td>105.0% (99.4%)</td> </tr> <tr> <td>事務 (1人平均)</td> <td>1,088時間25分 (93時間57分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,239時間34分 (113時間43分)</td> <td>87.8% (82.6%)</td> </tr> <tr> <td>職員全体 (1人平均)</td> <td>7,487時間42分 (51時間04分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>8,140時間18分 (57時間53分)</td> <td>92.0% (88.2%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・夜間看護当直の見直しや病棟の二交代制勤務の実施、時差勤務の積極的な活用、業務の効率化を行うなど業務量の軽減を図り、1人当たり平均は前年度に比較して減少した。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	看護師 (1人平均)	4,948時間12分 (45時間29分)	—	—	4,418時間28分 (52時間31分)	112.0% (86.6%)	医療技術者 (1人平均)	1,655時間45分 (48時間59分)	—	—	1,576時間59分 (49時間16分)	105.0% (99.4%)	事務 (1人平均)	1,088時間25分 (93時間57分)	—	—	1,239時間34分 (113時間43分)	87.8% (82.6%)	職員全体 (1人平均)	7,487時間42分 (51時間04分)	—	—	8,140時間18分 (57時間53分)	92.0% (88.2%)
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																		
看護師 (1人平均)	4,948時間12分 (45時間29分)	—	—	4,418時間28分 (52時間31分)	112.0% (86.6%)																																		
医療技術者 (1人平均)	1,655時間45分 (48時間59分)	—	—	1,576時間59分 (49時間16分)	105.0% (99.4%)																																		
事務 (1人平均)	1,088時間25分 (93時間57分)	—	—	1,239時間34分 (113時間43分)	87.8% (82.6%)																																		
職員全体 (1人平均)	7,487時間42分 (51時間04分)	—	—	8,140時間18分 (57時間53分)	92.0% (88.2%)																																		
9	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護師の看護当直及び交代制勤務のあり方の検討（駒ヶ根） 	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスの推進を図るため、二交代制勤務について検討し、令和3年11月より病棟部門で試行開始した。外来部門は二交代制勤務を導入し、医師の日当直業務の削減を行い、12月に医師の宿日直許可を取得した。 																																			
10	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 労働時間の把握・分析及び衛生委員会による院内への内容周知（阿南） 	阿南	B	<p>超過勤務時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																								
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																																		

				看護師 (1人平均)	2,121時間58分 (42時間44分)	-	-	1,742時間33分 (36時間18分)	121.8% (117.7%)
				医療技術者 (1人平均)	2,112時間45分 (100時間36分)	-	-	2,424時間24分 (121時間13分)	87.1% (83.0%)
				事務 (1人平均)	2,959時間10分 (295時間55分)	-	-	1,634時間18分 (148時間34分)	181.1% (199.2%)
				職員全体 (1人平均)	7,193時間53分 (88時間49分)	-	-	5,801時間15分 (73時間26分)	124.0% (120.9%)
				<ul style="list-style-type: none"> 勤怠管理システムによる病院スタッフの労働時間を把握及び分析、さらにその内容について衛生委員会を通じ各セクションへの周知を実施した。 職員減により、事務部では対前年度比で大幅に増加した。 					
11	同上 【令和3年度に推進する事項】 ・多様な業務に対応するため、所定労働時間帯の柔軟な運用による時差勤務の推進 (木曾)	木曾	B	超過勤務時間					
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
				看護師 (1人平均)	19,896時間42分 (126時間19分)	-	-	11,941時間0分 (91時間20分)	166.6% (138.3%)
				医療技術者 (1人平均)	7,547時間33分 (140時間33分)	-	-	6,569時間30分 (119時間25分)	114.9% (117.7%)
				事務 (1人平均)	3,562時間34分 (187時間30分)	-	-	5,043時間30分 (253時間25分)	70.6% (74.0%)
				職員全体 (1人平均)	31,006時間49分 (134時間42分)	-	-	23,554時間0分 (102時間46分)	131.6% (131.1%)
				・京セラ式アメーバ経営の一環として、自部署の総労働時間を短縮するために部署ごとに年					

				休取得の推進や超過勤務時間の削減に取り組み、毎月数値を確認した。																																			
12	同上 【令和3年度に推進する事項】 ・ボランティアの募集に係る仕組み作りとその活用による職員の負担軽減及びサービスの向上（木曽）	木 曽	A	・看護部と事務部が中心となり、ボランティア募集の仕組み作りを行った。																																			
13	同上 【令和3年度に推進する事項】 ・会議運営の見直しによる業務の効率化	木 曽	A	・運営委員会の資料について、コンパクト化を進めるとともに、発表方法を見直し会議時間の短縮を進めた																																			
14	同上 【令和3年度に推進する事項】 ・看護師の夜勤回数の適正化（と医師の働き方改革への対応）を検討（再掲・こども）	こ ど も	A	<p>超過勤務時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度 目標</th> <th>対目 標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師 (1人平均)</td> <td>21,380時間23分 (67時間26分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>27,242時間30分 (72時間50分)</td> <td>78.4% (92.7%)</td> </tr> <tr> <td>医療技術者 (1人平均)</td> <td>11,202時間56分 (162時間21分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>10,139時間15分 (163時間32分)</td> <td>110.4% (99.3%)</td> </tr> <tr> <td>事務 (1人平均)</td> <td>3,851時間15分 (40時間32分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3,501時間58分 (61時間26分)</td> <td>109.9% (65.8%)</td> </tr> <tr> <td>職員全体 (1人平均)</td> <td>75,435時間41分 (133時間59分)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>89,040時間32分 (143時間50分)</td> <td>84.7% (93.0%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・看護師適正人員配置の考え方の下、採用人数を割り出し、看護師採用を進めた。 ・育児中の職員が早期に夜勤ができるように、夜間保育の実施・休業前と同じ職場への復帰など工夫している。</p>						項目	実績	年度 目標	対目 標比	前年度実績	対前年度比	看護師 (1人平均)	21,380時間23分 (67時間26分)	—	—	27,242時間30分 (72時間50分)	78.4% (92.7%)	医療技術者 (1人平均)	11,202時間56分 (162時間21分)	—	—	10,139時間15分 (163時間32分)	110.4% (99.3%)	事務 (1人平均)	3,851時間15分 (40時間32分)	—	—	3,501時間58分 (61時間26分)	109.9% (65.8%)	職員全体 (1人平均)	75,435時間41分 (133時間59分)	—	—	89,040時間32分 (143時間50分)	84.7% (93.0%)
項目	実績	年度 目標	対目 標比	前年度実績	対前年度比																																		
看護師 (1人平均)	21,380時間23分 (67時間26分)	—	—	27,242時間30分 (72時間50分)	78.4% (92.7%)																																		
医療技術者 (1人平均)	11,202時間56分 (162時間21分)	—	—	10,139時間15分 (163時間32分)	110.4% (99.3%)																																		
事務 (1人平均)	3,851時間15分 (40時間32分)	—	—	3,501時間58分 (61時間26分)	109.9% (65.8%)																																		
職員全体 (1人平均)	75,435時間41分 (133時間59分)	—	—	89,040時間32分 (143時間50分)	84.7% (93.0%)																																		

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

3 職員の勤務環境の向上

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

機構全体で業務の見直しや効率化を進め、また年次休暇の取得を推進するなど、働きやすい職場環境の整備に努めた。

看護部では引き続き、医療の質と経営的な視点を両立させる適正な看護師数について、実績データに基づき各病院が人員配置表により人員試算を行い、看護師数の適正化を推進した。

本部事務局は、有期雇用職員の社会保険料算定基礎届の電子申告や源泉徴収票の電子化など、給与事務の効率化を図った。

こども病院は、従来からの院内よろず相談窓口の活用に加え、7月から本部事務局職員相談員による出張相談を開始し、職員の心のケアをできる機会の確保を図った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 3 1	業務の見直しや効率化の取組等により労働時間の適正な管理や有給休暇の取得促進を図るほか、仕事と生活の両立に向けた働き方への支援や職員相談体制の強化等により、職員が生活との	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> ・院内広報誌「みちしるべ」を発行し、管理者からのメッセージや各部署からのお知らせ、新任職員の紹介等を掲載し、職員間の理解と一体化を図った。 ・院内保育所「カンガルーのぽっけ」（定員10人）では、保護者である職員が利用しやすく安心して働けるよう、新たに半日利用の料金を設定し、職員の早期復帰への支援に努めるとともに、病院と保育所の交流を深めた。

	調和を図りながら、やりがいや充実感をもって働くことのできる職場環境の整備を推進する。			
2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総労働時間短縮とワークライフバランスの推進のため、各セクションで超過勤務削減の重点事項を実施するとともに、安全衛生委員会において年次休暇の取得促進を行った。 ・勤怠管理システムにより、労働時間の管理を適正に行うとともに、業務の効率化や時差出勤の積極的な活用を行った。 ・職員のハラスメント相談等の対応のため、院内に職員相談体制を整備した。
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・医師の業務負担軽減を図るため非常勤当直医師を採用 ・病棟看護師の業務負担軽減を図るべく病棟の看護補助者を2人増員し、看護職員と看護補助者との業務内容及び業務範囲の見直しを実施し早朝業務・遅番業務へ一部移行
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・京セラ式アメーバ経営の一環として、業務の見直しや効率化、有給休暇の取得や超過勤務時間の削減に部門ごとに取り組み、良い取り組みについては運営委員会で紹介するなどし、職場環境の改善を推進した。
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職場環境の整備について、育児短時間制度、育児部分休業制度及び育児時間を看護師42人、臨床検査技師1人、理学療法士1人、管理栄養士1人、薬剤師1人の合計46人が活用し、子育てと仕事の両立を図っている。 ・有給休暇取得率 医師 … 4.4%、看護師 … 5.8%、助産師 … 12.4%、保健師 … 0.6%、医療技術職員 … 12.7%、薬剤師 … 5.9%、事務員 … 5.8%
6	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> ・給与システムの活用により有期雇用職員（病院採用）の社会保険料算定基礎届の電子申告を開始し、各病院等の業務負担を軽減した。 ・全職員の源泉徴収票を電子化し、各病院等の業務負担を軽減した。 ・例月給与に関し、各病院等で法定外控除していた労金普通預金と県職員宿舍貸付料を7月から本部の一括管理とし、各病院等の業務負担を軽減した。

- ・期末・勤勉手当の支給にあたり、従前は各病院等も含めて対象職員の期間率を手計算していたものを、新システムを用いることで機械的に算出可能にしたことで、本部事務局・各所属双方で計算作業がなくなり、大幅な時間削減を実現した。
- ・新規採用職員の給与振込申出書の提出を本部で集約し、システム登録する方法に改め、各病院等の業務負担を軽減した。
- ・8月末時点での年次休暇の取得状況を調査・分析。取得日数が少ない職員が確実に年5日以上年次休暇を取得できるよう10月4日付けで各病院等へ通知し、必達に向けて取り組んだ結果、取得率が改善した。

【令和3年の年次休暇取得状況】

5日以上取得者 94.5%（令和2年：94.2%）

10日以上取得者 61.1%（令和2年：62.3%）

●新型コロナウイルス感染症への対応

○感染症対策により危険性が高い業務に従事した職員に支給する特殊勤務手当（感染症防疫等作業手当）を支給した。

令和3年度実績

	実績	前年度実績	対前年度比
信州医療センター	16,542 千円	17,754 千円	93.2%
こころの医療センター駒ヶ根	1,533 千円	403 千円	380.4%
阿南病院（老健等を含む。）	3,346 千円	1,554 千円	221.8%
木曾病院（老健等を含む。）	4,347 千円	4,949 千円	87.8%
こども病院	873 千円	909 千円	96.0%
合計	26,642,千円	25,570 千円	104.2%

				<p>○県による「命と暮らしを救う集中対策期間」（9月3日～9月12日）は、事務室内の職員数を概ね5割削減できるよう、在宅勤務及び休暇取得を推進（理事長以下26人）</p> <p>【期間中の出勤率】</p> <table border="1" data-bbox="976 432 1603 584"> <thead> <tr> <th></th> <th>平均</th> <th>最大</th> <th>最小</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>午前</td> <td>56.4%</td> <td>65.4%</td> <td>46.2%</td> </tr> <tr> <td>午後</td> <td>56.4%</td> <td>73.1%</td> <td>42.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○時差勤務及び在宅勤務の推進</p> <p>通勤時の「密」を回避するため、通年での時差出勤を推進、休憩時間の分散化により、食堂、売店、洗面所等での「密」を回避</p> <p>【在宅勤務の実績】</p> <table border="1" data-bbox="976 823 1939 975"> <thead> <tr> <th></th> <th>実績</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>5人</td> <td>6人</td> <td>△1人</td> </tr> <tr> <td>延人数</td> <td>59人</td> <td>37人</td> <td>22人</td> </tr> </tbody> </table>		平均	最大	最小	午前	56.4%	65.4%	46.2%	午後	56.4%	73.1%	42.3%		実績	前年度実績	対前年度実績	人数	5人	6人	△1人	延人数	59人	37人	22人
	平均	最大	最小																									
午前	56.4%	65.4%	46.2%																									
午後	56.4%	73.1%	42.3%																									
	実績	前年度実績	対前年度実績																									
人数	5人	6人	△1人																									
延人数	59人	37人	22人																									
7	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療の質と経営的な視点を両立させる適正な看護師数の検討 	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> 看護職場の勤務形態の実態が見える化するため、職種、育児部分休業及び育児短時間勤務制度を活用している職員を常勤換算数で確認できる適正人数試算表を再構築 																								

8	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本部事務局職員による相談体制の強化及び各病院の相談体制との連携強化 	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> 4月から相談員を1人配置し、相談体制を強化 保健師及び相談員による巡回健康相談を実施 ストレスチェック及びメンタルヘルス巡回相談を実施しメンタル疾患を早期に把握 <table border="1" data-bbox="943 339 2049 879"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規採用職員研修(メンタルヘルス)〔保健師〕</td> <td>1回 (72人)</td> <td>1回 (94人)</td> <td>前年と同じ (△22人)</td> </tr> <tr> <td>メンタルヘルス巡回相談(新規採用職員等対象)〔保健師〕</td> <td>各所属3回 (216人)</td> <td>各所属3回 (235人)</td> <td>前年と同じ (△19人)</td> </tr> <tr> <td>健康(メンタルを含む)巡回相談(全職員対象)〔保健師〕</td> <td>各所属3回 (263人)</td> <td>各所属3回 (276人)</td> <td>前年と同じ (△13人)</td> </tr> <tr> <td>過重労働による健康障害防止のための面接指導〔産業医〕</td> <td>各所属で実施 (9人)</td> <td>各所属で実施 (14人)</td> <td>前年と同じ (△5人)</td> </tr> <tr> <td>ストレスチェック(全職員対象)</td> <td>1回 (1,667人)</td> <td>1回 (1,541人)</td> <td>前年と同じ (126人)</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	前年度実績	対前年度実績	新規採用職員研修(メンタルヘルス)〔保健師〕	1回 (72人)	1回 (94人)	前年と同じ (△22人)	メンタルヘルス巡回相談(新規採用職員等対象)〔保健師〕	各所属3回 (216人)	各所属3回 (235人)	前年と同じ (△19人)	健康(メンタルを含む)巡回相談(全職員対象)〔保健師〕	各所属3回 (263人)	各所属3回 (276人)	前年と同じ (△13人)	過重労働による健康障害防止のための面接指導〔産業医〕	各所属で実施 (9人)	各所属で実施 (14人)	前年と同じ (△5人)	ストレスチェック(全職員対象)	1回 (1,667人)	1回 (1,541人)	前年と同じ (126人)
項目	実績	前年度実績	対前年度実績																									
新規採用職員研修(メンタルヘルス)〔保健師〕	1回 (72人)	1回 (94人)	前年と同じ (△22人)																									
メンタルヘルス巡回相談(新規採用職員等対象)〔保健師〕	各所属3回 (216人)	各所属3回 (235人)	前年と同じ (△19人)																									
健康(メンタルを含む)巡回相談(全職員対象)〔保健師〕	各所属3回 (263人)	各所属3回 (276人)	前年と同じ (△13人)																									
過重労働による健康障害防止のための面接指導〔産業医〕	各所属で実施 (9人)	各所属で実施 (14人)	前年と同じ (△5人)																									
ストレスチェック(全職員対象)	1回 (1,667人)	1回 (1,541人)	前年と同じ (126人)																									
9	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 病棟夜勤者ユニフォーム導入の効果を検証 	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年7月から導入した看護職員ユニフォーム2色制の1年後の評価を行った。 看護師へのアンケート調査の結果として、「業務調整を意識した」68%、「仕事のメリハリがついた」69%、「早く帰るという意識の変化」77%、「医療従事者からの依頼がスムーズ」75%、「導入目的が果たされた」63%と、導入の評価は高かった。 																								
10	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「こころの相談室」に精神科医を配置し、職員の心のケアの機会を確保 	こども	B	<table border="1" data-bbox="884 1118 1982 1326"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「こころの相談室」</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>216件</td> <td>皆減</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	「こころの相談室」	—	—	—	216件	皆減												
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																							
「こころの相談室」	—	—	—	216件	皆減																							

				よろず相談窓口	493件	—	—	491件	100.4%
				出張相談	22件	—	—	0件	皆増
<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度末で精神科の常勤医及びリエゾンナースが不在となったため、「こころの相談室」の活動は停止している。 ・このため、従来からの院内よろず相談窓口の活用に加え、7月から本部事務局職員相談員による出張相談（毎月第1、3金）を開始し、職員の心のケアをできる機会の確保を図った。 									

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1 経常黒字の維持

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

- ・ 経常費用に対する経常収益で表す経常収支比率は、年度計画と比べ、102.8%と2.8%の大幅なプラスとなった。
- ・ 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、入院患者の減少が継続しているが、対前年102.4%（5,236人）の増加となった。また、外来患者は、対前年107.1%（26,415人）と増加した。

令和3年度決算における病院別では、こころの医療センター駒ヶ根を除く4病院で黒字となった。信州医療センター、こども病院では新型コロナウイルス感染症患者の受入体制整備に伴う補助金（病床確保料）により、また、阿南病院は、急性期看護補助体制加算を始めとした各種加算の取得や、手術件数の増加、包括ケア病床の開設等による入院単価の増などにより、木曽病院は、算定できていない管理料や加算の抽出を行い、既存算定件数の増加及び新規加算の取得に努めたこと等により、収益を上げることができた。こころの医療センター駒ヶ根では、新型コロナウイルス感染症の陽性患者受入に伴う入院制限等による医業収益の減と、給与費の増等により、△19,940千円の経常損失となった。

収益確保及び経費削減等の新たな経営改善の取組の効果もあり、令和3年度の決算は、機構全体で712百万円の黒字となった。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果

第3 1 1	<p>経営基盤の確立を目指し更なる経営健全化に努めるとともに、本年度の損益計算において経常収支比率を100%以上とする。</p> <p>今後必要となる設備投資を考慮し、適切な資金計画を策定する。</p> <p>・令和3年度収支計画（単位：百万円）</p>	機 構 全 体	<p>令和3年度決算等</p> <p>・報告書p.71「経常収支比率（病院機構全体）」再掲</p> <p>指標：経常収支比率（病院機構全体）</p> <p>達成目標：経常収支比率100%以上</p>																																																																	
	<p>【経常収支比率】（単位：%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院機構全体</td> <td>99.4</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>		病院名	令和元年度実績	令和3年度目標	病院機構全体	99.4	100.0	<p style="text-align: right;">（単位：百万円、%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病 院</th> <th>区 分</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">経常収益</td> <td>計 画</td> <td>23,540</td> <td>23,453</td> <td>23,720</td> <td>24,525</td> <td>24,965</td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>23,201</td> <td>23,763</td> <td>23,863</td> <td>25,421</td> <td>25,923</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">経常費用</td> <td>計 画</td> <td>23,508</td> <td>23,432</td> <td>23,703</td> <td>24,458</td> <td>24,963</td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>23,324</td> <td>23,346</td> <td>24,006</td> <td>24,501</td> <td>25,211</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">経常損益</td> <td>計 画</td> <td>32</td> <td>21</td> <td>17</td> <td>67</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>△ 123</td> <td>417</td> <td>△ 143</td> <td>920</td> <td>712</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">経常収支比率</td> <td>計 画</td> <td>100.1</td> <td>100.1</td> <td>100.1</td> <td>100.3</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>99.5</td> <td>101.8</td> <td>99.4</td> <td>103.8</td> <td>102.8</td> </tr> </tbody> </table>	病 院	区 分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	経常収益	計 画	23,540	23,453	23,720	24,525	24,965	実 績	23,201	23,763	23,863	25,421	25,923	経常費用	計 画	23,508	23,432	23,703	24,458	24,963	実 績	23,324	23,346	24,006	24,501	25,211	経常損益	計 画	32	21	17	67	2	実 績	△ 123	417	△ 143	920	712	経常収支比率	計 画	100.1	100.1	100.1	100.3	100.0	実 績	99.5	101.8	99.4	103.8	102.8
	病院名		令和元年度実績	令和3年度目標																																																																
病院機構全体	99.4	100.0																																																																		
病 院	区 分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度																																																														
経常収益	計 画	23,540	23,453	23,720	24,525	24,965																																																														
	実 績	23,201	23,763	23,863	25,421	25,923																																																														
経常費用	計 画	23,508	23,432	23,703	24,458	24,963																																																														
	実 績	23,324	23,346	24,006	24,501	25,211																																																														
経常損益	計 画	32	21	17	67	2																																																														
	実 績	△ 123	417	△ 143	920	712																																																														
経常収支比率	計 画	100.1	100.1	100.1	100.3	100.0																																																														
	実 績	99.5	101.8	99.4	103.8	102.8																																																														
<p>※係数は、端数をそれぞれ四捨五入しており、内訳と合計が一致しない箇所がある。</p>																																																																				

2	区分	金額 (税抜)	A	(税抜、単位：百万円)					
				科目	令和3年度	令和2年度	令和3年度計画	増減(R3-R2)	増減(R3-計画)
	経常的収益	24,965		経常収益（ア）	25,923	25,421	24,965	503	959
	営業収益	24,557		医業収益	17,643	16,980	17,696	663	▲ 53
	医業収益	17,696		うち入院収益	12,236	11,926	12,195	311	42
	介護老人保健施設収益	403		うち外来収益	4,821	4,558	5,032	263	▲ 211
	看護師養成所収益	20		うち公衆衛生活動収益等	453	383	374	70	79
	運営費負担金収益	5,280		介護老人保健施設収	407	371	403	36	4
	資産見返負債戻入	201		看護師養成所収益	18	18	20	▲ 0	▲ 2
	その他営業収益	956		運営費負担金収益	5,510	5,510	5,510	0	0
	営業外収益	407		その他経常収益	2,345	2,541	1,335	▲ 196	1,010
	運営費負担金収益	230		経常費用（イ）	25,140	24,501	24,963	639	177
	その他営業外収益	177		医業費用	23,127	22,457	22,932	669	195
	経常的費用	24,963		うち給与費	13,316	12,986	13,120	330	196
	営業費用	23,937		うち材料費	4,157	4,173	4,200	▲ 16	▲ 43
	医業費用	22,932		うち減価償却費	2,043	1,903	2,022	140	21
	給与費	13,120		うち経費	3,557	3,346	3,517	211	40
	材料費	4,200		介護老人保健施設費	445	461	469	▲ 16	▲ 24
	経費等	3,517		看護師養成所費用	151	155	169	▲ 5	▲ 18
	減価償却費	2,022		一般管理費	383	347	367	36	16
	研究研修費	73		財務費用（支払利息）	259	310	264	▲ 51	▲ 5
	介護老人保健施設費用	469		その他経常費用	775	770	761	5	14
	看護師養成所費用	169		経常損益（ア-イ）	784	920	2	▲ 136	782
	一般管理費	367		臨時損益（ウ）	▲ 72	▲ 11	0	▲ 61	▲ 72
	営業外費用	1,025		当期純損益（ア-イ+ウ）	712	909	2	▲ 197	710
	予備費	0		※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。					

	<table border="1"> <tr><td>経常利益</td><td>2</td></tr> <tr><td>臨時利益</td><td>0</td></tr> <tr><td>臨時損失</td><td>0</td></tr> <tr><td>純利益</td><td>2</td></tr> </table> <p>注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している。</p>	経常利益	2	臨時利益	0	臨時損失	0	純利益	2													
経常利益	2																					
臨時利益	0																					
臨時損失	0																					
純利益	2																					
3	<p>【医業収支比率】 対目標比=実績/年度目標 医業収益÷医業費用×100 (税抜、単位：%)</p> <table border="1"> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> <tr> <td>信州</td> <td>87.0</td> <td>83.4</td> </tr> </table>	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標	信州	87.0	83.4	信州	B	<table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> <tr> <td>医業収支比率</td> <td>83.6%</td> <td>83.4%</td> <td>100.2%</td> <td>83.6%</td> <td>100.0%</td> </tr> </table> <p>・収益について、計画比で、入院患者数が減となったが診療単価が増となったため、入院収益が増加した。診療単価が増となった要因は、整形外科手術の増、コロナ禍で相対的に軽症の患者の入院が減少したことが考えられる。また、費用では手術やコロナ検査に用いる材料費と、調剤や夜間看護補助の派遣職員に係る雑費等の経費がそれぞれ大幅に増加した。その結果、医業収支比率は前年度比で悪化したが、感染対策の取組により院内感染が発生しなかったことがさらなる収支の悪化を防いだと考える。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医業収支比率	83.6%	83.4%	100.2%	83.6%	100.0%
病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																				
信州	87.0	83.4																				
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
医業収支比率	83.6%	83.4%	100.2%	83.6%	100.0%																	
4	<p>同上 (税抜、単位：%)</p> <table border="1"> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> <tr> <td>駒ヶ根</td> <td>67.8</td> <td>63.2</td> </tr> </table>	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標	駒ヶ根	67.8	63.2	駒ヶ根	A	<table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> <tr> <td>医業収支比率</td> <td>59.0%</td> <td>63.2%</td> <td>93.4%</td> <td>63.8%</td> <td>92.5%</td> </tr> </table> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響で入院収益を中心に医業収益が減少したことにより、前年度比で4.8ポイント減少した。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医業収支比率	59.0%	63.2%	93.4%	63.8%	92.5%
病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																				
駒ヶ根	67.8	63.2																				
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																	
医業収支比率	59.0%	63.2%	93.4%	63.8%	92.5%																	

5	同上 (税抜、単位：%)		阿南	B						
	病院名	令和元年度実績			令和3年度目標	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績
	阿南	55.2	54.1		医療収支比率	57.1%	54.1%	105.5%	53.2%	107.3%
					<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療収益について、常勤整形外科医が不在となったことや、年度当初から新型コロナウイルス感染症受け入れのため入院、外来患者数共に減少し計画を下回ったが、医療費用において、材料費、経費、研修研究費等において、新型コロナウイルス感染症受入による患者数の減に伴い、医薬品購入数の減、提供食事数の減による給食材料費の減、白内障手術の中止等により計画を下回る事となったため目標値を上回った。 					
6	同上 (税抜、単位：%)		木曾	B						
	病院名	令和元年度実績			令和3年度目標	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績
	木曾	77.7	77.6		医療収支比率	79.7%	77.6%	102.7%	73.3%	108.7%
					<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療費用は前年度比105.6%となり増加したものの、医療収益は前年度比で112.3%となったことから、収支比率は前年度比で増加したが年度目標値には達しなかった。 					
7	同上 (税抜、単位：%)		こども	A						
	病院名	令和元年度実績			令和3年度目標	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績
	こども	80.1	79.8		医療収支比率	76.4%	79.8%	95.7%	76.1%	100.4%
					<ul style="list-style-type: none"> ・ 入院患者数は、対前年を上回ったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言及び蔓延防止措置の影響を受け、県外患者数の減少が回復せず計画を下回った。また、高稼働額の患者数減少により入院診療単価が下がった。外来患者数は、県内一般小児患者数が増加傾向となり対前年を上回ったが、計画には達しなかった。 ・ 医療収益は、県外患者数の減少による入院収益の減少が大きく影響し、前年度を上回ったものの計画では下回った。 ・ 医療収支比率では、材料費価格交渉や経費削減の取組により費用縮減に努め、前年度より改善したが計画には達しなかった。 					

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

2 経営基盤の強化

(1) 収益の確保

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい運営状況ではあったが、引き続き、組織が一体となって経営改善に取り組んだ。

理事会等の会議において月次決算（前月の経営状況）を示し、病院、本部等の幹部職員により課題や取組方針を共有するとともに、各病院の運営会議等の場でも情報共有を行い、病院運営に係る職員の意識向上を図った。

また、各病院においても収益向上のための取組を実施した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第3 2(1) 1	<p>様々な診療報酬加算や施設基準の取得のほかDPC係数向上の検討等、診療報酬改定に的確かつ迅速に対応し、収益を確保する。</p> <p>診療報酬請求漏れの防止、未収金の発生防止及び早期回収を行う。</p>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間看護補助者を配置し、夜間100対1急性期看護補助体制加算及び夜間看護体制加算の施設基準を取得したことによりDPC係数が向上。令和3年8月から算定を開始した。 ・即応病床確保のため地域包括ケア病棟の一時的な削減運用を行ったが、拡大ベッドコントロール会議等で情報共有や連携を図り、急性期一般入院料2の施設基準である重症度、医療・看護必要度の基準値を意識しベッドコントロールを行い、収益を確保した。 ・新型コロナウイルス感染症の重点医療機関として患者受入れを行い、臨時的取扱いの救急医療管理加

				算（中等症以上）を算定した。
2	同上 【令和3年度に推進する事項】 ・収益に関する数値目標による管理 (駒ヶ根)	駒 ヶ 根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝実施しているベッドコントロール会議において、入院患者の情報共有を行い、病棟ごとの空床状況を確認し、病床利用率の目標達成に向けた調整を実施した。 ・毎月の病院運営会議において、組織全体の課題の検討及び業務の進捗状況、経営状況を共有した。 ・経営改善のため取り組むべき項目を明確にし、経営状況について伝達するなど、職員の経営意識の醸成に努めた。
3	同上	阿 南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・DPCデータの分析による診療状況や経営状況への活用を行い医療の質の向上及び標準化を図ることや収益の増加を見込んで、令和6年度にDPC制度に参加することを決定し、9月にDPC準備病院となる届出を提出 ・入院診療単価の増加を図るため、9月より急性期看護補助体制加算25対1 看護補助者5割以上の算定を開始し、11月より地域包括ケア病床において看護補助者配置加算の算定を開始した。
4	同上	木 曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・算定できていない管理料や加算の抽出を行い、既存算定件数の増加及び新規加算の取得に努めた。この結果診療単価の上昇を図ることができた。 ・人間ドック部位別がん検診を新設し、受診者の増加を図った。 ・DPC入院期間患者別グラフを作成し、ベッドコントロールに活用することで入院単価を維持した。 ・介護医療院、介護老人保健施設の収益増の観点から、新規加算（科学的介護推進体制加算、栄養マネジメント強化加算、リハビリテーション計画書情報加算、口腔衛生管理加算、褥瘡マネジメント加算、排せつ支援加算、自立支援促進加算、薬剤指導管理加算）の取得に関する届出を行った。
5	同上	こ ど も	A	<p>【整形外科の入院料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術後リハビリの受け入れや手術後集中治療病棟での術後管理を行うなどの新たな取り組みにより、整形外科患者数は前年度より298人増加（120.9%）し、対象の入院患者は延べ141人で、20,349千円の収益増となった。 <p>【シナジス筋肉注射】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院中の接種が包括となる薬剤（シナジス）について、各診療部長へ退院後の接種を依頼し出来高で算定し、21,975千円の収益増となった。

				<p>【薬剤管理指導料】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数</td> <td>3,887 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2,950 件</td> <td>937 件</td> </tr> <tr> <td>稼働額</td> <td>13,022,150 円</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>9,949,850 円</td> <td>3,072,300 円</td> </tr> </tbody> </table> <p>・入院患者及び保護者への薬剤の指導及び効果・副作用フォローを実施し、安全で有効な薬物療法を推進した。</p> <p>【病棟薬剤業務実施加算】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数</td> <td>16,065 件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>15,261 件</td> <td>804 件</td> </tr> <tr> <td>稼働額</td> <td>17,250,400 円</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>16,269,000 円</td> <td>981,400 円</td> </tr> </tbody> </table> <p>・カンファレンスや情報提供及び安全対策等を含めた病棟業務全般に対する薬剤師技術料を積極的に算定した。</p> <p>【小児入院医療管理料 1】</p> <p>・令和 2 年 11 月から、PICU12 床のうちの 4 床を HCU として運用し、小児入院医療管理料 1 を算定したことにより収益増を実現</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>HCU 小児入院医療管理料 1</td> <td>32,409,740 円</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>13,538,000 円</td> <td>18,871,740 円</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度実績	実施件数	3,887 件	—	—	2,950 件	937 件	稼働額	13,022,150 円	—	—	9,949,850 円	3,072,300 円	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度実績	実施件数	16,065 件	—	—	15,261 件	804 件	稼働額	17,250,400 円	—	—	16,269,000 円	981,400 円	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度実績	HCU 小児入院医療管理料 1	32,409,740 円	—	—	13,538,000 円	18,871,740 円
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度実績																																															
実施件数	3,887 件	—	—	2,950 件	937 件																																															
稼働額	13,022,150 円	—	—	9,949,850 円	3,072,300 円																																															
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度実績																																															
実施件数	16,065 件	—	—	15,261 件	804 件																																															
稼働額	17,250,400 円	—	—	16,269,000 円	981,400 円																																															
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度実績																																															
HCU 小児入院医療管理料 1	32,409,740 円	—	—	13,538,000 円	18,871,740 円																																															
6	同上	本部	A	<p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から支払基金との事務打合せ会は中止となったが、企画室ニュース等を通じて本部より診療報酬加算や施設基準の取得等の情報提供を行った。</p>																																																
7	<p>【令和 3 年度に推進する事項】</p> <p>・ m-E C T（修正型電気痙攣療法）センター開設（施設改修）による治療件数</p>	駒ヶ根	A	<p>・参照（p.25-No.6）</p> <p>・ m-E C T 治療の令和 3 年度実施件数は 245 件であり、 m-E C T センター開設前の実施件数は月平均 18.6 件であったが、センター開設後は月平均 25.6 件に増加した。</p>																																																

	及び入院患者の増																																			
8	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> JACHRI（日本小児総合医療施設協議会）診療情報分析連絡会での情報交換によるDPC請求における精度の向上 	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で引き続き対面での情報交換はできなかったが、メーリングリストの活用により他病院との情報交換を請求に活かした。 おむつ料金について、5月より1日当たりの利用料金を一律に設定。対前年で件数は減少したものの前年比131.0%の収益増となった。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>33,104件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>34,655件</td> <td>95.5%</td> </tr> <tr> <td>稼働額</td> <td>8,350,520円</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>6,376,360円</td> <td>131.0%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	件数	33,104件	—	—	34,655件	95.5%	稼働額	8,350,520円	—	—	6,376,360円	131.0%													
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																															
件数	33,104件	—	—	34,655件	95.5%																															
稼働額	8,350,520円	—	—	6,376,360円	131.0%																															
9	<p>【延患者数】</p> <p>対目標比=実績/年度目標</p> <p>(単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th colspan="2">令和元年度実績</th> <th colspan="2">令和3年度目標</th> </tr> <tr> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>入院</th> <th>外来</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州</td> <td>88,942</td> <td>120,749</td> <td>78,726</td> <td>110,750</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績		令和3年度目標		入院	外来	入院	外来	信州	88,942	120,749	78,726	110,750	信州	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延患者数（入院）</td> <td>75,716人</td> <td>78,726人</td> <td>96.2%</td> <td>76,307人</td> <td>99.2%</td> </tr> <tr> <td>延患者数（外来）</td> <td>119,439人</td> <td>110,750人</td> <td>107.8%</td> <td>111,308人</td> <td>107.3%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 入院は、即応病床確保のため5月に整形外科を含む外科系手術を制限し、地域包括ケア病棟の計画的な削減運用を実施したため、患者数は大幅に減少した。7月から通常運用に戻るとおおむね計画通りとなったが、手術の制限及び病棟の削減運用が影響し、患者数は計画比及び前年度比で減少した。 外来は、前年度と比べ患者の受診が増加し、前年度比107.3%と増加した。 	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	延患者数（入院）	75,716人	78,726人	96.2%	76,307人	99.2%	延患者数（外来）	119,439人	110,750人	107.8%	111,308人	107.3%
病院名	令和元年度実績		令和3年度目標																																	
	入院	外来	入院	外来																																
信州	88,942	120,749	78,726	110,750																																
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																															
延患者数（入院）	75,716人	78,726人	96.2%	76,307人	99.2%																															
延患者数（外来）	119,439人	110,750人	107.8%	111,308人	107.3%																															
10	<p>同上</p> <p>(単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院名</th> <th colspan="2">令和元年度実績</th> <th colspan="2">令和3年度目標</th> </tr> <tr> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>入院</th> <th>外来</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駒ヶ根</td> <td>37,400</td> <td>41,189</td> <td>37,316</td> <td>38,720</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	令和元年度実績		令和3年度目標		入院	外来	入院	外来	駒ヶ根	37,400	41,189	37,316	38,720	駒ヶ根	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延患者数（入院）</td> <td>33,708人</td> <td>37,316人</td> <td>90.3%</td> <td>34,779人</td> <td>96.9%</td> </tr> <tr> <td>延患者数（外来）</td> <td>38,937人</td> <td>38,720人</td> <td>100.6%</td> <td>39,037人</td> <td>99.7%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 入院患者数は、新型コロナウイルス陽性患者受入れに伴う入院制限、退院促進の実施、アルコール依存症等の任意入院患者の減少が影響し、対計画で減少した。 	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	延患者数（入院）	33,708人	37,316人	90.3%	34,779人	96.9%	延患者数（外来）	38,937人	38,720人	100.6%	39,037人	99.7%
病院名	令和元年度実績		令和3年度目標																																	
	入院	外来	入院	外来																																
駒ヶ根	37,400	41,189	37,316	38,720																																
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																															
延患者数（入院）	33,708人	37,316人	90.3%	34,779人	96.9%																															
延患者数（外来）	38,937人	38,720人	100.6%	39,037人	99.7%																															

						・外来患者数は、新規外来患者数が増加したが、新型コロナウイルス感染拡大が影響しデイケアで減少し、概ね計画どおりとなった。																													
11	同上 (単位：人)	阿南	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">令和元年度実績</th> <th colspan="2">令和3年度目標</th> </tr> <tr> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>入院</th> <th>外来</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17,053</td> <td>46,882</td> <td>15,230</td> <td>46,440</td> </tr> </tbody> </table>	令和元年度実績		令和3年度目標		入院	外来	入院	外来	17,053	46,882	15,230	46,440	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延患者数(入院)</td> <td>15,149人</td> <td>15,230人</td> <td>99.5%</td> <td>14,680人</td> <td>103.2%</td> </tr> <tr> <td>延患者数(外来)</td> <td>53,198人</td> <td>46,440人</td> <td>114.6%</td> <td>47,565人</td> <td>111.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・入院患者は、新型コロナウイルス感染症患者の受入れと一般の受入れを両立させたことにより昨年度を上回ったが、目標には届かなかった。</p> <p>・外来患者は、天龍村への巡回診療が終了したことや、新型コロナウイルスが地域で流行したことにより診療分は減少したが、コロナウイルスワクチンの積極的実施により公衆衛生活動数が増加したため対計画・対前年度とも大きく増加した。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	延患者数(入院)	15,149人	15,230人	99.5%	14,680人	103.2%	延患者数(外来)	53,198人	46,440人	114.6%	47,565人	111.8%
令和元年度実績		令和3年度目標																																	
入院	外来	入院	外来																																
17,053	46,882	15,230	46,440																																
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																														
延患者数(入院)	15,149人	15,230人	99.5%	14,680人	103.2%																														
延患者数(外来)	53,198人	46,440人	114.6%	47,565人	111.8%																														
12	同上 (単位：人)	木曾	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">令和元年度実績</th> <th colspan="2">令和3年度目標</th> </tr> <tr> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>入院</th> <th>外来</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>43,450</td> <td>125,512</td> <td>40,620</td> <td>116,929</td> </tr> </tbody> </table>	令和元年度実績		令和3年度目標		入院	外来	入院	外来	43,450	125,512	40,620	116,929	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延患者数(入院)</td> <td>46,839人</td> <td>40,620人</td> <td>115.3%</td> <td>40,782人</td> <td>114.9%</td> </tr> <tr> <td>延患者数(外来)</td> <td>119,477人</td> <td>116,929人</td> <td>102.2%</td> <td>109,849人</td> <td>108.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・入院患者数については、令和2年度は4階病棟での入院患者受け入れ停止の期間があったことに対し、当年度は4階南病棟での入院患者受け入れができたことにより、また、令和2年度に比べて、受診控えの状況が減少したと推測され、年度目標、前年度実績を上回った。</p> <p>・外来患者数についても、入院患者数と同様、受診控えの状況が減少したと推測され、年度目標、前年度実績を上回った。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	延患者数(入院)	46,839人	40,620人	115.3%	40,782人	114.9%	延患者数(外来)	119,477人	116,929人	102.2%	109,849人	108.8%
令和元年度実績		令和3年度目標																																	
入院	外来	入院	外来																																
43,450	125,512	40,620	116,929																																
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																														
延患者数(入院)	46,839人	40,620人	115.3%	40,782人	114.9%																														
延患者数(外来)	119,477人	116,929人	102.2%	109,849人	108.8%																														
13	同上 (単位：人)	こども	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">令和元年度実績</th> <th colspan="2">令和3年度目標</th> </tr> <tr> <th>入院</th> <th>外来</th> <th>入院</th> <th>外来</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>52,647</td> <td>66,776</td> <td>51,804</td> <td>67,716</td> </tr> </tbody> </table>	令和元年度実績		令和3年度目標		入院	外来	入院	外来	52,647	66,776	51,804	67,716	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延患者数(入院)</td> <td>49,891人</td> <td>51,804人</td> <td>96.3%</td> <td>49,519人</td> <td>100.7%</td> </tr> <tr> <td>延患者数(外来)</td> <td>67,384人</td> <td>67,716人</td> <td>99.5%</td> <td>64,261人</td> <td>104.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・入院については、県内患者数が回復傾向となり対前年を上回ったが、緊急事態宣言及び蔓延防止措置</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	延患者数(入院)	49,891人	51,804人	96.3%	49,519人	100.7%	延患者数(外来)	67,384人	67,716人	99.5%	64,261人	104.8%
令和元年度実績		令和3年度目標																																	
入院	外来	入院	外来																																
52,647	66,776	51,804	67,716																																
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																														
延患者数(入院)	49,891人	51,804人	96.3%	49,519人	100.7%																														
延患者数(外来)	67,384人	67,716人	99.5%	64,261人	104.8%																														

	ども									<p>の影響を受けた県外患者数の減少等により対計画では下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来については、県内患者数が堅調に増加し対前年で3,123人増加。対計画では、緊急事態宣言及び蔓延防止措置の影響を受けた県外患者数の減少等により僅かに未達となった。 																			
14	【新患者数】 対目標比=実績/年度目標 (単位：人)					信州	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新患者数（入院）</td> <td>4,111人</td> <td>4,048人</td> <td>101.6%</td> <td>4,299人</td> <td>95.6%</td> </tr> <tr> <td>新患者数（外来）</td> <td>20,842人</td> <td>19,982人</td> <td>104.3%</td> <td>17,373人</td> <td>120.0%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・入院は、即応病床確保のための手術制限及び地域包括ケア病棟の削減運用により前年度比で減少した。 ・外来は、前年度と比べ患者の受診が増加し、新外来患者数は前年度比120.0%と増加した。 				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	新患者数（入院）	4,111人	4,048人	101.6%	4,299人	95.6%	新患者数（外来）	20,842人	19,982人	104.3%	17,373人	120.0%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																								
新患者数（入院）	4,111人	4,048人	101.6%	4,299人	95.6%																								
新患者数（外来）	20,842人	19,982人	104.3%	17,373人	120.0%																								
15	同上 (単位：人)					駒ヶ根	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新患者数（入院）</td> <td>501人</td> <td>520人</td> <td>96.3%</td> <td>519人</td> <td>96.5%</td> </tr> <tr> <td>新患者数（外来）</td> <td>1,284人</td> <td>1,100人</td> <td>116.7%</td> <td>1,099人</td> <td>116.8%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・入院の新患者数は、新型コロナウイルス陽性患者受入れに伴う入院制限、退院促進の実施が影響し、減少した。 				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	新患者数（入院）	501人	520人	96.3%	519人	96.5%	新患者数（外来）	1,284人	1,100人	116.7%	1,099人	116.8%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																								
新患者数（入院）	501人	520人	96.3%	519人	96.5%																								
新患者数（外来）	1,284人	1,100人	116.7%	1,099人	116.8%																								
16	同上 (単位：人)					阿南	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新患者数（入院）</td> <td>844人</td> <td>800人</td> <td>105.5%</td> <td>801人</td> <td>105.4%</td> </tr> <tr> <td>新患者数（外来）</td> <td>2,893人</td> <td>600人</td> <td>482.2%</td> <td>504人</td> <td>574.0%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・新患者数は、入院患者の増及び平均在院日数の減により対計画及び対前年度を上回った。 				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	新患者数（入院）	844人	800人	105.5%	801人	105.4%	新患者数（外来）	2,893人	600人	482.2%	504人	574.0%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																								
新患者数（入院）	844人	800人	105.5%	801人	105.4%																								
新患者数（外来）	2,893人	600人	482.2%	504人	574.0%																								

17	同上 (単位：人)				木曾	A							
	病院名	令和元年度実績		令和3年度目標			項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	
		入院	外来	入院			外来	新患者数(入院)	2,414人	2,304人	104.8%	2,171人	111.2%
	木曾	2,473	8,225	2,304			6,948	新患者数(外来)	7,324人	6,948人	104.9%	6,100人	120.1%
18	同上 (単位：人)				こども	B							
	病院名	令和元年度実績		令和3年度目標			項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	
		入院	外来	入院			外来	新患者数(入院)	3,840人	3,968人	96.7%	3,744人	102.5%
	こども	4,032	4,087	3,968			4,145	新患者数(外来)	3,777人	4,145人	91.1%	3,578人	105.5%
19	【1人1日当たり診療単価】 対目標比=実績/年度目標 (税抜、単位：円)				信州	A							
	病院名	令和元年度実績		令和3年度目標			項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	
		入院	外来	入院			外来	診療単価(入院)	51,132円	45,073円	113.4%	49,596円	103.1%
	信州	43,549	14,887	45,073			18,421	診療単価(外来)	16,020円	18,421円	87.0%	16,096円	99.5%
							<ul style="list-style-type: none"> 入院は、重症度、医療・看護必要度を維持したことや、新型コロナウイルス感染症中等症患者の受入れの増加や臨時的取扱いの救急医療管理加算(中等症以上)の算定などにより上昇した。 外来は、行政検査の増加などにより計画を下回った。 						

20	同上 (税抜、単位：円)				駒ヶ根	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療単価 (入院)</td> <td>28,075 円</td> <td>27,500 円</td> <td>102.1%</td> <td>28,258 円</td> <td>99.4%</td> </tr> <tr> <td>診療単価 (外来)</td> <td>6,847 円</td> <td>6,920 円</td> <td>98.9%</td> <td>7,029 円</td> <td>97.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・診療単価の高い児童精神科病棟及び医療観察法ユニットの高稼働により、入院診療単価は計画を上回った。</p> <p>・新型コロナウイルス感染拡大のため、デイケアを昼食なしのショートケアに切り替えたことにより全体で単価が減少した。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	診療単価 (入院)	28,075 円	27,500 円	102.1%	28,258 円	99.4%	診療単価 (外来)	6,847 円	6,920 円	98.9%	7,029 円	97.4%
	項目	実績	年度目標	対目標比			前年度実績	対前年度比																						
診療単価 (入院)	28,075 円	27,500 円	102.1%	28,258 円	99.4%																									
診療単価 (外来)	6,847 円	6,920 円	98.9%	7,029 円	97.4%																									
	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																											
		入院	外来	入院	外来																									
	駒ヶ根	27,432	6,986	27,500	6,920																									
21	同上 (税抜、単位：円)				阿南	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療単価 (入院)</td> <td>32,888 円</td> <td>32,305 円</td> <td>101.8%</td> <td>29,671 円</td> <td>110.8%</td> </tr> <tr> <td>診療単価 (外来)</td> <td>6,849 円</td> <td>7,788 円</td> <td>87.9%</td> <td>8,972 円</td> <td>76.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・入院単価は、急性期看護補助体制加算を始めとした各種加算の取得や、手術件数の増加、包括ケア病床の開設により一般病床の単価が増加したことにより、対目標対前年とも大きく増加した。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	診療単価 (入院)	32,888 円	32,305 円	101.8%	29,671 円	110.8%	診療単価 (外来)	6,849 円	7,788 円	87.9%	8,972 円	76.3%
	項目	実績	年度目標	対目標比			前年度実績	対前年度比																						
診療単価 (入院)	32,888 円	32,305 円	101.8%	29,671 円	110.8%																									
診療単価 (外来)	6,849 円	7,788 円	87.9%	8,972 円	76.3%																									
	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																											
		入院	外来	入院	外来																									
	阿南	28,292	8,065	32,305	7,788																									
22	同上 (税抜、単位：円)				木曾	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療単価 (入院)</td> <td>36,204 円</td> <td>36,398 円</td> <td>99.4%</td> <td>36,326 円</td> <td>99.7%</td> </tr> <tr> <td>診療単価 (外来)</td> <td>11,909 円</td> <td>12,475 円</td> <td>95.5%</td> <td>11,664 円</td> <td>102.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・入院については、DPC 入院期間Ⅱ、Ⅲを意識したベッドコントロールに努めた。</p> <p>・外来については、既存加算の算定件数の増加に努めた結果、前年度値を上回った。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	診療単価 (入院)	36,204 円	36,398 円	99.4%	36,326 円	99.7%	診療単価 (外来)	11,909 円	12,475 円	95.5%	11,664 円	102.1%
	項目	実績	年度目標	対目標比			前年度実績	対前年度比																						
診療単価 (入院)	36,204 円	36,398 円	99.4%	36,326 円	99.7%																									
診療単価 (外来)	11,909 円	12,475 円	95.5%	11,664 円	102.1%																									
	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																											
		入院	外来	入院	外来																									
	木曾	37,481	10,631	36,398	12,475																									

23	同上 (税抜、単位：円)				こ ど も	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療単価 (入院)</td> <td>104,758 円</td> <td>105,355 円</td> <td>99.4%</td> <td>105,847 円</td> <td>99.0%</td> </tr> <tr> <td>診療単価 (外来)</td> <td>12,945 円</td> <td>13,410 円</td> <td>96.5%</td> <td>13,081 円</td> <td>99.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・入院診療単価は、県外患者及び手術数の減、先天性心疾患の新生児等高稼働となる患者数が減少したことから計画及び前年度実績を下回った。</p> <p>・外来診療単価は、県外患者の減少が影響し計画及び前年度実績を下回った</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	診療単価 (入院)	104,758 円	105,355 円	99.4%	105,847 円	99.0%	診療単価 (外来)	12,945 円	13,410 円	96.5%	13,081 円	99.0%
	項目	実績	年度目標	対目標比			前年度実績	対前年度比																						
診療単価 (入院)	104,758 円	105,355 円	99.4%	105,847 円	99.0%																									
診療単価 (外来)	12,945 円	13,410 円	96.5%	13,081 円	99.0%																									
	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																											
	入院	外来	入院	外来																										
	こども	103,346	13,135	109,055	13,340																									
24	【平均在院日数】 対目標比=実績/年度目標 (単位：日)				信 州	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>14.8 日</td> <td>16.9 日</td> <td>87.6%</td> <td>13.8 日</td> <td>107.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・即応病床確保のための手術制限及び地域包括ケア病棟の削減運用の影響により、在院日数は変動している。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	平均在院日数	14.8 日	16.9 日	87.6%	13.8 日	107.2%						
	項目	実績	年度目標	対目標比			前年度実績	対前年度比																						
平均在院日数	14.8 日	16.9 日	87.6%	13.8 日	107.2%																									
	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																											
	信州	15.4	16.9																											
25	同上 (単位：日)				駒 ヶ 根	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>64.6 日</td> <td>70.0 日</td> <td>92.3%</td> <td>67.5 日</td> <td>95.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・新型コロナウイルス感染患者受入れに備え、空床確保による早期退院の促進のため平均在院日数は短縮した。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	平均在院日数	64.6 日	70.0 日	92.3%	67.5 日	95.7%						
	項目	実績	年度目標	対目標比			前年度実績	対前年度比																						
平均在院日数	64.6 日	70.0 日	92.3%	67.5 日	95.7%																									
	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																											
	駒ヶ根	70.7	70.0																											
26	同上 (単位：日)				阿 南	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>16.0 日</td> <td>21.0 日</td> <td>76.2%</td> <td>18.3 日</td> <td>87.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・患者数の減少や入院期間が比較的短い新型コロナウイルス感染症患者の多数受入れなどにより、短縮傾向となった。</p>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	平均在院日数	16.0 日	21.0 日	76.2%	18.3 日	87.4%						
	項目	実績	年度目標	対目標比			前年度実績	対前年度比																						
平均在院日数	16.0 日	21.0 日	76.2%	18.3 日	87.4%																									
	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																											
	阿南	19.9	21.0																											

27	同上 (単位：日)		木曾	B							
	病院名	令和元年度実績			令和3年度目標	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	木曾	17.5			14.1	平均在院日数	16.0日	14.1日	113.5%	15.9日	100.6%
					<p>・急性期病棟と地域包括ケア病棟、介護医療院、介護老人保健施設とで連携し、長期入院になりそうな患者等について早期に対応した。</p>						
28	同上 (単位：日)		こども	B							
	病院名	令和元年度実績			令和3年度目標	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	こども	12.3			12.1	平均在院日数	12.6日	12.1日	104.1%	13.2日	95.5%
					<p>・新入院患者数及び新退院患者数の減により対計画で平均在院日数が増加した。</p>						
29	【病床利用率】		信州	B							
	※対目標比=実績/年度目標										
	(単位：%)				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	
	病院名	令和元年度実績			令和3年度目標	病床利用率	70.0%	74.6%	93.8%	68.7%	101.9%
信州		79.9	74.6	<p>・即応病床確保のための手術制限及び地域包括ケア病棟の削減運用により、病床利用率は計画比で減少した。</p>							
(注1) 信州医療センターは、運用病床 (平成30年12月から215床) での利用率											
※地域包括ケア病床 (平成31年1月から49床)、結核病床 (24床) 及び感染症病床 (4床) は除く											
30	同上 (単位：%)		駒ヶ根	B							
	病院名	令和元年度実績			令和3年度目標	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	駒ヶ根	78.1			78.1	病床利用率	70.5%	78.1%	90.3%	72.8%	96.8%
					<p>・新型コロナウイルス感染患者受入れのための空床確保や陽性患者等の受入れにより、依存症等の任意</p>						

	(注2) こころの医療センター駒ヶ根は、許可病床 129 床での利用率			入院患者数が減少し、病床利用率は低下した。																							
31	同上 (単位：%) <table border="1"> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> <tr> <td>阿南</td> <td>57.4</td> <td>59.6</td> </tr> </table> (注3) 阿南病院は、運用病床(平成25年6月から新病棟85床、平成31年1月から77床、令和2年4月から70床)での利用率	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標	阿南	57.4	59.6	阿南	B	<table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>56.0%</td> <td>59.6%</td> <td>93.9%</td> <td>54.3%</td> <td>103.1%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・目標には達しなかったが、新型コロナウイルス感染症の受入れと一般入院の受入れを並行したことにより前年度比は増加した。 						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	病床利用率	56.0%	59.6%	93.9%	54.3%	103.1%
病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																									
阿南	57.4	59.6																									
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																						
病床利用率	56.0%	59.6%	93.9%	54.3%	103.1%																						
32	同上 (単位：%) <table border="1"> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> <tr> <td>木曾</td> <td>69.4</td> <td>58.2</td> </tr> </table> (注4) 木曾病院は、運用病床(令和2年3月から151床)での利用率	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標	木曾	69.4	58.2	木曾	S	<table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>70.3%</td> <td>58.2%</td> <td>120.8%</td> <td>61.2%</td> <td>114.9%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者数が増加したことや、適切なベッドコントロールに努めたことにより、目標を上回ることができた。 						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	病床利用率	70.3%	58.2%	120.8%	61.2%	114.9%
病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																									
木曾	69.4	58.2																									
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																						
病床利用率	70.3%	58.2%	120.8%	61.2%	114.9%																						
33	同上 (単位：%) <table border="1"> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>73.1</td> <td>71.9</td> </tr> </table> (注5) こども病院は、運用病床(平成25年10月から180床)での利用率	病院名	令和元年度実績	令和3年度目標	こども	73.1	71.9	こども	B	<table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>70.1%</td> <td>71.9%</td> <td>97.5%</td> <td>69.2%</td> <td>101.3%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・県内一般小児患者数は回復傾向となり対前年を上回ったが、緊急事態宣言及び蔓延防止措置の影響を受けた県外患者数減少等により対計画では未達となった。 						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	病床利用率	70.1%	71.9%	97.5%	69.2%	101.3%
病院名	令和元年度実績	令和3年度目標																									
こども	73.1	71.9																									
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																						
病床利用率	70.1%	71.9%	97.5%	69.2%	101.3%																						

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

2 経営基盤の強化

(2) 費用の抑制

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい運営状況ではあったが、引き続き、組織が一体となって必要な経営改善に取り組んだ。機構全体では、本部事務局及び各病院が連携し、薬品費・医療材料費の価格交渉を実施したことにより、大幅な経費削減を実現した。また、各病院においても経費削減のための取組みを実施した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第3 2(2) 1	診療材料や医薬品等の適切な管理により、コスト削減に努めるとともに、経営状況の分析を随時行い、費用対効果を意識した業務改善に積極的に取り組む。	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> 診療材料について、本部事務局と当院医師も参加した多職種による価格交渉を実施し、令和3年度は13,248千円の費用削減を達成した。 「収益増加・費用削減に関するプロジェクトチーム」で策定した「信州医療センター版SDGs」により引き続き経営改善に対する取組に努めた。 本部主導で実施した医薬品の価格交渉に参加。令和3年度は7,234千円の削減を達成した。

2	同上	駒ヶ根	A	<p>・セクションごと目標値（昨年比2割減）を設定し超過勤務手当を縮減</p> <p>【超過勤務手当の縮減額（令和3年11月から令和4年3月）】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>超過勤務手当</td> <td>7,512,712円</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>14,762,409円</td> <td>50.9%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	超過勤務手当	7,512,712円	—	—	14,762,409円	50.9%
				項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比												
				超過勤務手当	7,512,712円	—	—	14,762,409円	50.9%												
3	同上	阿南	A	<p>・光熱水費の執行状況の周知、照明のLED化による省エネ対策を計画的に実施した。</p> <p>・事務部内で経費削減の取組みを開始し、病院敷地の借上げ方法の見直し、老朽化した医師住宅の解体撤去を実施した。</p>																	
4	同上	木曾	A	<p>・コンサルタントを活用した診療材料価格交渉を実施。</p> <p>・毎月の経費削減額を事務室内に掲示し、見える化及び意識化を進めた。</p> <p>・光熱水費の推移と分析を運営委員会で周知し、省エネを働きかけた。</p>																	
5	同上	こども	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>削減額（実績）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療材料費（薬品費除く）</td> <td>21,389,442円</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>574,616円</td> </tr> <tr> <td>給食材料費</td> <td>797,095円</td> </tr> <tr> <td>修繕費</td> <td>463,045円</td> </tr> <tr> <td>委託費</td> <td>14,875,820円</td> </tr> </tbody> </table>						項目	削減額（実績）	診療材料費（薬品費除く）	21,389,442円	消耗品費	574,616円	給食材料費	797,095円	修繕費	463,045円	委託費	14,875,820円
				項目	削減額（実績）																
				診療材料費（薬品費除く）	21,389,442円																
				消耗品費	574,616円																
				給食材料費	797,095円																
				修繕費	463,045円																
				委託費	14,875,820円																
<p>・診療材料については同種同等品への積極的な切り替えを実施し購入金額の削減に努めた。委託料については、仕様書の内容を再確認の上価格交渉を実施し、契約金額の削減に取り組んだ。修繕については、修繕内容（材質変更、工程変更等）を精査することで、コスト削減を図った。</p>																					

6	<p>同上</p> <p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院と機構本部が連携した卸業者又はメーカーとの価格交渉の実施等による医薬品費及び診療材料費の削減 ・一般競争入札による電力一括契約の実施 	本部	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品費の削減 コンサルタント、各病院の薬剤部長等と連携した医薬品の価格交渉を行い、4月1日及び10月1日に遡って交渉後単価を適用し、医薬品費を18,962千円（合計金額）削減 【遡及額】 (税抜：千円) <table border="1" data-bbox="958 395 2049 491"> <tr> <td>信州</td> <td>駒ヶ根</td> <td>阿南</td> <td>木曾</td> <td>こども</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>6,577</td> <td>718</td> <td>1,134</td> <td>6,926</td> <td>3,607</td> <td>18,962</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・医療材料費の削減 信州医療センター及び木曾病院において、コンサルタントを交えた価格交渉を実施し、昨年度実績ベースで医療材料費を28,870千円（合計金額）削減 (税抜：千円) <table border="1" data-bbox="958 730 1684 826"> <tr> <td>信州</td> <td>木曾</td> </tr> <tr> <td>13,248</td> <td>15,622</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・新電力会社の経営不振、主要電力会社のカルテル報道、こども病院の増築による電気使用量が算定できない状況等を考慮し、先行きが不透明であり本来予定していた削減額を得られないと判断し、入札を中止 	信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	合計	6,577	718	1,134	6,926	3,607	18,962	信州	木曾	13,248	15,622
信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	合計														
6,577	718	1,134	6,926	3,607	18,962														
信州	木曾																		
13,248	15,622																		
7	<p>【令和3年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿南町と連携し、病院敷地等の借地の集約化により賃貸費用を抑制 	阿南	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿南町と連携し、病院敷地等の借地を集約化し賃貸費用の抑制を図るため、阿南町と検討を開始 																

8	【医療材料費／医業収益比率】 ※対目標比＝実績／年度目標 (税抜、単位：%)		信州	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療材料費／ 医業収益比率</td> <td>28.8%</td> <td>28.0%</td> <td>102.9%</td> <td>28.9%</td> <td>99.7%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医療材料費／ 医業収益比率	28.8%	28.0%	102.9%	28.9%	99.7%
	項目	実績			年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比														
医療材料費／ 医業収益比率	28.8%	28.0%	102.9%	28.9%	99.7%																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和3年度 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州</td> <td>28.5</td> <td>28.0</td> </tr> </tbody> </table>		病院名	令和元年度 実績	令和3年度 目標	信州	28.5	28.0	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ抗原定量検査へのシフトにより検査試薬の購入増加となった。 ・診療材料費について、メーカー及び卸業者と医師を含めた病院職員とで価格交渉を実施し、年間13,248千円の削減の成果が得られた。 ・年度目標に対しては到達しなかったが、前年度実績に対しては改善した。 														
病院名	令和元年度 実績	令和3年度 目標																				
信州	28.5	28.0																				
9	同上 (税抜、単位：%)		駒ヶ根	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療材料費／ 医業収益比率</td> <td>5.8%</td> <td>6.2%</td> <td>93.5%</td> <td>6.4%</td> <td>90.6%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医療材料費／ 医業収益比率	5.8%	6.2%	93.5%	6.4%	90.6%
	項目	実績			年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比														
医療材料費／ 医業収益比率	5.8%	6.2%	93.5%	6.4%	90.6%																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和3年度 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駒ヶ根</td> <td>8.9</td> <td>6.2</td> </tr> </tbody> </table>		病院名	令和元年度 実績	令和3年度 目標	駒ヶ根	8.9	6.2	<ul style="list-style-type: none"> ・PCR検査機器の導入等により検査試薬の購入が増加したが、診療材料の購入費用の削減に努め、比率は改善した。 														
病院名	令和元年度 実績	令和3年度 目標																				
駒ヶ根	8.9	6.2																				
10	同上 (税抜、単位：%)		阿南	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療材料費／ 医業収益比率</td> <td>13.7%</td> <td>16.6%</td> <td>82.5%</td> <td>16.4%</td> <td>83.5%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医療材料費／ 医業収益比率	13.7%	16.6%	82.5%	16.4%	83.5%
	項目	実績			年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比														
医療材料費／ 医業収益比率	13.7%	16.6%	82.5%	16.4%	83.5%																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和3年度 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阿南</td> <td>17.7</td> <td>16.6</td> </tr> </tbody> </table>		病院名	令和元年度 実績	令和3年度 目標	阿南	17.7	16.6	<ul style="list-style-type: none"> ・医業収益の増に加え、天龍村診療所への医師派遣および薬品購入が終了したことにより、対目標比、対前年度比ともに減少した。 														
病院名	令和元年度 実績	令和3年度 目標																				
阿南	17.7	16.6																				
11	同上 (税抜、単位：%)		木曾	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療材料費／ 医業収益比率</td> <td>21.7%</td> <td>22.2%</td> <td>97.7%</td> <td>26.4%</td> <td>82.2%</td> </tr> </tbody> </table>						項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医療材料費／ 医業収益比率	21.7%	22.2%	97.7%	26.4%	82.2%
	項目	実績			年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比														
医療材料費／ 医業収益比率	21.7%	22.2%	97.7%	26.4%	82.2%																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和3年度 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木曾</td> <td>22.2</td> <td>22.2</td> </tr> </tbody> </table>		病院名	令和元年度 実績	令和3年度 目標	木曾	22.2	22.2	<ul style="list-style-type: none"> ・患者数が増加したことにより、材料費、医業収益ともに増加し、比率では前年度実績を 														
病院名	令和元年度 実績	令和3年度 目標																				
木曾	22.2	22.2																				

					上回ることができたが、年度目標は下回った。											
12	同上 (税抜、単位：%)	こども	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療材料費／ 医業収益比率</td> <td>21.7%</td> <td>22.4%</td> <td>96.8%</td> <td>23.4%</td> <td>92.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・購入費用の削減に積極的に取り組み、前年同期より医業収益も増加したことにより比率は改善された。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	医療材料費／ 医業収益比率	21.7%	22.4%	96.8%	23.4%	92.7%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
医療材料費／ 医業収益比率	21.7%	22.4%	96.8%	23.4%	92.7%											
13	【ジェネリック医薬品使用割合（院内）】 ※対目標比＝実績/年度目標 (単位：%)	信州	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ジェネリック医薬品使用割合（院内）</td> <td>89.8%</td> <td>88.0%</td> <td>102.0%</td> <td>90.5%</td> <td>99.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・製薬会社からの供給停止等、安定的な調達ができない医薬品があり、先発品に切り替えざるを得ないものがあったが、目標は達成した。今後、後発医薬品使用体制加算1の算定に向けて努めたい。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	ジェネリック医薬品使用割合（院内）	89.8%	88.0%	102.0%	90.5%	99.2%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
ジェネリック医薬品使用割合（院内）	89.8%	88.0%	102.0%	90.5%	99.2%											
14	同上 (単位：%)	駒ヶ根	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ジェネリック医薬品使用割合（院内）</td> <td>95.7%</td> <td>85.0%</td> <td>112.6%</td> <td>90.1%</td> <td>106.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・薬事委員会等において、使用数量の多い薬剤を中心にジェネリック医薬品への切り替えを推進した。</p>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	ジェネリック医薬品使用割合（院内）	95.7%	85.0%	112.6%	90.1%	106.2%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
ジェネリック医薬品使用割合（院内）	95.7%	85.0%	112.6%	90.1%	106.2%											
15	同上 (単位：%)	阿南	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ジェネリック医薬</td> <td>86.1%</td> <td>86.5%</td> <td>99.5%</td> <td>86.0%</td> <td>100.1%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	ジェネリック医薬	86.1%	86.5%	99.5%	86.0%	100.1%
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比											
ジェネリック医薬	86.1%	86.5%	99.5%	86.0%	100.1%											

				品使用割合（院内）							
				<ul style="list-style-type: none"> ジェネリック医薬品の供給問題により入手困難な後発品6品目について先発品に戻した上で、ジェネリック医薬品の採用は362品目と前年から20品目の増。後発医薬品使用率については月により85%を下回る場合があります加算Ⅱとなった。 							
16	同上 (単位：%)			木 曾	A						
	病院名	令和元年度 実績	令和3年度 目標			項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	木 曾	81.9	85.0			ジェネリック医薬 品使用割合（院内）	91.4%	85.0%	107.5%	84.9%	107.7%
					<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度後半より切替えを強力に推進し目標の85%を大きく超え90%以上の使用割合を継続している。令和4年度より後発医薬品使用体制加算1の要件が85%→90%に上昇したが、引き続き算定要件はクリアできた。 						
17	同上 (単位：%)			こ ど も	A						
	病院名	令和元年度 実績	令和3年度 目標			項 目	実 績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比
	こども	88.6	90.0			ジェネリック医薬 品使用割合（院内）	92.1%	90.0%	102.3%	89.5%	102.9%
					<ul style="list-style-type: none"> 8月より後発医薬品使用体制加算の算定を開始した。 (DPC機能評価係数 0.0014 加算額年間約133万円) 						

第4 その他業務運営に関する事項

1 コンプライアンスの推進と適切な情報管理

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

機構本部と各病院等が連携し、全職員を対象としたコンプライアンスに関する研修を実施した。

また、県の個人情報保護条例及び情報公開条例に基づき適切な情報管理を行うとともに、情報セキュリティ及び個人情報保護に関する研修を実施し、個人情報の適切な取扱いを推進した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第4 1 1	<p>各種研修会等の開催により、法人内のコンプライアンス（法令等を遵守するとともに社会規範を尊重して行動すること）の強化を図るとともに、内部統制委員会及びリスク管理委員会の活動を通じてリスク等の特定と評価及び対応を行い適切な業務運営を図る。</p> <p>長野県個人情報保護条例や長野県情報公開条例等に基づき、保有する個人情報の適切な情報管理と情報セキュリティ対策を講じるととも</p>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新任職員へのオリエンテーションにおいて、個人情報の取扱いや情報セキュリティについての研修を実施した。 ・全職員を対象に情報セキュリティ研修を実施し、職員の知識及び意識の向上を図った。また、受講後に確認テストを実施した。

	に、定期的な研修会等により、職員の理解を深める。			
2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員、転入職員へのオリエンテーションで個人情報の適正な取扱い、情報基盤ネットワークの適切な運用及び情報セキュリティに関する知識の習得を図るため研修を実施した。 ・情報セキュリティ研修を委託職員含め119人が受講し、職員の情報セキュリティに関する意識の向上を図った。
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員、転入職員へのオリエンテーションで個人情報の適正な取扱い、情報基盤ネットワークの適切な運用及び情報セキュリティに関する知識の習得を図るため研修を実施した。 ・情報セキュリティ研修を委託職員含め160人が受講し、職員の情報セキュリティに関する意識の向上を図った。
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員、転入職員へのオリエンテーションで情報漏えいリスク及びその対策、個人情報の適正な管理等について説明した。 ・9月に機構本部主催の情報セキュリティ研修（eラーニング）を実施した。
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に新規入職者へのオリエンテーションにおいて、個人情報保護及び医療情報の取り扱いについての研修を行った。 ・9月に、機構本部主催の情報セキュリティ及び個人情報保護の研修会をナーシング・スキルを利用し、全職員に実施した。 ・電子カルテ内の個人情報の取り出しについては「Smooth File」による管理システムを導入した。これにより患者データの取り出し申請には、上司の承認が必要となることで個人情報漏洩については部門内での管理も可能となった。
6	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本部と連携し、コンプライアンスに係る特別授業を実施。教員も一緒に受講した。 ・実習に先立ち、患者情報の管理について注意を喚起した。

		看								
7	同上	本 部	A	<ul style="list-style-type: none"> ・病院等を対象とし、「有形固定資産（備品）の管理状況」について、担当者等からの聞き取り及び現場確認による内部監査を実施 ・コンプライアンス研修の実施により、職員の意識を向上 						
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>内 容</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンプライアンス研修</td> <td>コンプライアンス（業務上知りえた秘密の漏洩及び不正閲覧）、パワーハラスメント</td> <td>10～12月実施予定 eラーニング活用</td> </tr> </tbody> </table>	名 称	内 容	備 考	コンプライアンス研修	コンプライアンス（業務上知りえた秘密の漏洩及び不正閲覧）、パワーハラスメント	10～12月実施予定 eラーニング活用
名 称	内 容	備 考								
コンプライアンス研修	コンプライアンス（業務上知りえた秘密の漏洩及び不正閲覧）、パワーハラスメント	10～12月実施予定 eラーニング活用								

第4 その他業務運営に関する事項

2 施設整備及び医療機器に関する事項

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

医療機器については、新型コロナウイルス感染症対応のための検査機器等必要な機器が増加したが、各病院の医療機器購入検討委員会等や高額機器については機構全体の医療技術部長らで構成する医療器械等審査部会で検討を行い、適正な購入に努めた。また、新型コロナウイルス感染症対応に係る機器については、積極的に補助金を活用した。

また、施設改修についても引き続き医療需要や費用対効果を勘案し計画的に実施した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第4 2 1	<p>地域の医療需要や費用対効果等を総合的に勘案し、中長期的な視野に立って、施設及び医療機器の整備を計画的に実施する。</p> <p>相当の年数が経過した施設については、長寿命化を図るために必要な大規模改修を、県と連携して進める。</p> <p>【施設及び設備の整備に関する計画】</p>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> 耐用年数を超過した設備及び医療機器について計画的に更新を図った。 新型コロナウイルス関連の補助金を利用し、超音波診断装置や透析装置等を整備し指定感染症医療機関としての機能向上に努めた。 <p>(補助金で整備した主な設備) 超音波診断装置3台、透析装置、除細動器、分娩監視装置2台、保育器、気管支鏡2台、セントラルモニタ、ベッドサイドモニタ7台 等</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下の設備について令和3年度中に改修を完了した。 <p>※中央監視システム、エレベーター2台、空調設備、PMACエアコン</p>

	施設・設備の内容	予定額	財源			
	施設及び医療機器等整備	総額 2,734 百万円	長野県長期借入金等			施設等の整備に当たっては、県の気候非常事態宣言を踏まえ、二酸化炭素（CO ₂ ）排出量の削減に取り組む。
2	同上			駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器等の購入要望に対し、「医療器械・備品等購入検討表」より内容を精査し、保守点検可能な機器の先送りを含め、購入の優先順位を決定した。 ・患者の利便性及び収益向上を図るため、m-E C Tセンター化工事に着手し、令和3年12月竣工、令和4年1月に開設した。
3	同上			阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・安全キャビネットを更新し、新型コロナウイルス感染症に関連する検査数増加に対応 ・移動式の超音波診断装置を導入し、ベッドサイド等での検査に対応 ・訪問リハビリの件数増に対応し、リハビリテーション科訪問用車両を更新
4	同上			木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・第3期中期計画に基づき、優先度を考慮しながら「電気室電源設置」「脳神経内科診療室設置」「相談室エアコン整備」「厨房設備の整備」「第二医師住宅量水器取替」「医療ガス供給設備更新」「給水設備の更新工事」「サーバー室改修工事」「1階北通用口改修工事」を行った。
5	同上			こども	A	<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化して不具合が生じている南棟のナースコールシステムの更新を行った。（令和4年3月31日完成） ・照明をLEDに随時交換しているが、原油価格高騰の影響もあり更なる省エネに向け調査中。 ・翌年度分の医療機器の購入について、76品目の購入希望に対して、院長ヒアリングを行うとともに、医療機器等購入委員会において必要性及び緊急性を精査し、56品目に絞り込みを行った。

				<ul style="list-style-type: none"> ・高額医療機器については、計画的に購入するため、今後5年間の計画を作成した。 ・新型コロナウイルス感染症患者の受入体制強化のため、新型コロナウイルス関連補助金を活用し、超音波診断装置、生体情報モニタ、分娩監視装置、保育器、全自動遺伝子解析装置、人工呼吸器、CT撮影装置、血液浄化装置を購入した。
6	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> ・機構全体の施設及び医療機器等整備については、予定総額2,734百万円のところ、新型コロナウイルス感染症対応のため翌年度に工期を延長した施設改修等があり、2,169百万円となった。 ・1件あたり300万円以上の医療機器等の購入については、各病院の医療技術部長と事務部担当者による医療器械等審査部会を開催し、機構全体で検討を行った。 開催回数：6回（臨時開催含む） 審査件数：28件（うち、新型コロナ関係4件） ・将来の病院改築に向けて、長期資金計画を含めた関係者（本部、木曽病院、こども病院、県医療政策課）による検討を11月から開始した。

第4 その他業務運営に関する事項

3 コロナ禍で取組む事項

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

各病院、信州木曾看護専門学校、本部事務局及び本部研修センターでは、インターネットを活用したオンライン会議等を実施した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第4 3 1	<p>新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえ、以下の取組を行う。</p> <p>【取組の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電話による再診及び処方の実施（各病院） オンライン面会の実施（同上） 医学生へのオンライン病院説明会の実施 外来診療におけるAI問診サポートの活用 オンラインによる会議及び打ち合わせ等の実施（機構全体） 時差勤務及び在宅勤務の推進（同上） 	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> 電話による再診及び処方は125件（前年比34.8%）実施した。件数は減少したが継続的に実施している。 医学生へのオンライン説明会を5回実施し、計235人が視聴した。うち、4人が病院見学、2人が病院実習へとつなげることができた。 オンライン面会は55回実施した。感染症病棟だけでなく、ICU、地域包括ケア病棟での退院カンファレンスやリハビリなどで活用した。

2	<p>同上</p> <p>【取組の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話による再診及び処方の実施（各病院） ・オンライン面会の実施（同上） ・体育館を利用したデイケアの実施 ・オンラインによる会議及び打ち合わせ等の実施（機構全体） ・時差勤務及び在宅勤務の推進（同上） 	駒ヶ根	A	・参照（p.19-No.2）
3	<p>同上</p> <p>【取組の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話による再診及び処方の実施（各病院） ・オンライン面会の実施（同上） ・オンラインによる会議及び打ち合わせ等の実施（機構全体） ・時差勤務及び在宅勤務の推進（同上） 	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン面会を16件実施。面会者宅と病棟を繋ぐ形式の他、面会者に出向いてもらい病院1階と病棟を繋ぐ形式でも実施 ・Zoomの有料プランを契約し、長時間のWeb会議を主催できる体制を構築
4	<p>同上</p> <p>【取組の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話による再診及び処方の実施（各病院） ・オンライン面会の実施（同上） ・外来診療におけるA I問診サポートの活用 ・院内のW i F i 環境の効果的な活用を推進 ・書面会議及びグループメールの活用 ・オンラインによる会議及び打ち合わせ等の実施（機構全体） ・時差勤務及び在宅勤務の推進（同上） 	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> ・電話による再診及び処方について、フローを作成しいつでも実施できる体制を整えた。 ・各病棟・介護医療院・老健施設において、オンライン面会を実施している。 ・外来診療（内科）において実施している。今後は発熱外来及び救急外来での実施を検討している。 ・院内の無線通信環境を整備し、医療従事者間の情報共有を推進した。 ・有料のWeb会議システム（Zoom）を契約し、長時間の会議の主催が可能となる体制を整えた。

5	<p>同上</p> <p>【取組の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話による再診及び処方の実施（各病院） ・オンライン面会の実施（同上） ・オンライン面会システムの拡充 ・オンラインによる会議及び打ち合わせ等の実施（機構全体） ・時差勤務及び在宅勤務の推進（同上） 	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参照（p.98-No.5） ・来院の必要が無い患者に対する電話診療による処方箋の発行について診療体制を継続し、外来担当医師が利用。 <table border="1" data-bbox="958 331 2056 427"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>年度目標</th> <th>対目標比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電話診療実施件数</td> <td>271件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>125件</td> <td>216.8%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・面会制限で患児と面会できない家族のためのオンライン面会システムについて、セキュリティ対策に配慮したシステム構築を行い、12月から運用を開始した。 ・オンライン会議が多く開催される中、様々な形態の会議が円滑に実施できるようにWEB会議用機器を整備した。 	項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比	電話診療実施件数	271件	—	—	125件	216.8%								
項目	実績	年度目標	対目標比	前年度実績	対前年度比																		
電話診療実施件数	271件	—	—	125件	216.8%																		
6	<p>同上</p> <p>【取組の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業の体制整備（看護学校） ・オンラインによる会議及び打ち合わせ等の実施（機構全体） ・時差勤務及び在宅勤務の推進（同上） 	木曾看	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業に対応するため、各学年のホームルーム及び校長室にランケーブルを敷設した。また、パソコン1台及びタブレット4台を新たに確保した。（看護学校） 																				
7	<p>同上</p> <p>【取組の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによる研修の実施（研修セ） ・オンラインによる会議及び打ち合わせ等の実施（機構全体） ・時差勤務及び在宅勤務の推進（同上） 	本部	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによる会議及び打ち合わせ等の実施 ・採用試験その他採用活動に係るオンライン対応の実施 <p>新型コロナウイルスの感染拡大状況やワクチン接種状況を見極めながら、Webによる面接を併行して実施したほか、オンラインによる学生説明会やインターンシップを実施</p> <p>【採用試験】</p> <table border="1" data-bbox="1041 1193 2056 1385"> <thead> <tr> <th>実施区分</th> <th>実施時期</th> <th>受験人数</th> <th>Web人数</th> <th>Web実施率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤師</td> <td>4月</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>看護職（第1回）</td> <td>4、5月</td> <td>52</td> <td>7</td> <td>13.5%</td> </tr> <tr> <td>事務職（一次面接）</td> <td>5月</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>	実施区分	実施時期	受験人数	Web人数	Web実施率	薬剤師	4月	9	9	100.0%	看護職（第1回）	4、5月	52	7	13.5%	事務職（一次面接）	5月	22	22	100.0%
実施区分	実施時期	受験人数	Web人数	Web実施率																			
薬剤師	4月	9	9	100.0%																			
看護職（第1回）	4、5月	52	7	13.5%																			
事務職（一次面接）	5月	22	22	100.0%																			

事務職（二次面接）	5月	10	0	0.0%
看護職（木曾看護）	6月	9	0	0.0%
看護職（第2回）	6月	17	4	23.5%
医療技術職	6月	24	6	25.0%
看護職（第3回）	8月	17	2	11.8%

【学生向け説明会】 薬学生インターンシップフェア（8月）

【インターンシップ】 こども病院（8月、9月）

・時差勤務及び在宅勤務の推進

通勤時の「密」を回避するため、通年での時差出勤を推進（7:15～、7:30～、7:45～、8:00～）

休憩時間の分散化により、食堂、売店、洗面所等での「密」を回避

在宅勤務の実績 実施者5人 延べ31日（1/13～3/31 実施者6人 延べ37日）

県による「命と暮らしを救う集中対策期間」（9月3日～9月12日）は、事務室内の職員数を概ね5割削減できるよう、在宅勤務及び休暇取得を推進（理事長以下26名）。

（在席率）

	平均	最大	最小
午前	56.4%	65.4%	46.2%
午後	56.4%	73.1%	42.3%

・県との連携体制強化及び迅速かつ適正な医療提供体制の調整等を図るため、看護職員1人を県（感染症対策課）に派遣研修（令和3年3月1日～令和4年3月31日）

・県からの要請を受けて、長野県健康観察センターへ業務応援を実施（8月25日～9月6日）

本部事務局の看護職員5人による交代制：延べ従事日数59日

・本部事務局及び本部研修センター職員（計24人）による信州医療センター正面玄関前での検温当番（交代制）の応援（5月6日～）

			・オンラインによる職員研修の実施【再掲】		
			区 分	件 数	参加者数
			課程別・選択・専門研修	19件	689人
			シミュレーション教育指導スキルアップシリーズ	6件	56人
			シナリオブラッシュアップ講座	1件	19人